#### 平成 25 年度 博士学位論文

# ロシアにおける 1917 年までのピアノ二重奏作品研究 一全 42 作品の綜合的様式分析を中心に一

別冊 付録資料集

エリザベト音楽大学大学院 博士後期課程 音楽専攻 器楽研究領域

鹿取 裕美子

(平成22年度 博士後期課程入学)

#### 付録資料集目次

1.	チェックシート・・・・・・・・・・・・・・・・・・1	
2.	タイム・ライン・・・・・・・・・・・・・・・・7	8
3.	グロウス・プロセスシート・・・・・・・・・・・・・・2	34

※チェックシート、タイム・ライン、グロウス・プロセスシートで用いる略字については、 凡例及び第4章第1節を参照のこと。 1. チェックシート

# 1. 1829年(連弾) M. グリーンカ《騎兵隊の速歩》チェックシート

視点		No. 1	No. 2
	小節数	78小節	46小節
	拍子	4分の2拍子	4分の2拍子
L	Tempoと性格	無し	無し
	形式	3部形式	3部形式
	開始の手の位置	P. R. +P. L.	4手同時
S	特徴	垂直的な様式。	垂直的な様式。
S	1寸1以	Pが旋律、Sが伴奏を担う。	Pが旋律、Sが伴奏を担う。
Н	調性	G-dur	C-dur
п	保続音の有無	有り	無し
M	民謡、旋法、既存の旋律の借用	無し	無し
R	特徴(ヘミオラ、GP等)	ポロネーズのリズム	符点のリズム

# 2.1832年(連弾) M.グリーンカ〈ギャロップ風即興曲〉チェックシート

視点		
	小節数	350小節
	拍子	4分の2拍子
G	Tempoと性格	表記無し
G	形式	3 部形式
	タイトル	ギャロップ風即興曲
	開始の手の位置	4手同時
S	特徴	垂直的な様式。
S	可以	PとSで声部交換をする部分が見られる。
Н	調性	B-dur
П	保続音の有無	有り
M	モチーフの関連性	
M	民謡、旋法、既存の旋律の借用	楽譜冒頭にドニゼッティの『愛の妙薬』のバルカローレに基づくと明記されている。
R	特徴(へミオラ、GP等)	装飾音のついた音型の連続

#### 3. 1834年(連弾) M. グリーンカ〈ロシアの主題によるカプリッチョ〉チェックシート

視点	区分	序奏	1	2	3	4	5	6	7			
	小節数	18小節	64小節	55小節	120小節	131小節	36小節	77小節	56小節			
	拍子	4分の3拍子	4分の2拍子	4分の2拍子	4分の2拍子	4分の2拍子	2分の2拍子	4分の2拍子	2分の2拍子			
G	Tempoと性格	Andantino	Andante cantabile	Allegretto	Allegro non troppo	Fugato	Agitato amoroso, con molto passione	Un poco piu vivo	Piu mosso			
	形式	1部形式	複合2部形式	主題と3つの変奏	自由な形式	自由な形式	2つの部分	自由な形式	coda			
	タイトル		ロシアの主題によるカプリッチョ									
	開始の手の位置	S. R. +S. L.	P. R.	P. R. +P. L. +S. L.	S. R.	P. R.	4手同時	P. R. +S. R. +S. L.	P. R. +P. L. +S. L.			
	特徴	垂直的な様式。	垂直的な様式。	垂直的な様式。	垂直的な様式。	水平的な様式。	垂直的な様式。	水平的な様式。	垂直的な様式。			
S			主にPが旋律、Sが伴奏を 担う。	Pの装飾的なパッセージ が多くなる。内声にユ ニゾンの旋律を置く。	1つの声部に始まり、 次第にユニゾンで厚み を増していく。ゼクエ ンツの多用。	旋律を多声的に扱う。	旋律のフレーズの頭に 常にアクセントを置 く。ここではリズムが 強調されている。	複数の旋律を重ねて層 を形成する。	クライマックスでは分散 和音を用いて華やかにし ている。			
Н	調性	A-dur	A-dur→fis-mol1	fis-moll→A-dur	A-dur	転調	A-dur→F-dur	転調	A-dur			
н	保続音の有無	無し	無し	無し	有り	有り	有り	有り	有り			
М	モチーフの関連性				無	l						
М	民謡、旋法、既存の旋律の借用	無し	無し	無し	無し	無し	無し	無し	無し			
R	特徴(ヘミオラ、GP等)	シンコペーション	無し	付点のリズム	同じリズムを何度も繰 り返す。(オスティ ナート)	同じリズムを何度も繰 り返す。	無し	無し	シンコペーション			

# 4. 1847-8年(連弾) A. ルビンシテーイン《3つの性格的小品 op. 9》チェックシート

視点	1		2	3
	小節数	167小節	100小節	84小節
	拍子	4分の2拍子	8分の6拍子	4分の4拍子
	Tempoと性格	Allegretto	Moderato-Doppio movimento-Lento-Presto	Andante
G	形式	2部形式	3部形式	3部形式
	タイトル	ロシアの歌	水のノクターン	滝
	開始の手の位置	P. R. +P. L. +S. R.	S. L.	P. R. +S. L.
		垂直的な様式。旋律を分散和音 で伴奏しているため、重厚感は 無い。	垂直的な様式。伴奏形には和音の連打と分 散和音の部分が交互に現れる。	垂直的な様式。旋律を分散和音 で伴奏しているため、重厚感は 無い。
S	特徴	両パートともユニゾンの動きが 多い。Pは旋律、Sは伴奏を担当 し、役割は変わらない。	Sが主要な旋律を提示し、その後Pに引き継がれて発展していく。単音で始まり、次第に和音やオクターヴが加わって密度を高めていく。	Pは旋律、Sは伴奏を担当し、役割は変わらない。またPはオクターヴのユニゾンが多い。
Н	調性	g-moll	A-dur	e-mol1
П	保続音の有無	無し	無し	無し
М	モチーフの関連性		無し	
M	民謡、旋法、既存の旋律の借用	無し	無し	無し
R	特徴(ヘミオラ、GP等)	無し	<b>亅♪</b> のリズムを繰り返す。	無し

# 5. 1852年(連弾) M. グリーンカ〈ポルカ〉チェックシート

視点		
	小節数	320小節
	拍子	4分の2拍子
G	Tempoと性格	Moderato assai-Polka
G	形式	変奏形式
	タイトル	ポルカ
	開始の手の位置	P. R.
		基本的には垂直的な様式だが、所々対位法的に書かれている。
S	特徴	和絃的な伴奏型の上に様々な旋律を重ね合わせている。PとSの掛け合いが見られる。
Н	調性	B-dur
11	保続音の有無	有り
M	モチーフの関連性	
IVI	民謡、旋法、既存の旋律の借用	無し
R	特徴(ヘミオラ、GP等)	無し

# 6. 1854-8年(連弾) A. ルビンシテーイン《6つの性格的描写 op. 50》チェックシート

視点		1	2	3	4	5	6	
	小節数	62小節	117小節	97小節	247小節	106小節	183小節	
	拍子	8分の12拍子	4分の4拍子	8分の6拍子	4分の3拍子、8分の6拍 子	4分の3拍子	4分の4拍子	
G	Tempoと性格	Moderato assai	Allegro vivace	Moderato con moto	Allegro con fuoco	Moderato	Allegro	
	形式、区分	2部形式	複合2部形式	2つの部分	複合3部形式	複合3部形式	ロンド形式	
	タイトル	ノクターン	スケルツォ	舟歌	カプリッチョ	子守歌	行進曲	
	開始の手の位置	P.L. + S.R.	4手同時	S.L.	S.L.	4手同時	P.R.+S.R.+S.L.	
	特徴	垂直的な様式。	垂直的な様式。	垂直的な様式。	垂直的な様式。	垂直的な様式。	垂直的な様式。	
S		Pが旋律、Sが伴奏 を担当し、役割は 固定されている。	音を積み重ねて いき、厚い層を 形成する。	Sの厚い和音の上にP のトレモロが重なって いる。	旋律に半音階的な進 行が見られる。	Pが旋律、Sが伴 奏担当。P.L.と S.R.による16分音 符の伴奏型があ	終始密度が高 い状態を維持し ている。	
	ユニゾン	有り	無し	有り	有り	有り	有り	
	調性	E-dur	F-dur	g-moll	A-dur	h-moll	C-dur	
Н	保続音の有無	無し	有り	有り	有り	有り	有り	
	モチーフの関連性	無し						
М	民謡、旋法、既存の旋律の借用	無し						
D	    	♪♪の連続	付点のリズム	SにJ♪の連続	シンコペーション	シンコペーション	付点のリズム	
R	特徴(へミオラ、GP等)	3対4のリズム						

#### C. キュイー 1857年(連弾) 7. 〈スケルツォ 第1番 op. 1〉, 8. 〈スケルツォ 第2番 op. 2〉 チェックシート

視点		No. 1	No. 2	
	小節数	433小節	232小節	
	拍子	4分の4拍子、8分の3拍子、4分の2拍子	8分の6拍子	
	Tempoと性格	Andante	Allegro pesante	
G	形式	複合3部形式	複合3部形式	
	タイトル	スケノ	レツォ	
	開始の手の位置	S. R. +S. L.	P. L. +S. R.	
		垂直的な様式。	両方の様式。	
S	特徴	基本的にはPが旋律、Sが伴奏を担当する。Sにも 旋律が与えられている部分が多い。和音の密度 の変化がダイナミクスのコントラストを生んで いる。	和絃的な響きが中心であるが、その中で旋律を 水平に重ねて配置している。基本的にはPが旋 律、Sが伴奏を担当する。リズムの反復に加え、 次第に和音を重ねて密度を高め、響きを増して いく。	
TT	調性	F-dur	gis-moll	
Н	保続音の有無	有り	有り	
М	モチーフの関連性	無	il	
M	民謡、旋法、既存の旋律の借用	無し	無し	
R	特徴(ヘミオラ、GP等)	ヘミオラ	付点のリズム	

#### 9. 1860年(連弾) M.P.ムーソルグスキイ《ソナタ ハ長調》より第1楽章 チェックシート

視点		第1楽章		
	小節数	320小節		
	拍子	8分の6拍子		
0	Tempoと性格	Allegro assai		
G	形式	ソナタ形式		
	タイトル	ソナタ		
	開始の手の位置	S. R. +S. L.		
		両方の様式。		
S	特徴	和絃的な響きが中心であるが、その中に旋律を水平に重ねて配置している。基本的にはPが旋律、Sが伴奏を担当するが、Sが担う旋律も多い。また、Cresc. する場合、S.L. はオクターヴになり、次第に密集した和音を重ねて音の層を厚くしていく。		
Н	調性	C-dur		
П	保続音の有無	有り		
М	モチーフの関連性			
IVI	民謡、旋法、既存の旋律の借用	無し		
R	特徴(ヘミオラ、GP等)	無し		

# 10. 1862年(連弾) A. ボロディーン〈タランテラ 二長調〉チェックシート

視点		
	小節数	395小節
	拍子	4分の2拍子
G	Tempoと性格	Allegro molto vivo
G	形式	複合3部形式
	タイトル	タランテラ
	開始の手の位置	S. L.
		垂直的な様式。
S	特徴	主にPが旋律、Sが伴奏を担う。Sにもメロディーを与え、Pと声部交換する所が多い。
11	調性	D-dur
Н	保続音の有無	有り
M	モチーフの関連性	無し
R	民謡、旋法、既存の旋律の借用 特徴(へミオラ、GP等)	無し 無し

# 11. 1868年(連弾) M. バラーキレフ〈ヴォルガ川にて〉チェックシート

視点		
	小節数	52小節
	拍子	4分の3拍子
G	Tempoと性格	Andantino
G	形式	2部形式
	タイトル	ヴォルガ川にて
	開始の手の位置	S. L.
		垂直的な様式。
S	特徴	Pは旋律、Sは伴奏を担う。役割が固定したままで、非常に簡素な作りである。また、 反復進行が多用されている。
Н	調性	h-mol1
П	保続音の有無	有り
М	モチーフの関連性	
M	民謡、旋法、既存の旋律の借用	民謡
R	特徴(ヘミオラ、GP等)	基本的な3拍子ではなく、1拍目と3拍目に重い拍が置かれる。

# 12. 1864年 (2台ピアノ) A.ルビンシテーイン《幻想曲 へ短調 op.73》 チェックシート

視点		1楽章	2楽章	3楽章	
	小節数	575小節	255小節	259小節	
	拍子	2分の2拍子	4分の2拍子と8分の6拍子	8分の6拍子	
	Tempoと性格	Lento	Moderato	Andante con moto	
G	形式	ソナタ形式	複合2部形式	変奏形式	
	タイトル		幻想曲		
	開始の手の位置	4手同時	S. L.	P. R. +P. L.	
		垂直的な様式。	垂直的な様式。	垂直的な様式。	
S	特徴	PとSが旋律と伴奏の役割を交替し ながら展開していく。	PとSは旋律と伴奏の役割を頻繁に 交替する。また旋律の掛け合いが 多い。	PとSが旋律と伴奏の役割を交替し ながら展開していく。各パートに ソロがある。	
Н	調性	f-mol1	f-mol1	f-mol1	
П	保続音の有無	有り	有り	有り	
М	モチーフの関連性		無し		
IVI	民謡、旋法、既存の旋律の借用				
R	特徴(へミオラ、GP等)	シンコペーション	付点のリズム	無し	

#### 13.1868-9年(連弾) P.I.チャイコーフスキイ《50のロシア民謡》(全50曲) No.1~No.5 チェックシート

視点		1	2	3	4	5		
	小節数	14小節	12小節	12小節	16小節	19小節		
	拍子	4分の3拍子	4分の2拍子	4分の4拍子	4分の3拍子	4分の3拍子		
G	Tempoと性格	Andante non troppo	Moderato	Andante	Tranquillo	Andante con moto		
G	形式	1部形式	1部形式	1部形式	2部形式	2部形式		
	タイトル	長い道のり	哀悼	回想	飛び跳ねる魚	溢れないでおくれ 私のドナウ川		
	開始の手の位置	P. R. +P. L. +S. R.	4手同時	4手同時	4手同時	P. R. +S. R. +S. L.		
		垂直的な様式。	垂直的な様式。	水平的な様式。	両方の様式。	両方の様式。		
S	特徴			担当する。S.R.に対	Pが旋律、Sが伴奏 を担当。役割が固 定している。	Pが旋律、Sが伴奏を 担当。役割が固定し ている。		
Н	調性	G-dur	G-dur	e-moll	g-mol1	C-dur		
П	保続音の有無	無し	無し	有り	無し	無し		
	モチーフの関連性		無し					
M	民謡、旋法、既存の旋律の借用		民謡					
R	特徴 (ヘミオラ、GP等)			無し				

#### 13. 1868-9年(連弾) P. I. チャイコーフスキイ 《50のロシア民謡》(全50曲) No. 6~No. 10 チェックシート

視点		6	7	8	9	10	
	小節数	32小節	21小節	16小節	16小節	16小節	
	拍子	4分の2拍子	4分の2拍子	4分の3拍子	4分の2拍子	4分の2拍子	
G	Tempoと性格	Moderato	Allegro risoluto	Moderato	Allegro moderato	Allegro moderato	
G	形式	2部形式	2部形式	2部形式	2部形式	2部形式	
	タイトル	続く糸巻き	屋根裏	揺れている松の木	浮遊	城門	
	開始の手の位置	P. R. +P. L. +S. R.	4手同時	4手同時	4手同時	P. R. +P. L. +S. R.	
		水平的な様式。	垂直的な様式。	水平的な様式。	垂直的な様式。	垂直的な様式。	
S	特徴	Pが旋律、Sが伴奏を 担当する。後半は役 割を交替する。	Pか账件、Sか件奏を	PとSにそれぞれ旋律 を与えている。前半 と後半でPとSが声部 交換をする。		Pは旋律、Sは伴奏を 担い役割は固定した ままである。主音の 保続音が土台となっ て厚い響きの層を形 成する。	
11	調性	g-mol1	G-dur	Es-dur	As-dur	fis-moll	
Н	保続音の有無	無し	無し	無し	有り	有り	
M	モチーフの関連性	無し					
IVI	民謡、旋法、既存の旋律の借用	民謡					
R	特徴 (ヘミオラ、GP等)			無し			

#### 13.1868-9年(連弾) P. I. チャイコーフスキイ 《50のロシア民謡》(全50曲) No.11~No.15 チェックシート

視点		11	12	13	14	15	
	小節数	25小節	28小節	23小節	35小節	24小節	
	拍子	4分の2拍子	4分の2拍子	4分の2拍子	4分の2拍子	4分の2拍子	
C	Tempoと性格	Moderato	Allegro	Andante	Moderato	Allegro vivo	
G	形式	2部形式	2部形式	4つの部分	2部形式	2部形式	
	タイトル	花々はしおれるであろう	みどりの葡萄の枝	うならないで、突風よ	目の出に	悲しみ	
	開始の手の位置	4手同時	4手同時	4手同時	4手同時	4手同時	
		垂直的な様式。	垂直的な様式。	両方の様式。	水平的な様式。	水平的な様式。	
S	特徴	Pが旋律、Sが伴奏を担当 する。後半は役割を交替 する。	Pが旋律、Sが伴奏を 担当する。後半は役 割を交替する。	Pが旋律、Sが伴奏を担当 する。またSに対旋律が 与えられている。	PとSがそれぞれ旋律 を持つ。2つの旋律 の重なりが層を形成 する。	PとSがそれぞれ旋律 を持つ。2つの旋律 の重なりが層を形成 する。	
Н	調性	G-dur	G-dur	f-mol1	C-dur	e-mol1	
11	保続音の有無	無し	無し	無し	無し	無し	
М	モチーフの関連性		無し				
IVI	民謡、旋法、既存の旋律の借用	民謡					
R	特徴 (ヘミオラ、GP等)	無し	無し	フェルマータ	無し	無し	

#### 13. 1868-9年(連弾) P. I. チャイコーフスキイ 《50のロシア民謡》(全50曲) No. 16~No. 20 チェックシート

視点		16	17	18	19	20		
	小節数	18小節	18小節	48小節	40小節	12小節		
	拍子	4分の2拍子	4分の3拍子	4分の2拍子	4分の2拍子	4分の4拍子		
0	Tempoと性格	Moderato	Moderato	Allegro risoluto	Moderato con moto	Allegro moderato		
G	形式	2部形式	2部形式	2部形式	2部形式	2部形式		
	タイトル	昇る太陽	歌うな、 ああナイチンゲールよ	散歩	あひるの子	私はあなたの街の近 くに行くでしょう		
	開始の手の位置	4手同時	S. R. +S. L.	4手同時	4手同時	4手同時		
		水平的な様式。	水平的な様式。	両方の様式。	両方の様式。	両方の様式。		
S	特徴	Pが旋律、Sが伴奏を 担当する。後半は役 割を交替する。	前半はPが旋律、Sが伴奏を担うが、後半で役割を交替する。	担当する。S.R.にも	Pが旋律、Sが伴奏を 担当する。S.R.にも 旋律が与えられてい る部分がある。	Pが旋律、Sは伴奏を 担う。後半にカノン 風の処理が見られ る。		
Н	調性	D-dur	G-dur	C-dur	Es-dur	a-moll		
П	保続音の有無	無し	無し	無し	無し	無し		
М	モチーフの関連性		無し					
171	民謡、旋法、既存の旋律の借用		民謡					
R	特徴(ヘミオラ、GP等)			無し				

#### 13. 1868-9年(連弾) P. I. チャイコーフスキイ 《50のロシア民謡》(全50曲) No. 21~No. 25 チェックシート

視点		21	22	23	24	25		
	小節数	24小節	16小節	16小節	19小節	10小節		
	拍子	4分の2拍子	4分の3拍子	4分の2拍子	8分の6拍子	4分の4拍子		
0	Tempoと性格	Moderato	Andante mosso	Andante	Moderato	Moderato assai		
G	形式	2部形式	2部形式	2つの部分	2部形式	1部形式		
	タイトル	祭りのあとに	風のとどろきは止み	山を下って	海を泳ぐ 小さなあひるの子	私のおさげ髪		
	開始の手の位置	4手同時	P. R. +P. L.	P. R. +P. L.	S. R. +S. L.	P. R.		
		両方の様式。	両方の様式。	垂直的な様式。	垂直的な様式。	垂直的な様式。		
S	特徴	担当する。後半は役	Pは垂直的な様式で書かれ、Sは水平的な様式で書かれている。	Pは旋律、Sは伴奏と 対旋律を担う。	Pは旋律、Sは伴奏 を担当する。役割 は固定したまま。	Pは旋律、Sは伴奏を 担当する。役割は固 定したまま。		
	調性	F-dur	B-dur	c-mol1	a-moll	d-mol1		
Н	保続音の有無	無し	無し	無し	有り	無し		
М	モチーフの関連性		ー ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・					
М	民謡、旋法、既存の旋律の借用		民謡					
R	特徴(ヘミオラ、GP等)			無し				

#### 13. 1868-9年(連弾) P. I. チャイコーフスキイ 《50のロシア民謡》(全50曲) No. 26~No. 30 チェックシート

視点		26	27	28	29	30	
	小節数	16小節	12小節	8小節	24小節	16小節	
	拍子	4分の3拍子	4分の2拍子	2分の3拍子	4分の2拍子	4分の2拍子	
G	Tempoと性格	Moderato assai	Moderato	Moderato	Andante	Moderato	
G	形式	2部形式	2部形式	2部形式	2部形式	2部形式	
	タイトル	緑の牧草地にて	田舎の場所	青い海の上で	緑の牧草地にて	ワイン貯蔵庫	
	開始の手の位置	P. R. +S. R. +S. L.	P. R. +S. R. +S. L.	4手同時	P. R. +P. L. +S. R.	P. R. +S. R. +S. L.	
		両方の様式。	両方の様式。	水平的な様式。	両方の様式。	水平的な様式。	
S	特徴	Pが旋律、Sが伴奏を	Pは終始旋律を担当する。Sの伴奏は、前半は垂直的な様式、後半は水平的な様式で書かれている。	曲の前半は垂直的な 様式、後半は水平的 な様式で書かれてい る。	前半はPは旋律、S は伴奏と対旋律を 担う。後半になる とSは旋律、Pは対 旋律を担う。	Pは旋律、Sは伴奏と 対旋律を担う。	
11	調性	C-dur	C-dur	b-mol1	D-dur	Fis-dur	
Н	保続音の有無	無し	有り	無し	無し	有り	
М	モチーフの関連性	無し					
M	民謡、旋法、既存の旋律の借用	民謡					
R	特徴 (ヘミオラ、GP等)			無し			

# 13. 1868-9年(連弾) P. I. チャイコーフスキイ 《50のロシア民謡》(全50曲) No. 31~No. 35 チェックシート

視点		31	32	33	34	35		
	小節数	12小節	8小節	12小節	9小節	16小節		
	拍子	4分の2拍子	2分の3拍子	4分の2拍子、4分の7 拍子	4分の3拍子	4分の2拍子		
G	Tempoと性格	Moderato	Moderato	Allegro non troppo	Moderato	Moderato		
G	形式	1部形式	1部形式	1部形式	1部形式	2部形式		
	タイトル	私はあなたの街の近 くに行くでしょう	大修道院長	歓迎されるワーニャ	緑の草原	うれしいキャティア		
	開始の手の位置	P. R. +S. R. +S. L.	P. R. +S. R. +S. L.	P. R. +S. R. +S. L.	S. R.	4手同時		
	特徴	垂直的な様式。	垂直的な様式。	水平的な様式。	水平的な様式。	両方の様式。		
S			Pが旋律、Sが伴奏を 担当する。役割は固 定したまま。	PとSの旋律を重ねて 層を形成する。	Pが旋律、Sは伴奏 と対旋律を担う。	Pが旋律、Sは伴奏と 対旋律を担う。		
Н	調性	F-dur	Fis-dur	h-mol1	B-dur	D-dur		
11	保続音の有無	無し	無し	無し	有り	有り		
	モチーフの関連性		無し					
M	民謡、旋法、既存の旋律の借用		民謡					
R	特徴 (ヘミオラ、GP等)			無し				

#### 13. 1868-9年(連弾) P. I. チャイコーフスキイ 《50のロシア民謡》(全50曲) No. 36~No. 40 チェックシート

視点		36	37	38	39	40		
	小節数	16小節	8小節	8小節	8小節	16小節		
	拍子	4分の3拍子	4分の4拍子	2分の3拍子	2分の3拍子	4分の3拍子		
C	Tempoと性格	Andante	Allegro	Allegro moderato	Allegro	Andante non troppo		
G	形式	2部形式	1部形式	1部形式	1部形式	2部形式		
	タイトル	重い心	私の小さなあひる	若いおとめ	奏でよ、 私のパグパイプ	私の愛しい草原よ		
	開始の手の位置	P. R. +S. L.	4手同時	4手同時	P. R. +P. L. +S. L.	4手同時		
		水平的な様式。	垂直的な様式。	両方の様式。	垂直的な様式。	水平的な様式。		
S	特徴	Pが旋律、Sが伴奏を 担当する。	PとSの和音を重ねて 厚い層を形成する。	Pが旋律、Sが伴奏を 担当する。	Pは旋律、Sは伴奏 を担う。曲の終わ りに向けて音の密 度が高められてい	PとSの旋律を重ねて 厚い層を形成する。		
Н	調性	a-mo11	e-mol1	f-moll	G-dur	f-moll		
П	保続音の有無	無し	無し	有り	有り	無し		
М	モチーフの関連性	無し						
IVI	民謡、旋法、既存の旋律の借用		民謡					
R	特徴 (ヘミオラ、GP等)	無し	無し	シンコペーション	無し	無し		

#### 13.1868-9年(連弾) P. I. チャイコーフスキイ 《50のロシア民謡》(全50曲) No.41~No.45 チェックシート

視点		41	42	43	44	45
	小節数	8小節	12小節	16小節	16小節	26小節
	拍子	2分の3拍子	4分の4拍子	4分の2拍子	4分の3拍子	4分の2拍子
G	Tempoと性格	Andante	Allegro	Presto	Andante	Moderato
G	形式	1部形式	2部形式	2部形式	2部形式	2部形式
	タイトル	輪舞	みどりの雄鶏	りんごの木の下で	私の草原	王女
	開始の手の位置	P. R. +P. L. +S. R.	P. R. +P. L. +S. L.	4手同時	P. R.	S. L.
		水平的な様式。	垂直的な様式。	両方の様式。	水平的な様式。	垂直的な様式。
S	特徴		Pが旋律、Sが伴奏を 担当する。S. L. は終 始保続音を担う。	前半はPは旋律、Sは 伴奏を担うが、後半 で役割を交替する。	Pは旋律、Sは伴奏 と対旋律を担う。	Pが旋律、Sが伴奏を 担当し、役割が固定 されている。
11	調性	Es-dur	es-moll	C-dur	F-dur	F-dur
Н	保続音の有無	有り	有り	無し	無し	有り
	モチーフの関連性	無し				
M	民謡、旋法、既存の旋律の借用	民謡				
R	特徴(へミオラ、GP等)			無し		

#### 13. 1868-9年(連弾) P. I. チャイコーフスキイ 《50のロシア民謡》(全50曲) No. 46~No. 50 チェックシート

視点		46	47	48	49	50		
	小節数	14小節	20小節	8小節	16小節	8小節		
	拍子	4分の3拍子	4分の2拍子	4分の4拍子	4分の4拍子	4分の3拍子		
0	Tempoと性格	Andante	Allegro non troppo	Andante	Moderato	Andante		
G	形式	2部形式	2部形式	1部形式	2部形式	1部形式		
	タイトル	ラズベリー摘み	牧草地で遊ぶ	ワーニャ	ヴォルガの船頭歌	風はなく		
	開始の手の位置	4手同時	P. R. +P. L. +S. R.	P. R. +S. R.	S. R. +S. L.	P. R. +P. L.		
		垂直的な様式。	垂直的な様式。	水平的な様式。	垂直的な様式。	水平的な様式。		
S	特徴	Pが旋律、Sが伴奏を 担当する。	Pは旋律、Sは伴奏と 対旋律を担う。	Pは旋律、Sは伴奏と 対旋律を担う。	Sは旋律、Pは伴奏 を担う。	PとSの旋律を重ねて 層を形成する。		
11	調性	gis-moll	gis-moll	B-dur	b-mol1	d-mol1		
Н	保続音の有無	無し	有り	無し	無し	無し		
M	モチーフの関連性	無し						
IVI	民謡、旋法、既存の旋律の借用		民謡					
R	特徴(ヘミオラ、GP等)			無し				

# 15. 1870年(連弾) A. ルビンシテーイン《ソナタ ニ長調 op. 89》 チェックシート

視点		1楽章	2楽章	3楽章
	小節数	485小節	512小節	207小節
	拍子	4分の4拍子	4分の3拍子	8分の6拍子
G	Tempoと性格	Moderato con moto	Allegro molto vivace	Andante
G	形式	ロンド形式	複合3部形式	複合2部形式
	タイトル		ソナタ	
	開始の手の位置	S. L.	P. R.	P. L. +S. R. +S. L.
		垂直的な様式。	垂直的な様式。	垂直的な様式。
S	特徴	異なる音価を体積して響き を増幅させている。	ユニゾンの多用。	伴奏型は和音の部分と分散 和音の部分があり、サウン ドに変化をもたらしてい る。冒頭に手の交差があ る。
Н	調性	D-dur	A-dur	d-mol1
11	保続音の有無	有り	有り	有り
M	モチーフの関連性	無し	無し	第1楽章の旋律を引用。
141	民謡、旋法、既存の旋律の借用	無し	無し	無し
R	特徴(ヘミオラ、GP等)	無し	ヘミオラ シンコペーション、付点の リズム	シンコペーション

1. C. キュイー、N. A. リムスキー=コルサコフ、A. リャードフ共作 〈24の変奏と終曲〉チェックシート

視点		
	小節数	309小節
	拍子	4分の2拍子
G	Tempoと性格	Moderato sostenuto
~	形式	変奏形式
	タイトル	24の変奏と終曲
	開始の手の位置	3手同時
S	特徴	垂直的な様式。
S	1寸 玖	3手から構成される。常にP.R.は旋律、Sは伴奏と対旋律を担う。
Н	調性	C-dur
11	保続音の有無	有り
M	モチーフの関連性	全曲通して同一の旋律を用いる。
IVI	民謡、旋法、既存の旋律の借用	既存の旋律の使用
R	特徴 (ヘミオラ、GP等)	シンコペーション

# 16. 1876年(連弾) 《変化のない主題によるパラフレーズ集》 2. A. ボロディーン 〈ポルカ〉 チェックシート

視点		
	小節数	93小節
	拍子	4分の2拍子
G	Tempoと性格	Moderato
G	形式	3部形式
	タイトル	ポルカ
	開始の手の位置	3手同時
S	特徴	垂直的な様式。
3	10 IS	常にP.R.は旋律、Sは伴奏と対旋律を担う。
Н	調性	C-dur
11	保続音の有無	有り
	モチーフの関連性	全曲通して同一の旋律を用いる。
M	民謡、旋法、既存の旋律の借用	既存の旋律の使用
R	特徴(ヘミオラ、GP等)	シンコペーション

# 16. 1876年(連弾) 《変化のない主題によるパラフレーズ集》3. A. ボロディーン 〈葬送行進曲〉 チェックシート

視点		
	小節数	40小節
	拍子	4分の2拍子
G	Tempoと性格	Alla marcia
G	形式	3つの部分
	タイトル	葬送行進曲
	開始の手の位置	P. R. +P. L.
S	特徴	垂直的な様式。
S		常にP.R.は旋律、Sは伴奏と対旋律を担う。
Н	調性	a-moll
11	保続音の有無	無し
M	モチーフの関連性	全曲通して同一の旋律を用いる。
1/1	民謡、旋法、既存の旋律の借用	既存の旋律の使用
R	特徴(ヘミオラ、GP等)	付点のリズム

# 16. 1876年(連弾)《変化のない主題によるパラフレーズ集》 4. A. リャードフ 〈ワルツ〉 チェックシート

視点		
	小節数	79小節
	拍子	4分の2拍子と8分の3拍子が同時進行する。
G	Tempoと性格	Tempo di Valse
G	形式	3部形式
	タイトル	ワルツ
	開始の手の位置	3手同時
		垂直的な様式。
S	特徴	常にP.R.は旋律、Sは伴奏と対旋律を担う。垂直的な様式でありながら、分散和音による伴奏型が流動的なサウンドの印象を与える。
11	調性	C-dur
Н	保続音の有無	有り
	モチーフの関連性	全曲通して同一の旋律を用いる。
M	民謡、旋法、既存の旋律の借用	既存の旋律の使用
R	特徴 (ヘミオラ、GP等)	無し

5. N. A. リムスキー=コルサコフ 〈子守歌〉 チェックシート

視点		
	小節数	56小節
	拍子	4分の2拍子
G	Tempoと性格	Andante con moto
G	形式	2部形式
	タイトル	子守歌
	開始の手の位置	P. R. +P. L.
S	特徴	両方の様式。
S		P.R.は旋律、Sは伴奏と対旋律を担う。特にS.R.はPの主旋律に対して別の旋律を重ねている。
Н	調性	C-dur
11	保続音の有無	有り
M	モチーフの関連性	全曲通して同一の旋律を用いる。
1/1	民謡、旋法、既存の旋律の借用	既存の旋律の使用
R	特徴 (ヘミオラ、GP等)	無し

# 6. A. リャードフ 〈ギャロップ〉 チェックシート

視点		
	小節数	72小節
	拍子	4分の2拍子
G	Tempoと性格	Vivace
G	形式	2部形式
	タイトル	ギャロップ
	開始の手の位置	P. R. +P. L.
S	特徴	両方の様式。
3		常にP.R.は旋律、Sは伴奏と対旋律を担う。
Н	調性	C-dur
П	保続音の有無	有り
M	モチーフの関連性	有り
IVI	民謡、旋法、既存の旋律の借用	既存の旋律の使用
R	特徴(ヘミオラ、GP等)	シンコペーション

7. A. リャードフ 〈ジーグ〉 チェックシート

視点		
	小節数	12小節
	拍子	4分の2拍子
G	Tempoと性格	Allegro vivo
G	形式	3部形式
	タイトル	ジーグ
	開始の手の位置	3手同時
	41.44	水平的な様式。
S	特徴	3つの手にそれぞれ旋律を与えて重ねている。
Н	調性	a-moll
п	保続音の有無	無し
.,,	モチーフの関連性	全曲通して同一の旋律を用いる。
M	民謡、旋法、既存の旋律の借用	既存の旋律の使用
R	特徴(ヘミオラ、GP等)	付点のリズム

# 8. N. A. リムスキー=コルサコフ 〈BACHによるフゲッタ〉 チェックシート

視点		
	小節数	28小節
	拍子	4分の2拍子
G	Tempoと性格	Moderato e sostenuto
G	形式	自由な形式
	タイトル	BACHによるフゲッタ
	開始の手の位置	P. R. +P. L.
	特徴	水平的な様式。
S		P. R. は既存の旋律を終始演奏するが、SはB-A-C-Hの主題を与えられ、かつフーガで書かれている。
11	調性	C-dur
Н	保続音の有無	無し
M	モチーフの関連性	全曲通して同一の旋律を用いる。
	民謡、旋法、既存の旋律の借用	既存の旋律、B-A-C-Hの旋律の使用
R	特徴 (ヘミオラ、GP等)	無し

9. N. A. リムスキー=コルサコフ 〈タランテラ〉 チェックシート

視点		
	小節数	92小節
	拍子	4分の2拍子
G	Tempoと性格	Vivo
G	形式	3部形式
	タイトル	タランテラ
	開始の手の位置	P. R. +P. L.
S	特徴	水平的な様式。
3		Pが旋律、Sは伴奏と対旋律を担う。
Н	調性	a-mol1
11	保続音の有無	無し
	モチーフの関連性	全曲通して同一の旋律を用いる。
M	民謡、旋法、既存の旋律の借用	既存の旋律の使用
R	特徴(ヘミオラ、GP等)	無し

10. N. A. リムスキー=コルサコフ 〈メヌエット〉 チェックシート

視点		
	小節数	36小節
	拍子	4分の2拍子と4分の3拍子が同時進行している。
G	Tempoと性格	Sostenuto
G	形式	2部形式
	タイトル	メヌエット
	開始の手の位置	3手同時
S	特徴	水平的な様式。
J		Pは旋律を担当。Sの伴奏はカノン風に書かれている。
Н	調性	C-dur
11	保続音の有無	無し
M	モチーフの関連性	全曲通して同一の旋律を用いる。
IVI	民謡、旋法、既存の旋律の借用	既存の旋律の使用
R	特徴(ヘミオラ、GP等)	無し

#### 11. C. キュイー 〈ワルツ〉 チェックシート

視点		
	小節数	48小節
	拍子	4分の2拍子
G	Tempoと性格	Allegro
G	形式	3部形式
	タイトル	ワルツ
	開始の手の位置	3手同時
S	特徴	垂直的な様式。
3	10 (5)	Pは旋律、Sは伴奏を担う。
Н	調性	C-dur
11	保続音の有無	有り
М	モチーフの関連性	全曲通して同一の旋律を用いる。
IVI	民謡、旋法、既存の旋律の借用	既存の旋律の使用
R	特徴(ヘミオラ、GP等)	ヘミオラ

#### 16. 1876年(連弾)《変化のない主題によるパラフレーズ集》

#### 12. A. ボロディーン 〈レクイエム〉 チェックシート

視点		
	小節数	112小節
	拍子	4分の2拍子
G	Tempoと性格	Andante
G	形式	3部形式
	タイトル	レクイエム
	開始の手の位置	P. R. +P. L.
	特徴	水平的な様式。
S		Pは既存の旋律のみを弾く。Sのパートにはオルガン、テノールとバスと書かれており、男声合唱のようになっている。また、楽譜上にはRequiem aeternam do na eis と歌詞が記されている。コラール風の書法。
11	調性	a-mol1
Н	保続音の有無	有り
M	モチーフの関連性	全曲通して同一の旋律を用いる。
M	民謡、旋法、既存の旋律の借用	既存の旋律の使用
R	特徴 (ヘミオラ、GP等)	無し

# 16. 1876年(連弾)《変化のない主題によるパラフレーズ集》

#### 14. A. ボロディーン 〈マズルカ〉 チェックシート

視点				
	小節数	48小節		
	拍子	4分の2拍子と8分の3拍子が同時進行している。		
G	Tempoと性格	Allegro		
ď	形式	3部形式		
	タイトル	マズルカ		
	開始の手の位置	3手同時		
S	特徴	垂直的な様式。		
3	1寸  玖	Pの既存の旋律に対し、Sは全く関係の無い曲を同時に演奏している。		
Н	調性	C-dur		
11	保続音の有無	無し		
М	モチーフの関連性	全曲通して同一の旋律を用いる。		
IVI	民謡、旋法、既存の旋律の借用	既存の旋律の使用		
R	特徴(ヘミオラ、GP等)	マズルカのリズム		

#### 16. 1876年(連弾) 《変化のない主題によるパラフレーズ集》

15. N. A. リムスキー=コルサコフ 〈グロテスクなフーガ〉 チェックシート

視点					
	小節数	32小節			
	拍子	4分の2拍子			
G	Tempoと性格	Allegretto			
G	形式	2部形式			
	タイトル	グロテスクなフーガ			
	開始の手の位置	P. R. +P. L.			
S	特徴	水平的な様式。			
2	1寸 玖	3手による5声フーガになっている。			
Н	調性	C-dur			
П	保続音の有無	有り			
M	モチーフの関連性	全曲通して同一の旋律を用いる。			
M	民謡、旋法、既存の旋律の借用	既存の旋律の使用			
R	特徴(ヘミオラ、GP等)	無し			

## 16. 1876年(連弾)《変化のない主題によるパラフレーズ集》

#### 16. A. リャードフ 〈凱旋の行列曲〉 チェックシート

視点				
	小節数	64小節		
	拍子	4分の2拍子と4分の4拍子が同時進行している。		
G	Tempoと性格	Allegro maestoso		
G	形式	2部形式		
	タイトル	凱旋の行列曲		
	開始の手の位置	3手同時		
		垂直的な様式。		
S	特徴	Pの既存のメロディーに対し、Sは全く関係のない曲を同時に演奏している。 S.L.にオクターヴを使用して、響きに厚みをもたらしている。		
Н	調性	C-dur		
П	保続音の有無	有り		
M	モチーフの関連性	全曲通して同一の旋律を用いる。		
IVI	民謡、旋法、既存の旋律の借用	既存の旋律の使用		
R	特徴(ヘミオラ、GP等)	付点のリズム		

# 16. 1876年(連弾)《変化のない主題によるパラフレーズ集》

#### 17. N. シチェルバチョフ 〈雑多な、小さな補遺〉 チェックシート

視点				
	小節数	200小節		
	拍子	4分の2拍子、8分の6拍子		
G	Tempoと性格	Moderato sostenuto		
G	形式	自由な形式		
	タイトル	雑多な、小さな補遺		
	開始の手の位置	P. R. +S. R.		
- C	4+ 414	両方の様式		
S	特徴	Pの既存の旋律に対し、Sは全く関係のない曲を同時に演奏している。		
Н	調性	C-dur		
П	保続音の有無	有り		
	モチーフの関連性	全曲通して同一の旋律を用いる。		
M	民謡、旋法、既存の旋律の借用	既存の旋律の使用		
R	特徴(ヘミオラ、GP等)	シンコペーション		

# 17. 1878-9年(連弾) N. A. リムスキー=コルサコフ 〈ミーシャの主題による変奏曲〉 チェックシート

視点				
	小節数	48小節		
	拍子	4分の2拍子		
G	Tempoと性格	Allegretto		
G	形式	変奏形式		
	タイトル	ミーシャの主題による変奏曲		
	開始の手の位置	3手同時		
S	特徴	各セクションの中に、垂直的な響きの部分と水平的な響きの部分の両方が 見られる。		
Н	調性	C-dur		
11	保続音の有無	有り		
M	モチーフの関連性			
141	民謡、旋法、既存の旋律の借用	ミーシャの主題		
R	特徴(ヘミオラ、GP等)	無し		

#### 18. 1879年(2台ピアノ)A.ルビンシテーイン《着飾った舞踏会 op. 103》 No. 1~No. 5 チェックシート

視点		1	2	3	4	5
	小節数	210小節	25小節	167小節	140小節	303小節
	拍子	4分の3拍子	4分の4拍子	8分の6拍子	4分の3拍子	8分の6拍子
	Tempoと性格 Moderato con moto		Moderato assai	Con moto moderato	Moderato assai	Allegro non troppo
G	形式	複合3部形式	2部形式	複合2部形式	複合3部形式	2つの部分
	タイトル	序奏	占星術師とボヘミアの女	羊飼いと羊飼いの女	伯爵と伯爵夫人	ナポリの漁師とナポリの女
	開始の手の位置	4手同時	S. R. +S. L.	P. R. +P. L. +S. R.	P. L. +S. R. +S. L.	P. R. +P. L.
		垂直的な様式。	水平的な様式。	垂直的な様式。	垂直的な様式。	垂直的な様式。
S	特徴	は旋律、Sは伴奏を担う。	PとSにそれぞれ対照的な旋 律が与えられている。Sは 伴奏の役割もあるが、ここ では旋律を担う方が多い。	Pは旋律、Sは伴奏を担う。S の低音には5度音程の保続音 を置き、響きの土台を形成 している。旋律は単旋律の 部分と和音の部分とがあ り、対比がなされている。	Pは灰伟、Sは忓奏を担り。	Pは旋律、Sが伴奏を担う。 伴奏形には分散和音が用いられ、かつ単音が多いので 重厚でありながな軽快な印象である。
,,,	調性	D-dur	h-moll	G-dur	B-dur	g-moll⇔G-dur
Н	保続音の有無	無し	有り	有り	無し	有り
М	モチーフの関連性			無し		
141	民謡、旋法、既存 の旋律の借用	無し	無し	無し	無し	無し
R	特徴(ヘミオラ、 GP等)	付点のリズム	無し	無し	ヘミオラ	無し

#### 18. 1879年(2台ピアノ)A.ルビンシテーイン《着飾った舞踏会 op. 103》 No. 6~No. 10 チェックシート

視点		6	7	8	9	10
	小節数	132小節	116小節	60小節 224小節		123小節
	拍子	4分の4拍子	8分の6拍子	4分の4拍子	4分の3拍子	4分の4拍子
	Tempoと性格	Moderato assai	Allegro non troppo	Moderato assai	Allegro	Moderato
G	形式	複合3部形式	複合2部形式	2部形式	ロンド形式	複合3部形式
	タイトル	騎士と騎士の奥方	闘牛士とアンダルシアの 女	巡礼者と幻想曲	ポーランドとポロネーズ	ボヤールとボヤール夫人
	開始の手の位置	P. R. +P. L.	S. L.	S. R. +S. L.	4手同時	S. R. +S. L.
		垂直的な様式。	垂直的な様式。	垂直的な様式。	垂直的な様式。	垂直的な様式。
S	特徴		Pは旋律、Sは伴奏を担い、役割が固定されている。	前半はSが旋律でPは伴奏を担う。後半は役割を交替する。また、前半は和音の連続が中心となっているが、後半は分散和音が主体になっている。	Pが旋律、Sが伴奏を担 う。役割は固定されたま まである。P.R. とP.L. は ユニゾンの場合がほとん どである。	主にPが旋律、Sが伴奏を担 う。伴奏にはオクターヴが多 く用いられており、重厚感が ある。
Н	調性	Es-dur	c-moll⇔C-dur	As-dur	C-dur	G-dur
П	保続音の有無	有り	無し	有り	有り	有り
	モチーフの関連性			無し		
M	民謡、旋法、既存 の旋律の借用	無し	無し	無し	無し	無し
R	特徴(ヘミオラ、 GP等)	付点のリズム	無し	3連音符	付点のリズム	無し

#### 18. 1879年(2台ピアノ)A.ルビンシテーイン《着飾った舞踏会 op. 103》 No. 11~No. 15 チェックシート

視点		11	12	13	14	15
	小節数	367小節	276小節	349小節	75小節	117小節
	拍子	4分の2拍子	4分の2拍子	2分の3拍子	4分の3拍子	4分の4拍子
G	Tempoと性格	Andante con moto	Moderato	Andante	Moderato	Moderato con moto
G	形式	変奏形式	変奏形式	複合3部形式	複合3部形式	複合3部形式
	タイトル	コサック騎兵と小さなロシア の娘	パシャとエジプトの舞姫	領主と宮廷アンリ3世の貴婦人	ソバージュとインドの女	ドイツの貴族と令嬢
	開始の手の位置	P. R. +P. L. +S. L.	S. R. +S. L.	P. R. +P. L. +S. R.	S. R. +S. L.	S. L.
		垂直的な様式。	垂直的な様式。	垂直的な様式。	垂直的な様式。	水平的な様式。
S	特徴	Pが旋律、Sが伴奏を担う。 時々Sに旋律が与えられる。各 パートにsoloの部分がある。 P.R.とP.L.はユニゾンが多 い。	担う。途中P.R.とS.R.が	Pが旋律、Sが伴奏を担当。Sにも旋律が与えられている。密 集した和音を多用し、響きが 厚い。	Pが旋律、Sが伴奏を担当。 冒頭、SとPの急速な掛け合 いで始まる。4手によるユ ニゾンや密集した和音の多 用が響きに厚みを持たせて いる。	Sが提示する旋律を各パー トが模倣する。
Н	調性	e-moll→E-dur	a-moll→A-dur	d-mol1	b-mol1	b-mol1
11	保続音の有無	有り有り		有り	無し	有り
М	モチーフの関連性			無し		
191	民謡、旋法、既存 の旋律の借用	無し	無し	無し	無し	無し
R	特徴(へミオラ、 GP等)	無し	3連音符	無し	3連音符	無し

#### 18. 1879年(2台ピアノ)A.ルビンシテーイン《着飾った舞踏会 op. 103》 No. 16~No. 20 チェックシート

視点		16	17	18	19	20
	小節数	小節数 174小節		281小節	145小節	1114小節
	拍子	4分の3拍子	2分の2拍子	8分の6拍子、4分の2拍子	8分の6拍子	4分の3拍子
G	Tempoと性格	Con moto	Moderato	Moderato con moto	Moderato	Allegro-Moderato con moto-Allegro vivace
0	形式	複合3部形式	複合2部形式	複合3部形式	複合3部形式	自由な形式
	タイトル	騎士と女中	海賊とギリシャの女	王室の太鼓と気高い女	吟遊詩人と王女	踊り
	開始の手の位置	P. L. +S. R. +S. L.	S. R. +S. L.	S. L.	S. R. +S. L.	4手同時
	特徴	垂直的な様式。	垂直的な様式。	垂直的な様式。	垂直的な様式。	垂直的な様式。
S		Sが冒頭に提示する旋律が この曲の主要主題とな る。Pは主要主題を装飾す	Pが旋律、Sが伴奏を担当する。Sには対旋律が与えられている。Sの伴奏型は分散和音が中心になっており、重厚な響きでありながら、流動的な印象が強い。	Pが旋律、Sが伴奏を担当する。それぞれのパートに特徴的なリズムが用いられている。Sの伴奏型のリズムはセクションごとに変化する。	PとSにそれぞれ与えられた2つの旋律が曲を構成する。途中新しいセクションの度に伴奏型を変化させていく。基本的には垂直的な様式であるが、水平的部分もある。	Pが旋律、Sが伴奏を担当する。Sの伴奏型のリズムはセクションごとに変化する。Pは次第に技巧的になっていく。
Н	調性	F-dur	d-moll	B-dur	G-dur	D-dur
Н	保続音の有無	有り	有り	有り	無し	無し
M	モチーフの関連性			無し		
M	民謡、旋法、既存の旋律 の借用	無し	無し	無し	無し	無し
R	特徴(ヘミオラ、GP等)	3連音符	無し	付点のリズム	無し	無し

# 19. 1885年 (連弾) N. アルツィブーシェフ、I. ヴィートル、A. リャードフ、N. ソコロフ、A. グラズノフ、N. A. リムスキー=コルサコフ共作 《冗談カドリーユ》(全6曲)チェックシート

		1	2	3	4	5	6		
視点	作曲者	N. アルツィブーシェフ	I. ヴィートル	A. リャードフ	N. ソコロフ	A. グラズノフ	N. A. リムスキー=コルサコフ		
	小節数	74小節	56小節	58小節	31小節	48小節	90小節		
	拍子	4分の2拍子	4分の2拍子	8分の6拍子	4分の2拍子	4分の2拍子	4分の2拍子		
G	Tempoと性格	表記無し	表記無し	表記無し	表記無し	表記無し	Vivo		
ď	形式	3部形式	3部形式	3部形式	4つの部分	6つの部分	3部形式		
	タイトル		冗談カドリーユ						
	開始の手の位置	S. L.	4手同時	S. R.	P. R. +P. L.	P. R. +P. L. + S. L.	S. R.		
		垂直的な様式。	垂直的な様式。	垂直的な様式。	垂直的な様式。	垂直的な様式。	垂直的な様式。		
S	特徴	Pが旋律、Sが伴奏を担 当。役割が固定してい る。	奏を担当。役割	奏を担当する。	Pが旋律、Sが伴 奏を担当する。 S. R. に対旋律が 現れる。	Pが旋律、Sが伴奏を担当。役割が固定している。	Pが旋律、Sが伴奏を担 当。PとSで反進行の動 きが多い。		
	調性	C-dur	F-dur	A-dur	E-dur	G-dur	C-dur		
Н	保続音の有無	有り	無し	有り	有り	有り	無し		
М	モチーフの関連性			無	し				
IVI	民謡、旋法、既存の旋律の借用			無	L				
R	特徴(ヘミオラ、GP等)	無し	無し	無し	無し	弱拍にアクセン	シンコペーション		
IV	IN IX ( 、 、 A ノ、 UI サ/	, U	悪し	<i>™</i> ∪	<del>////</del> U	トを置く。	付点のリズム		

# 20. 1888年 (2台ピアノ) A. アレーンスキイ《組曲第1番 op. 15》 チェックシート

視点		1	2	3	
	小節数	70小節	251小節	152小節	
	拍子	4分の4拍子	4分の3拍子	4分の3拍子	
G	Tempoと性格	Allegretto-Andante-Allegretto- Andante-Allegretto	Allegro	Allegro ma non troppo	
G	形式	変奏形式	複合3部形式	複合3部形式	
	タイトル	ロマンス	ワルツ	ポロネーズ	
	開始の手の位置	台の手の位置 P. R. +P. L. +S. R.		4手同時	
		水平的な様式。	垂直的な様式。	垂直的な様式。	
S	特徴	2人の奏者が対立せず、2人で1つの音 色を紡ぎ出している。4手それぞれが 独立した動きを持ち、サウンドが複 雑になっている。	旋律と伴奏の役割が明確に分かれている。PとSで役割を交替しながら展開していく。	Pが主に旋律を担う。3曲通して最も音域が広い。また、技巧的で即興的な部分が多い。	
Н	調性	g-mol1	C-dur	G-dur	
П	保続音の有無	有り	無し	無し	
М	モチーフの関連性		無し		
IVI	民謡、旋法、既存の旋律の借用	無し	無し	無し	
R	特徴(へミオラ、GP等)	フェルマータの多用	無し	ポロネーズのリズム	

#### 21. 1891年(2台ピアノ) S. ラフマーニノフ〈ロシア狂詩曲〉チェックシート

視点		
	小節数	214小節
	拍子	4分の4拍子
G	Tempoと性格	Moredato
G	形式	変奏形式
	タイトル	ロシア狂詩曲
	開始の手の位置	4手同時
		垂直的な様式。
S	特徴	伴奏に見られる密度の高い和音は分散和音や音階と一緒になっている。この密度の 高い和音は、響きの柱としてサウンドに重厚感を与える。曲が進むにつれて、音の 密度がより一層高められていく。
	調性	G-dur
Н	保続音の有無	有り
М	モチーフの関連性	
M	民謡、旋法、既存の旋律の借用	無し
R	特徴(ヘミオラ、GP等)	シンコペーション

#### 22. 1892年(2台ピアノ) A. アレーンスキイ《組曲第2番「シルエット」op. 23》チェックシート

視点		1	2	3	4	5
	小節数	45小節	106小節	96小節	63小節	122小節
	拍子	4分の4拍子	4分の3拍子	8分の6拍子	4分の4拍子	8分の9拍子
G	Tempoと性格	Moderato assai	Allegretto	Vivace	Moderato assai	Allegro non troppo- Vivo-Presto
	形式	3部形式	3部形式	3部形式	3部形式	3部形式
	タイトル	学者	コケット	道化	夢見る人	バレリーナ
	開始の手の位置	S. L.	S. L.	P. R. +P. L.	P. R. +P. L.	S. L.
		両方の様式。	垂直的な様式。	両方の様式。	垂直的な様式。	両方の様式。
S	特徴	密度が高く、厚い響き を持つ。旋律をカノン 風に処理している。	曲が進むにつれて旋律を装飾的・即興的に扱い、複雑になる。Pにソロがある。	律を多く担い、Sは伴	示する。その提示した 主題をSと声部交換しな	PとSの声部交換で成り立 つが、S. L. は常に伴奏を 担う。どちらかと言えば Pの方が優位である。
Н	調性	c-moll	C-dur	E-dur	Des-der	c-moll
11	保続音の有無	無し	無し	無し	有り	無し
M	モチーフの関連性			無し		
IVI	民謡、旋法、既存の旋律の借用			無し		
R	特徴 (ヘミオラ、GP等)	シンコペーション	符点のリズム	無し	2:3のリズム	無し

# 23. 1893年 (2台ピアノ) S. ラフマーニノフ 《組曲第1番 op. 5》 チェックシート

視点		1	2	3	4
	小節数	250小節	130小節	57小節	58小節
	拍子	4分の3拍子	4分の3拍子	4分の4拍子	4分の4拍子
G	Tempoと性格	Allegretto	Adagio sostenuto	Largo di molto	Allegro maestoso
ď	形式	複合3部形式	2つの部分	4つの部分	複合2部形式
	タイトル	舟歌	夜と愛と	淚	復活祭
	開始の手の位置	P. L.	S. R.	P. R.	P. R. +P. L.
S	特徴	水平的な様式。様々な要素 を組み合わせている。	水平的な様式。PとSが対等 に扱われ、声部交換が多 い。	水平的な様式で始まる が、垂直的な様式に変化 して密度が高くなってい く。	垂直的な様式。和音の連 続を多用し、重厚感のあ る響きを構築。
3	TAI DE	伴奏と旋律という役割分担 が明確でなく、2 人で1つの 音色を作る。		細かい音型が何層にも重 なってる。	旋律と伴奏の役割が明確 であり、声部交換によっ て成り立つ。
Н	調性	g-mol1	D-dur	g-mol1	g-mol1
п	保続音の有無	有り	無し	有り	有り
M	モチーフの関連性		無し		
IVI	民謡、旋法、既存の旋律の借用	無し		教会の鐘の音を模倣している。	民謡風
R	特徴(ヘミオラ、GP等)	3連音符	6連音符、7連音符の多用	シンコペーション	シンコペーション

# 24. 1893年 (2台ピアノ) A.N.スクリャービン〈幻想曲 遺作〉 チェックシート

視点		
	小節数	298小節
	拍子	4分の2拍子→8分の6拍子→4分の3拍子→8分の6拍子
G	Tempoと性格	Allegro —Allegro non troppo — Meno mosso — Tempo I — Meno mosso — Tempo di Valse — Prestissimo
Ü	形式	自由な形式
	タイトル	幻想曲
	開始の手の位置	P. R. +P. L.
S	特徴	垂直的な様式で書かれているが、その中で旋律を対位法的に扱っている。PとSの掛け合いが非常に多く、各パートが対等に扱われている。特にS. L. が支える低音にはオクターヴを置き、厚い響きを形成する際の土台となっている。密集した和音を多く用い、終始重厚なサウンドを持続している。
Н	調性	a-mol1
	保続音の有無	有り
M	モチーフの関連性	無し
17/1	民謡、旋法、既存の旋律の借用	無し
R	特徴(ヘミオラ、GP等)	無し

## 25. 1894年 (2台ピアノ) A. アレーンスキイ《組曲第3番「変奏曲」op. 33》No. 1~No. 5 チェックシート

視点		1	2	3	4	5		
	小節数	20小節	40小節	84小節	48小節	32小節		
	拍子	2分の2拍子	4分の4拍子	4分の3拍子	4分の4拍子	4分の3拍子		
G	Tempoと性格	Andante	Andante sostenuto	表記無し	Maestoso	表記無し		
G	形式	2部形式	2部形式	3部形式	3部形式	2部形式		
	タイトル	主題	対話	ワルツ	凱旋行進曲	メヌエット		
	開始の手の位置	P. R. +P. L.	S. R. +S. L.	S. L.	4手同時	4手同時		
		垂直的な様式。	両方の様式。	垂直的な様式。	垂直的な様式。	両方の様式。		
S	特徴	コノール風な響きを	Sは旋律を担い、Pは 下降する音型で伴奏 する。		主にPが和絃的な旋律を奏し、Sはオクターヴのユニゾンで伴奏する。	主にSが旋律を担い、 Pが伴奏する。		
Н	調性	C-dur	C-dur	C-dur	C-dur	G-dur		
П	保続音の有無	無し	無し	無し	無し	無し		
M	モチーフの関連性		第1曲の主題を使用。					
IVI	民謡、旋法、既存の旋律の借用	無し						
R	特徴(ヘミオラ、GP等)	無し	無し	2対3のリズム	3連音符	無し		

#### 25.1894年(2台ピアノ) A. アレーンスキイ《組曲第3番「変奏曲」op. 33》No. 6~No. 10 チェックシート

視点		6	7	8	9	10
	小節数	114小節	552小節	53小節	56小節	80小節
	拍子	4分の4拍子	8分の3拍子	4分の4拍子	8分の9拍子	4分の3拍子
G	Tempoと性格	表記無し	Presto	Adagio non troppo	Andantino	Allegro moderato
G	形式	複合3部形式	複合3部形式	複合2部形式	複合2部形式	自由な形式
	タイトル	ガヴォット	スケルツォ	葬送行進曲	夜想曲	ポロネーズ
	開始の手の位置	4手同時	P. R. +S. R. +S. L.	P. R.	P. L. +S. R. +S. L.	S. R. +S. L.
		両方の様式。	垂直的な様式。	垂直的な様式。	水平的な様式。	垂直的な様式。
S	特徴	各パートの右手が旋 律で左手が伴奏を担 う。	無窮動的な音の動き の中に旋律を浮き立 たせ、保続音で支え ている。	基本的に声部交換に よって成り立つが、P が優勢。	Pの細かい音型とSの 長い音を組み合わせ て層を形成してい る。	Pは主に旋律を担い、 Sの伴奏はポロネーズ のリズムを担う。
Н	調性	c-mol1	C-dur	a-mo11	A-dur	C-dur
П	保続音の有無	有り	有り	無し	有り	無し
М	モチーフの関連性			第1曲の主題を使用。		
IVI	民謡、旋法、既存の旋律の借用	無し				
R	特徴(ヘミオラ、GP等)	無し	シンコペーション ヘミオラ	3連音符	無し	ポロネーズのリズム

# 26. 1894年(連弾) A. アレーンスキイ《子供のための6つの小品 op. 34》 チェックシート

視点		1	2	3	4	5	6
	小節数	69小節	96小節	39小節	184小節	30小節	73小節
	拍子	4分の4拍子	4分の3拍子	4分の5拍子	4分の3拍子	4分の4拍子	4分の4拍子
G	Tempoと性格	Andantino →piu mosso→ Allegro moderato	Allegro	Andante con moto	Allegro non troppo	Andante sostenuto	Allegro moderato
	形式、区分	4つの部分	2つの部分	2部形式	複合3部形式	3部形式	4つの部分
	タイトル	おとぎばなし	カッコー	淚	ワルツ	子守歌	ロシアの主題によるフーガ
	開始の手の位置	P. R. +P. L. +S. L.	S. R.	4手同時	S. L.	P. R. +P. L. +S. L.	S. L.
	特徴	垂直的な様式。	水平的な様式。	垂直的な様式。	垂直的な様式。	垂直的な様式。	両方の様式。
S		1つの主題を変形して紡ぎ出す。反復進行を多用している。2度のトレモロ、5度の 保続音を多用。					冒頭は単声部で始まり、次第 に声部を増やして密度を高め ていく。
11	調性	g-moll→G-dur	D-dur	F-dur, d-moll	F-dur	C-dur	G-dur
Н	保続音の有無	有り	有り	有り	有り	有り	有り
	モチーフの関連性				無し		
М	民謡、旋法、既存の旋律の借用	無し	無し	へ音を主音とする フリギア調	無し	無し	無し
	Ht (III. ( OD AT)	弱拍にアクセントを置く。	ヘミオラ	1拍目にアクセン トを置く。	シンコペーション	フェルマータ	弱拍にアクセントを置く。
R	特徴(ヘミオラ、GP等)					アクセントの多用	

#### 27. 1893年(連弾) S. ラフマーニノフ〈ロマンス ト長調〉チェックシート

視点		
	小節数	47小節
	拍子	4分の4拍子
G	Tempoと性格	Moderato
G	形式	3部形式
	タイトル	ロマンス
	開始の手の位置	P. R. +P. L.
		水平的な様式。
S	特徴	Sの伴奏の上にPの旋律が重ねられている。S.L.が担う低音には長い音符が置かれ、 全体を支えている。
11	調性	G-dur
Н	保続音の有無	有り
M	モチーフの関連性	
IVI	民謡、旋法、既存の旋律の借用	無し
R	特徴(ヘミオラ、GP等)	3連音符

# 28. 1894年 (連弾) S. ラフマーニノフ《6つの小品 op. 11》チェックシート

視点		1	2	3	4	5	6
	小節数	106小節	310小節	90小節	282小節	68小節	209小節
	拍子	4分の4拍子	8分の3拍子	4分の4拍子	4分の3拍子	8分の9拍子	4分の3拍子
G	Tempoと性格	Moderato	Allegro	Andantino cantabile	Tempo di Valse	Andante con anima	Allegro moderato
	形式、区分	3つの部分	4つの部分	3つの部分	5つの部分	4つの部分	5つの部分
	タイトル	舟歌	スケルツォ	ロシアの歌	ワルツ	ロマンス	スラヴァ
	開始の手の位置	S. L.	P. R.	P. L.	S. L.	P. R.	S. R.
		水平的な様式。	垂直的な様式。	水平的な様式。	垂直的な様式。	垂直的な様式。	両方の様式。
S	特徴	Sの保続音の上にPの 旋律が重ねられてい る。次第にPはピア ニスティックなパッ セージを盛り込んで いく。	主にPか促年、Sか住 奏を担う。垂直的で あるが辛の密度が喜	単音で始まり次第に声 部が増えていく。保続 音が多用されている。	Pが旋律、Sが伴奏 を担う。役割は固 定されている。 S. L. に5度の音程 を頻繁に用いてい る。	えられており、Pとの 掛け合いも多い。Sの パートは密度が高 く、重々しい雰囲気	冒頭はカノン風だが、 次第に垂直的な様式に 変化し、響きの厚い部 分でクライマックスを 迎える。全曲通して最 もダイナミクスの差が 激しい。
	ユニゾン	有り	有り	有り	有り	有り	有り
Н	調性	g-mol1	D-dur	h-moll	A-dur	c-moll	C-dur
П	保続音の有無	有り	有り	有り	無し	有り	有り
	モチーフの関連性			無	l		
M	民謡、旋法、既存の旋律の借用	無し	無し	ヴォルガ川の舟引き人 夫の仕事歌	無し	無し	民謡
R	特徴(ヘミオラ、GP等)	シンコペーション	3対2のリズム	シンコペーション	へミオラ	♪♪の連続	ヘミオラ
11	特徴(ハミオブ、研奏)		ヘミオラ	~~ . ~ . ~ .		✓ ✓ VZENYL	

# 29. 1898年 (連弾) M. バラーキレフ《30のロシア民謡》 No. 1~No. 5 チェックシート

視点		1	2	3	4	5			
	小節数	18小節	49小節	36小節	19小節	24小節			
	拍子	4分の4拍子	4分の2拍子	4分の2拍子	4分の5拍子	4分の3拍子			
G	Tempoと性格	Adagio	Andante	Allegretto	Allegro maestoso	Andantino			
G	形式	2部形式	4つの部分	2部形式	2部形式	2部形式			
	タイトル	聖母マリアの夢	勇敢なジョルジュ	ラザール	最後の審判	鳩の本			
	開始の手の位置	P. R. +S. R. +S. L.	P. L. +S. R.	S. L.	S. L.	P. L. +S. R.			
		水平的な様式。	両方の様式。	水平的な様式。	両方の様式。	水平的な様式。			
S	特徴	た声部を持ち、複雑な		う。Sの伴奏型はセク ションごとに変化す	4手全てが旋律を担 う。4手によるユニゾ ンの旋律は声部が次 第に増えていき、密 度が高くなる。	Pは終始旋律を担う。S は対旋律を担い、Pの 旋律と絡んで発展して いく。			
Н	調性	es-moll	fis-moll	Ges-dur	h-moll	h-mol1			
п	保続音の有無	無し	無し無し		有り	有り			
М	モチーフの関連性			無し					
IVI	民謡、旋法、既存の旋律の借用		民謡						
R	特徴(ヘミオラ、GP等)	3連音符	無し	シンコペーション	無し	無し			

# 29. 1898年 (連弾) M. バラーキレフ《30のロシア民謡》 No.6~No.10 チェックシート

視点		6	7	8	9	10		
	小節数	98小節	29小節	64小節	25小節	28小節		
	拍子	4分の2拍子	4分の3拍子	4分の2拍子	8分の3拍子	8分の6拍子		
	Tempoと性格	Allegro risoluto	Allegretto	Larghetto	Larghetto	Allegro maestoso		
G	形式	3部形式	2部形式	2部形式	3部形式	2部形式		
	タイトル	クラコフの王子たち	コストリュック	ニキタ・ロマノヴィチ	グリシュカ・アトレ ピェフ	バーシリ・アクリェ ヴィッチ		
	開始の手の位置	P. L. +S. R. +S. L.	P. L.	P. R.	P. R.	S. R. +S. L.		
		垂直的な様式。	両方の様式。	垂直的な様式。	水平的な様式。	垂直的な様式。		
S	特徴	Pが旋律、Sが伴奏を担	Pの旋律に対してSが伴奏を担うが、垂直的な部分と水平的な部分があり、 サウンドに変化をもたらしている。	Pが終始旋律を担う。S の伴奏はコラール風な	各手に与えられた旋 律が水平的に重ねら れ、次第に厚い層を 形成する。	Pの旋律に対してSは厚い響きで支える。音域 が広がるとダイナミク スも大きくなる。		
Н	調性	gis-moll	h-mol1	f-mol1	Es-dur	Des-dur		
П	保続音の有無	有り	有り	無し	無し	有り		
М	モチーフの関連性		無し					
IVI	民謡、旋法、既存の旋律の借用	民謡						
R	特徴 (ヘミオラ、GP等)	付点のリズム	フェルマータ、3連音符	無し	無し	ヘミオラ		

# 29. 1898年 (連弾) M. バラーキレフ 《30のロシア民謡》 No. 11~No. 15 チェックシート

視点		11	12	13	14	15			
	小節数	30小節	20小節	16小節	17小節	28小節			
	拍子	4分の3拍子	4分の2拍子	8分の6拍子	8分の6拍子	4分の2拍子			
G	Tempoと性格	Adagio	Allegro scherzando	Andantino	Andantino	Andante			
G	形式	2部形式	2部形式	2部形式	2部形式	2部形式			
	タイトル	山賊の兄弟と姉妹	鳥と獣	結婚の歌	結婚の歌	結婚の歌			
	開始の手の位置	P. R.	S. L.	P. R. +S. R.	S. L.	S. L.			
	特徴	水平的な様式。	垂直的な様式。	垂直的な様式。	垂直的な様式。	垂直的な様式。			
S		各手に与えられた旋律 が層を形成して豊かな 響きを生み出してい る。	Pは旋律、Sは伴奏を担 う。Sの分散和音の伴奏 は、響きに広がりを与え ている。	Pの旋律に対してSの伴 奏が躍動感を与えてい る。	Pの旋律に対し、Sは 伴奏と対旋律を担 う。	Pは旋律、Sは伴奏を担 う。Sの分散和音の伴 奏は、響きに広がりを 与えている。			
Н	調性	d-mol1	F-dur	es-moll	fis-moll	Fis-dur			
11	保続音の有無	無し	無し有り		有り	有り			
M	モチーフの関連性		無し						
191	民謡、旋法、既存の旋律の借用		民謡						
R	特徴(ヘミオラ、GP等)		無し						

## 29. 1898年(連弾) M. バラーキレフ《30のロシア民謡》 No. 16~No. 20 チェックシート

視点		16	17	18	19	20	
	小節数	32小節	24小節	80小節	32小節	27小節	
	拍子	4分の2拍子	4分の3拍子	4分の2拍子	4分の2拍子	4分の3拍子	
G	Tempoと性格	Allegro con fuoco	Andante	Allegretto	Andante	Allegro moderato energico	
ď	形式	2部形式	2部形式	2部形式	2部形式	2部形式	
	タイトル	結婚の歌	結婚の歌	結婚の歌	結婚の歌	結婚の歌	
	開始の手の位置	S. L.	P. R. +S. R.	P. R. +S. R.	P. R. +S. L.	S. R.	
		垂直的な様式。	水平的な様式。	垂直的な様式。	水平的な様式。	垂直的な様式。	
S	特徴	ラ。30万敗和百0万円 本形は 郷キに広ぶり	各手に与えられた旋律が 層を形成している。4手 が独立している。	律を担う。PとSの旋律	各手が独立した声部 として確立し、複数 の旋律が絡み合う。 水平的だがS.L.にオ クターブを置くので 密度が高い。	Pは旋律、Sは伴奏を担 当。Sのリズムが曲を 支配する。	
Н	調性	D-dur	G-dur	As-dur	F-dur	h-mol1	
П	保続音の有無	有り	有り	有り	有り	有り	
M	モチーフの関連性	<b>無</b> し					
1V1	民謡、旋法、既存の旋律の借用	民謡					
R	特徴(へミオラ、GP等)	無し	無し	無し	無し	3連音符	

# 29. 1898年(連弾) M. バラーキレフ《30のロシア民謡》 No. 21~No. 25 チェックシート

視点		21	22	23	24	25	
	小節数	9小節	61小節	27小節	38小節	52小節	
	拍子	4分の5拍子	4分の2拍子	4分の2拍子	4分の2拍子	4分の2拍子	
G	Tempoと性格	Largo	Allegro vivo	Allegro moderato	Allegro non troppo	Allegretto	
ď	形式	2部形式	2部形式	2部形式	2部形式	2部形式	
	タイトル	陽気な結婚の歌	陽気な結婚の歌	私は庭の中へゆく	私達の広い道	輪舞の歌	
	開始の手の位置	P. R.	S. R. +S. L.	S. R.	S. L.	S. R.	
		水平的な様式。	垂直的な様式。	水平的な様式。	垂直的な様式。	垂直的な様式。	
S	特徴	与えられ、各手が独立	Pは旋律、Sは伴奏を担 う。Sのリズムが曲を支 配する。		Pが旋律、Sが伴奏を 担当。リズムが曲を 支配する。	Pが旋律、Sが伴奏を担 当。Sのリズムの変化 が曲を支配する。	
Н	調性	fis-moll	a-moll	D-dur	fis-moll	b-moll	
п	保続音の有無	無し	有り	無し	有り	有り	
M	モチーフの関連性	無し					
NI	民謡、旋法、既存の旋律の借用	民謡					
R	特徴 (ヘミオラ、GP等)	無し	3連音符	無し	シンコペーション	無し	

# 29. 1898年(連弾) M. バラーキレフ《30のロシア民謡》 No. 26~No. 30 チェックシート

視点		26	27	28	29	30	
	小節数	16小節	20小節	39小節	26小節	13小節	
	拍子	4分の3拍子	4分の4拍子	4分の2拍子	4分の2拍子	4分の3拍子	
	Tempoと性格	Andante	Adagio	Andante	Andante	Adagio	
G	形式	2部形式	2部形式	2部形式	2部形式	2部形式	
	タイトル	セイヨウナナカマドの 実とラズベリー	何という心臓	私の愛しい人よ、その 草原を歩くには十分だ	ああ、あなたは冬だ	彼女はなった、彼女は 大佐の妻になった	
	開始の手の位置	P. R. +S. R.	S. R.	S. R.	P. R. +S. R.	P. L.	
		水平的な様式。	水平的な様式。	水平的な様式。	水平的な様式。	水平的な様式。	
S	特徴	終始P. R. とS. R. が旋律を担う。最後に旋律にわずかに和声をつけており、単声聖歌のようである。	各手に与えられた旋律が 層を形成している。	Pが終始旋律を担う。 特にS. L. のバスが全体 を支える重要な役割を 担う。	う。Sの伴奏は次第に	各手に与えられた旋律 が層を形成して響きを 生み出している。	
11	調性	gis-moll	f-moll	As-dur	h-mol1	Ges-moll	
Н	保続音の有無	無し	無し	有り	無し	無し	
М	モチーフの関連性	無し					
M	民謡、旋法、既存の旋律の借用	民謡					
R	特徴(ヘミオラ、GP等)			無し			

## 31. 1901年 (2台ピアノ) S. ラフマーニノフ 《組曲第2番 op. 17》 チェックシート

視点		1	2	3	4	
	小節数	166小節	493小節	143小節	584小節	
	拍子	2分の2拍子	4分の3拍子	8分の6拍子	8分の6拍子	
G	Tempoと性格	Alla marcia	Presto	Andantino	Presto	
G	形式	複合3部形式	複合3部形式	複合3部形式	複合3部形式	
	タイトル	序奏	ワルツ	ロマンス	タランテラ	
	開始の手の位置	4手同時	S. R. +S. L.	S. L.	S. R. +S. L.	
		垂直的な様式。	垂直的な様式。	水平的な様式。	垂直的な様式。	
S	特徴	両パートによるTuttiの部分とPが旋律を担う部分が交互に現れ、対比が生まれる。	旋律と伴奏の役割が明確で、 声部交換をして発展してい く。	曲が進行するにつれて、新しい要素を取り入れている。またピアニスティックな音型が 増える。	旋律と伴奏の役割が明確で、声 部交換をして発展していく。	
Н	調性	C-dur	G-dur	As-dur	c-mol1	
11	保続音の有無	有り	有り	無し	有り	
M	モチーフの関連性			無し		
IVI	民謡、旋法、既存の旋律の借用			無し		
R	特徴(ヘミオラ、GP等)	無し	ヘミオラ	無し	ヘミオラ	

# 32. 1902年 (2台ピアノ) A. アレーンスキイ《組曲第4番 op. 62》チェックシート

視点		1	2	3	4	
	小節数	48小節	98小節	111小節	177小節	
	拍子	2分の2拍子	4分の3拍子	4分の4拍子	4分の3拍子	
G	Tempoと性格	Allegro maestoso	Andantino	Adagio	Presto	
G	形式	3部形式	4つの部分	4つの部分	4つの部分	
	タイトル	プレリュード	ロマンス	夢	フィナーレ	
	開始の手の位置	4手同時	P. R.	P. L. +S. L.	P. R. +S. R. +S. L.	
		垂直的な様式。	両方の様式。	両方の様式。	両方の様式。	
S	特徴	Sが旋律を担い、主導権を 握る。Pは終始伴奏を担 う。	PとSは対等。旋律と伴奏の 役割を交替することによっ て発展していく。		PとSは対等。旋律と伴奏の役割を交替することによって発展していく。	
Н	調性	Des-dur	as-moll→As-dur	E-dur	cis-moll	
П	保続音の有無	無し	無し	有り	有り	
М	モチーフの関連性	無し	第1曲目の旋律に類似。	無し	第1,2,3曲目の旋律を引用。	
IVI	民謡、旋法、既存の旋律の借用	無し				
R	特徴(ヘミオラ、GP等)	無し	無し	フェルマータの多用	ヘミオラ	

# 33. 1903年 (連弾) A. アレーンスキイ《12の小品 op. 66》No. 1~No. 6 チェックシート

視点		1	2	3	4	5	6	
	小節数	24小節	48小節	74小節	64小節	56小節	24小節	
	拍子	4分の4拍子	4分の4拍子	4分の4拍子	4分の3拍子	4分の4拍子	4分の4拍子	
G	Tempoと性格	Adagio	Allegro non troppo	表記無し	Allegro non troppo	Andante	Allegretto	
G	形式	2部形式	2部形式	3部形式	2部形式	3部形式	3部形式	
	タイトル	プレリュード	ガヴォット	バラード	メヌエット	エレジー	コンソレーション	
	開始の手の位置	S. L.	P. R. +S. R.	4手同時	P. R.	P. R. +S. L.	P. R.	
		水平的な様式。	垂直的な様式。	垂直的な様式。	垂直的な様式。	垂直的な様式。	水平的な様式。	
S	特徴	PとSで頻繁に旋律の 掛け合いが見られ る。	Sの伴奏は8分音符の 躍動するリズムを持 つ。伴奏の和音の密 度は高くないので軽 快である。	冒頭に提示される主 題に複数の対旋律が 組み合わされて発展 する。	Pは旋律、Sは伴奏を 担う。音の密度を高 くする場合にはS. L. に5度音程を置くこ とが多い。	Pの旋律にSが単純な 和音で伴奏する。中 間部分では一時的に 水平的な様式にな り、サウンドを変化 させている。	4手それぞれの動きを重 ねて層を形成してい る。	
Н	調性	e-moll	G-dur	g-moll	Es-dur	c-mol1	G-dur	
П	保続音の有無	有り	有り	無し	有り	無し	無し	
М	モチーフの関連性			4	無し			
IVI	民謡、旋法、既存の旋律の借用	無し						
R		付点のリズム	無し	付点のリズム	無し	無し	無し	
I	特徴(ヘミオラ、GP等)			アクセントの多用				

# 33. 1903年 (連弾) A. アレーンスキイ《12の小品 op. 66》 No. 7~No. 12 チェックシート

視点		7	8	9	10	11	12
	小節数	205小節	100小節	26小節	395小節	44小節	64小節
	拍子	4分の3拍子	4分の4拍子	4分の3拍子	4分の3拍子	2分の2拍子	4分の2拍子
G	Tempoと性格	Allegro non troppo	Allegro	Andante	Allegro	Andantino	Allegro non troppo
G	形式	複合3部形式	3部形式	3部形式	複合3部形式	3部形式	3部形式
	タイトル	ワルツ	行進曲	ロマンス	スケルツォ	子守歌	ポルカ
	開始の手の位置	S. L.	4手同時	4手同時	P. R.	P. L. +S. R. +S. L.	P. L.
		垂直的な様式。	垂直的な様式。	水平的な様式。	垂直的な様式。	水平的な様式。	垂直的な様式。
S			密集した和音が厚み	旋律を重ね、層を形	奏と旋律と対旋律を 担う。さらにPの旋律 の一部を用いて掛け	を担うことが多い。	Pは主に旋律、Sは伴奏 と対旋律を担う。セク ションごとに密度を変 化させている。
11	調性	C-dur⇔c-moll	G-dur	C-dur	c-mol1	B-dur	F-dur
Н	保続音の有無	有り	有り	無し	有り	有り	有り
М	モチーフの関連性			4	無し		
M	民謡、旋法、既存の旋律の借用	無し	無し	無し	無し	無し	無し
R	特徴 (ヘミオラ、GP等)	無し	付点のリズム	無し	ヘミオラ	シンコペーション	シンコペーション

#### 34. 1904年 (2台ピアノ) A. アレーンスキイ 《カノン形式による組曲 op. 65》 No. 1~No. 4 チェックシート

視点		1	2	3	4		
	小節数	23小節	28小節	93小節	36小節		
	拍子	2分の3拍子	4分の4拍子	4分の3拍子	4分の2小節		
G	Tempoと性格	Allegro moderato	Andante sostenuto	Allegro	Andantino		
_	形式	2部形式	3部形式	3部形式	3部形式		
	タイトル	プレリュード	アリア	小スケルツォ	ガヴォット		
	開始の手の位置	P. R.	P. R. +P. L. +S. L.	P. R. +P. L. +S. L.	P. R. +P. L.		
		水平的な様式。	水平的な様式。	両方の様式。	水平的な様式。		
S	特徴	2声のカノン。Pの提示する テーマに対して、Sの応答 は2倍の音価に拡大されて いる。後半は役割を交替す る。	各奏者の右手が2声のカノ ンになっている。PとSの左 手はオクターヴのユニゾン でBasso continuoを演奏す る。	各奏者の右手が2声のカノ ンになっている。PとSの左 手は伴奏を担う。S.L.に5 度音程を多用している。	各奏者の右手が2声のカノ ンになっている。PとSの左 手は伴奏を担う。		
11	調性	A-dur	a-moll	C-dur	G-dur		
Н	保続音の有無	無し	無し	無し	有り		
М	モチーフの関連性	無し					
M	民謡、旋法、既存の旋律の借用	無し					
R	特徴 (ヘミオラ、GP等)	無し	無し	無し	シンコペーション		

#### 34. 1904年 (2台ピアノ) A. アレーンスキイ 《カノン形式による組曲 op. 65》 No. 5~No. 8 チェックシート

視点		5	6	7	8		
	小節数	76小節	56小節	48小節	63小節		
	拍子	4分の2拍子	4分の4拍子	4分の3拍子	4分の3拍子		
G	Tempoと性格	Andante	Andantino	Allegro capriccioso	Allegro moderato		
G	形式	3部形式	3部形式	3部形式	3部形式		
	タイトル	エレジー	ロマンス	間奏曲	ポロネーズ風に		
	開始の手の位置	P. R. +S. R.	P. R.	P. R. +P. L. +S. L.	P. R. +P. L. +S. L.		
		水平的な様式。	両方の様式。	両方の様式。	両方の様式。		
S	特徴	P. R. とS. L. が2声のカノン になっている。そのほか のパートは対旋律を担 う。	各奏者の右手が2声のカノ ンになっている。PとSの 左手は伴奏を担う。	各奏者の右手が2声のカノ ンになっている。PとSの 左手は伴奏を担う。	各奏者の右手が2声のカノ ンになっている。PとSの 左手は伴奏を担う。		
	調性	d-mol1	F-dur	a-mol1	A-dur		
Н	保続音の有無	無し	有り	無し	無し		
М	モチーフの関連性	無し					
М	民謡、旋法、既存の旋律の 借用	無し					
R	特徴(ヘミオラ、GP等)	3連音符	無し	無し	シンコペーション		

# 35.1905年(連弾) C.キュイー《5指のための10の小品 op.74》 No.1~No.5 チェックシート

視点		1	2	3	4	5	
	小節数	27小節	31小節	35小節	32小節	45小節	
	拍子	4分の4拍子	8分の6拍子	4分の2拍子	4分の3拍子	4分の2拍子	
G	Tempoと性格	Moderato	Allegretto	Andante non troppo	Moderato	Allegretto	
G	形式	2部形式	3部形式	2部形式	2部形式	2部形式	
	タイトル	鳥のお葬式	お馬	灰色の一日	ママの不満	喜びのロンド	
	開始の手の位置	P. R. +P. L. +S. L.	P. R. +P. L.	S. R. +S. L.	S. L.	S. R.	
		垂直的な様式。	両方の様式。	垂直的な様式。	垂直的な様式。	両方の様式。	
S	特徴	Pが旋律、Sが伴奏を 担当し、役割が固定 されている。	Pが旋律、Sが伴奏を 担当し、役割が固定 されている。また S. R. は対旋律を担 う。	主にPが旋律、Sが伴奏を担当し、役割が固定されている。	主にPが旋律、Sが 伴奏を担当し、役 割が固定されてい る。	垂直的な様式だが、 旋律を対位法的に配 置している。PとSに よる旋律の掛け合い がある。	
11	調性	c-mol1	F-dur	fis-moll	d-mol1	E-dur	
Н	保続音の有無	有り	有り	有り	有り	有り	
М	モチーフの関連性	無し					
M	民謡、旋法、既存の旋律の借用	無し					
R	特徴(ヘミオラ、GP等)	無し	付点のリズム	無し	シンコペーション	無し	

## 35.1905年(連弾) C.キュイー《5指のための10の小品 op.74》 No.6~No.10 チェックシート

視点		6	7	8	9	10	
	小節数	47小節	27小節	121小節	64小節	26小節	
	拍子	8分の6拍子	4分の4拍子	4分の3拍子	2分の2拍子	4分の4拍子	
G	Tempoと性格	Allegretto	Allegro non troppo	Tempo di Valse	Allegro non troppo	Tempo di marcia	
0	形式	2部形式	3部形式	3部形式	3部形式	2部形式	
	タイトル	小さな羊飼い	ロシアの踊り	人形の舞踏会	オリエンタル	厳格な行進曲	
	開始の手の位置	P. R. +P. L. +S. L.	P. L. +S. L.	4手同時	P. R. +P. L.	P. R. +P. L.	
		両方の様式。	両方の様式。	垂直的な様式。	垂直的な様式。	垂直的な様式。	
S	特徴	コーダの部分だけ旋	Pは水平的な様式で書かれ、Sは垂直的な様式で書かれている。	主にPが旋律、Sが伴奏を担当し、役割が固定されている。	Pが旋律、Sが伴奏 を担当する。Sに対 旋律が与えられて いる。	主にPが旋律、Sが伴 奏を担当し、役割が 固定されている。	
11	調性	e-moll→E-dur	G-dur	A-dur	d-mol1	As-dur	
Н	保続音の有無	有り	有り	有り	有り	有り	
М	モチーフの関連性	無し					
IVI	民謡、旋法、既存の旋律の借用	無し					
R	特徴(ヘミオラ、GP等)	無し	無し	へミオラ	3連音符	無し	

# 36. 1906年(連弾) S. ラフマーニノフ〈イタリアン・ポルカ〉 チェックシート

視点		
	小節数	96小節
	拍子	4分の2拍子
G	Tempoと性格	記載無し
G	形式	3 部形式
	タイトル	イタリアン・ポルカ
	開始の手の位置	P. R.
S	特徴	垂直的な様式。基本的にPが旋律を、Sが伴奏を担当する。役割が固定されたままである。
Н	調性	es-moll→Es-dur
П	保続音の有無	無し
	モチーフの関連性	無し
M	民謡、旋法、既存の旋律の借用	無し
R	特徴 (ヘミオラ、GP等)	無し

### 37. 1907年 (2台ピアノ) C. キュイー《3つの小品 op. 69》 チェックシート

視点		1	2	3
	小節数	96小節	194小節	193小節
	拍子	4分の3拍子	8分の9拍子	4分の4拍子 (カッコして8分の12拍子と併記してあ る。)
G	Tempoと性格	Moderato	Andante non troppo	Tempo di Marcia
	形式	複合3部形式	複合3部形式	複合3部形式
	タイトル	間奏曲	夜想曲	行進曲
	開始の手の位置	4手同時	P. L. +S. L.	4手同時
		垂直的な様式。	垂直的な様式。	垂直的な様式。
S	特徴	Pが旋律、Sが伴奏を担う。Sには 対旋律も与えている。Sの伴奏は	添えて伴奏している部分がある。	PとSが対等に扱われている。重厚な和音が旋律を支えている。提示された旋律に対して伴奏を変奏している。変奏する度に曲は複雑になっていく。
	調性	D-dur	Des-dur	F-dur
Н	保続音の有無	有り	有り	有り
M	モチーフの関連性		無し	
IVI	民謡、旋法、既存の旋律の借用		無し	
R	特徴(ヘミオラ、GP等)	付点のリズム	無し	付点のリズム、3連音符

## 38. 1909年(連弾) R.グリエール《12の小品 op.48》 No.1~No.6 チェックシート

視点		1	2	3	4	5	6
	小節数	38小節	59小節	71小節	25小節	46小節	26小節
	拍子	4分の6拍子 4分の3拍子		8分の5拍子	8分の9拍子	4分の2拍子	4分の3拍子、4分の2拍 子
G	Tempoと性格	Moderato	Moderato	Vivace	Andante	Allegro moderato	Allegretto
	形式	3部形式	3部形式	3部形式	3部形式	3部形式	2部形式
	タイトル	プレリュード	ワルツ	スケッチ	嘆き	エチュード	羊飼いの歌
	開始の手の位置	S. R. +S. L.	P. R.	P. R.	4手同時	P. L.	P. R.
		垂直的な様式。	垂直的な様式。	水平的な様式。	両方の様式。	垂直的な様式。	水平的な様式。
S	特徴	4手による密集した和 音が厚い響きを形成し ている。	垂直的な様式で書かれ ているが、さほど音の 密度が高くないため軽 快な音楽になってい る。	手同時打鍵による垂直 的な響きが用いられて	旋律を対位法的に 扱っている。狭い音 程の中で音楽が構成		極めて薄い層から成り立つ。Pが主旋律を持ち、Sは対旋律と単純なハーモニーを担当する。
11	調性	H-dur	A-dur	D-dur	es-moll	B-dur	F-dur
Н	保続音の有無	有り	有り	無し	有り	無し	有り
М	モチーフの関連性			無し	,		
191	民謡、旋法、既存の旋律の借用			無し			
R	特徴(ヘミオラ、GP等)	無し	シンコペーション	2+3の5拍子	無し	無し	シンコペーション

# 38. 1909年(連弾) R.グリエール《12の小品 op.48》 No.7~No.12 チェックシート

視点		7	8	9	10	11	12
	小節数	26小節	45小節	65小節	32小節	110小節	56小節
	拍子	2分の2拍子	8分の4拍子	4分の3拍子	8分の6拍子	4分の2拍子	8分の12拍子
G	Tempoと性格	Animato	Andante	Grazioso	Andantino	Vivace	Allegro
G	形式	3部形式	2部形式	3部形式	2部形式	複合3部形式	複合3部形式
	タイトル	アラベスク	夢	マズルカ	フゲッタ	スケルツォ	オリエンタル
	開始の手の位置	S. L.	P. R. +P. L. +S. R.	P. L. +S. R.	P. L.	P. R.	S. R.
		水平的な様式。	垂直的な様式。	垂直的な様式。	水平的な様式。	垂直的な様式。	垂直的な様式。
S	特徴	部では、Pが提示した思照の技法の動機	冒頭の旋律の動機はわれている		PとSにそれぞれ旋律 が与えられている。 全ての旋律が対等に 扱われ、独立した動 きを持つ。		P. R. が担う旋律を P. L. の単純な和声とS の保続音で伴奏す る。伴奏のリズムは 常に同じ。
Н	調性	C-dur	As-dur	cis-moll	d-mol1	As-dur	a-moll
П	保続音の有無	無し	有り	有り	無し	有り	有り
M	モチーフの関連性			:	無し		
M	民謡、旋法、既存の旋律の 借用				無し		
R	特徴 (ヘミオラ、GP等)	シンコペーション	3連音符	3連音符	無し	無し	無し
IV	15	77 <del>11</del>	シンコペーション	付点のリズム	<b>無</b> し	<i>₩</i> 0	<i>₩</i> ∪

### 39. 1909年(連弾) M. バラーキレフ《組曲》 チェックシート

視点		1	2	3
	小節数	160小節	76小節	528小節
	拍子	4分の3拍子	4分の2拍子	4分の3拍子
G	Tempoと性格	Tempo di Polacca	Andantino	Allegro con fuoco
G	形式	複合3部形式	変奏形式	複合3部形式
	タイトル	ポロネーズ	悲しいワルツ	スケルツォ
	開始の手の位置	S. L.	S. R.	P. L.
		垂直的な様式。	水平的な様式。	垂直的な様式。
S	特徴	Pが旋律、Sが伴奏を担当する。Sの伴奏にはポロネーズのリズムが用いられている。重厚な和音の使用に加え、ポロネーズのリズムによる保続音が厚い響きを持続させている。	る。その後、この旋律はほかのパート	主にPが旋律、Sが伴奏を担当しているが、Sにも旋律が与えられ、主旋律に対して複雑に絡んでいく。リズミックな部分と非リズミックな部分の変化は曲の構成と結びついており、より一層コントラストを強めている。
Н	調性	cis-moll	fis-moll	Des-dur
П	保続音の有無		有り	
М	モチーフの関連性		無し	
IVI	民謡、旋法、既存の旋律の借用	無し	民謡風な旋律	無し
R	特徴(ヘミオラ、GP等)	ポロネーズのリズム	シンコペーション	同じリズムの反復

## 40. 1910年(2台ピアノ)R. グリエール《6つの小品 op. 41》 チェックシート

視点		1	2	3	4	5	6
	小節数	30小節	88小節	36小節	32小節	72小節	68小節
	拍子	4分の4拍子	4分の3拍子	4分の3拍子、 4分の5拍子	4分の7拍子	2分の2拍子	4分の3拍子
G	Tempoと性格	Moderato	Moderato	Allegro ma non troppo	Con moto	Allegretto	Vivo-Piu vivo- Vivo
ď	形式	3部形式	複合3部形式	2部形式	2部形式	複合3部形式	複合3部形式
	タイトル	プレリュード	悲しげなワルツ	シャンソン	バッソ・オスティナート	舞踊曲	マズルカ
	開始の手の位置	S. L.	S. L.	P. R.	P. L. +S. L.	4手同時	P. R. +P. L. +S. L.
		垂直的な様式。	垂直的な様式。	両方の様式。	垂直的な様式。	垂直的な様式。	垂直的な様式。
S	特徴	旋律と伴奏の役割が明 確で、声部交換によっ て展開していく。	Pが旋律を提示し、その後 Sがその旋律をユニゾンで Pと一緒に弾く。声部交換 はないが、掛け合いは多 い。	PとSがユニゾンで旋 律を演奏する部分 と、声部交換する部 分、複数の旋律を重 ねた部分から成り立 つ。		PがSよりも優位である。Pが旋律、Sは伴奏と対旋律を担う。声部交換が見られる。	PがSよりも優位で ある。Pが旋律、S は伴奏と対旋律を 担う。声部交換が 見られる。
Н	調性	e-moll	c-mol1	b-mol1	a-moll	B-dur	gis-moll
Н	保続音の有無	無し	無し	有り	有り	有り	無し
М	モチーフの関連性			無し	,		
IVI	民謡、旋法、既存の旋律の借用			無し	,		
R	特徴(ヘミオラ、GP等)	無し	無し	2+3の5拍子	4+3の7拍子	無し	マズルカのリズム

#### 41. 1915年(連弾) I. ストラヴィーンスキイ《3つのやさしい小品》 チェックシート

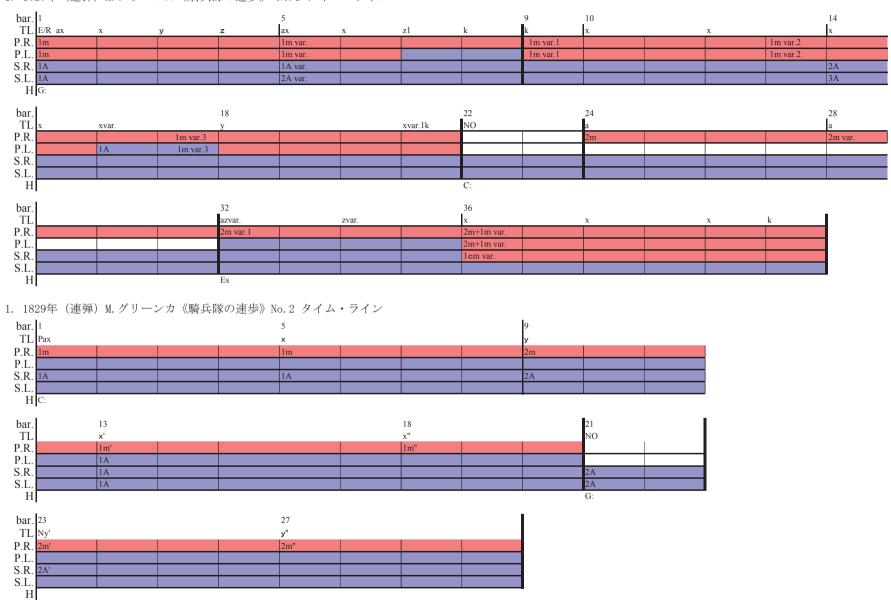
視点		1	2	3
	小節数	41小節	80小節	40小節
	拍子	4分の2拍子と、4分の3拍子	4分の3拍子	4分の2拍子
G	Tempoと性格	J=80	付点2分音符=66	J=96
G	形式	6つの部分	3部形式	3部形式
	タイトル	マーチ	ワルツ	ポルカ
	開始の手の位置	P. R. +P. L.	P. R. +S. L.	P. L. +S. L.
		常にPは簡単な旋律を担当し、Sは複直的な様式で書かれている。	夏雑な伴奏を奏する。(Pが生徒、Sがst	先生と設定されている。)3曲とも垂
S	特徴	Sの伴奏型は終始同じ形を繰り返すが、Pの旋律は様々に変化していく。	Sは2種類の和音しか与えられていない。Pの旋律は装飾的である。	Sは終始B-durのI度とV度の和音しか与えられていない。また第1曲目と第2曲目と同様に、Pの旋律は装飾的であり、刻々と変化していく。
Н	調性	無調	無調	調号は b 2つで記されているが、実質は無調である。
	保続音の有無		無し	
М	モチーフの関連性		無し	
M	民謡、旋法、既存の旋律の借用		無し	
R	特徴(へミオラ、GP等)	無し	ヘミオラ	シンコペーション

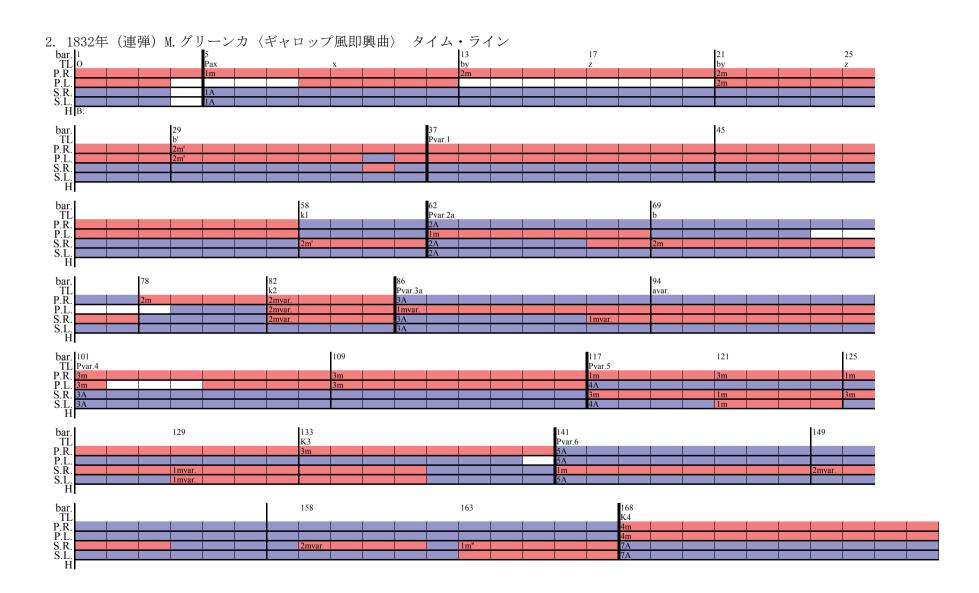
#### 42. 1917年(連弾) I. ストラヴィーンスキイ《5つのやさしい小品》チェックシート

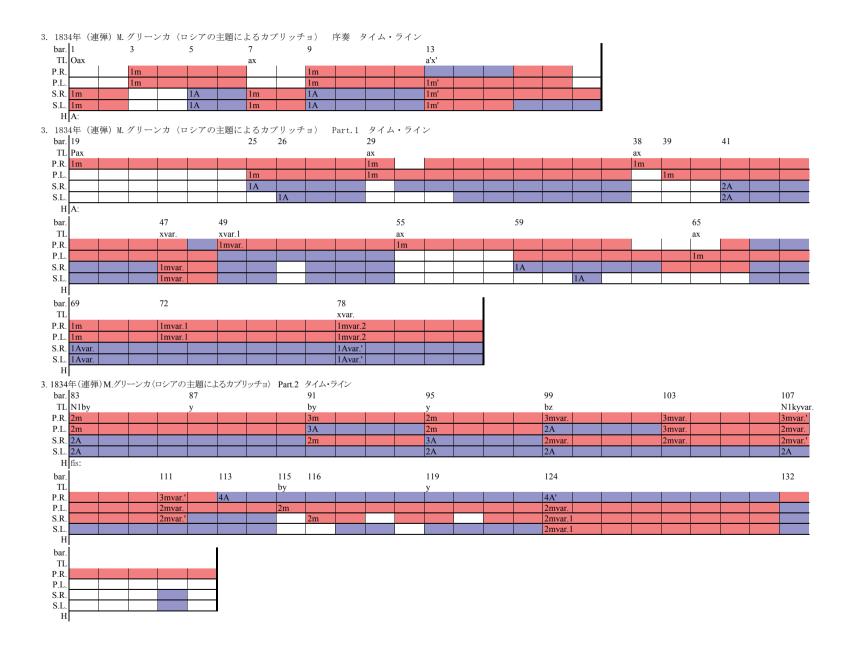
視点		1	2	3	4	5
	小節数	23小節	49小節	63小節	78小節	124小節
	拍子	4分の4拍子	8分の3拍子	4分の2拍子	8分の6拍子	4分の2拍子
G	Tempoと性格	J=76	J. =76	J=168	J.=138	J=126
G	形式	3部形式	2部形式	3部形式	3部形式	3部形式
	タイトル	アンダンテ	エスパニョーラ	バラライカ	ナポリターナ	ギャロップ
	開始の手の位置	S. R. +S. L.	S. R. +S. L.	4手同時	S. R. +S. L.	P. R. +P. L. +S. R.
		常にPは簡単な	よ旋律を担当し、Sは複雑	惟な伴奏を奏する。(Pカ	ぶ生徒、Sが先生と設定	されている。)
S	特徴	スティナートを形成 しており、8分音符の	垂直的な様式。終始S	は終始8分音符の連打 をしており窮動的な 動きをする。音の密 度は変化しないが、	水平的な様式。薄い サウンドに始まり、 次第に8音符の音型が 加わり厚い響きを形 成する。最後は再び 薄いサウンドに戻 る。	垂直的な構造。密集 した和音の連続によ り厚い響きを形成す る。バスに5度音程を 多用している。
Н	調性			無調		
11	保続音の有無	無し	無し	有り	有り	有り
М	モチーフの関連性			無し		
IVI	民謡、旋法、既存の旋律の借用			無し		
R	特徴(ヘミオラ、GP等)	無し	Sの伴奏型にヘミオラ	無し	同じリズムの反復	無し

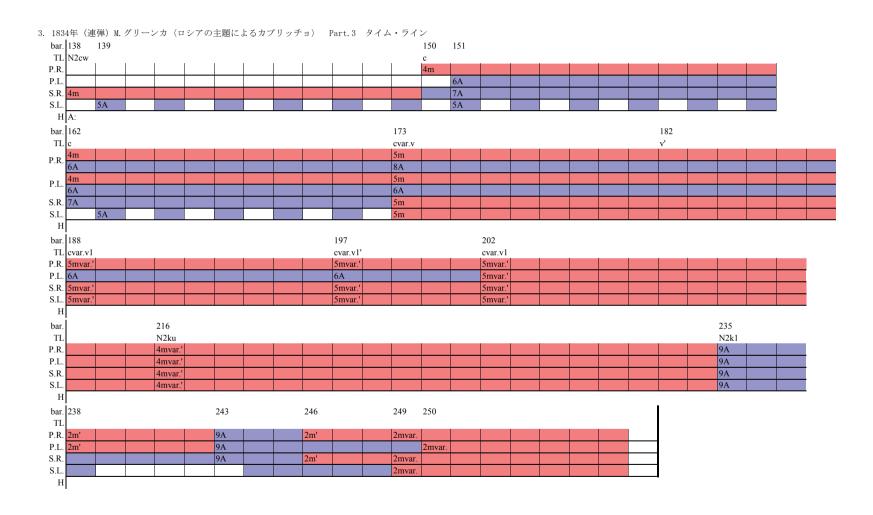
2. タイム・ライン

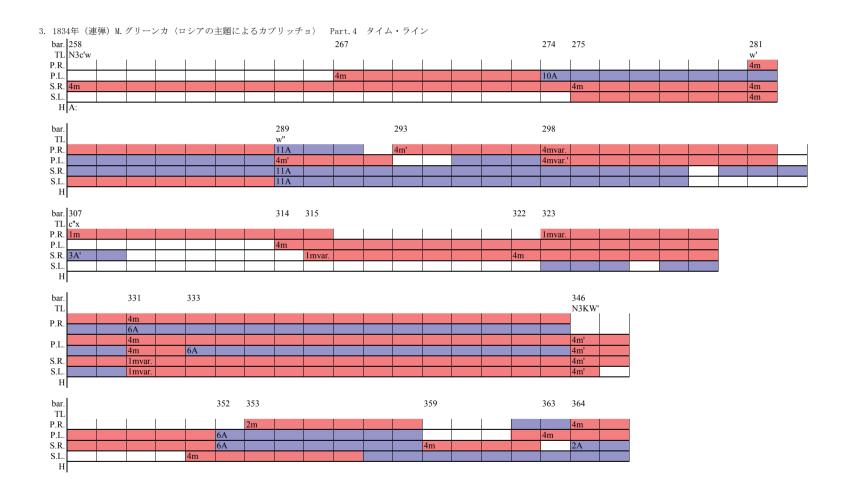
1. 1829年(連弾) M. グリーンカ《騎兵隊の速歩》 No.1 タイム・ライン

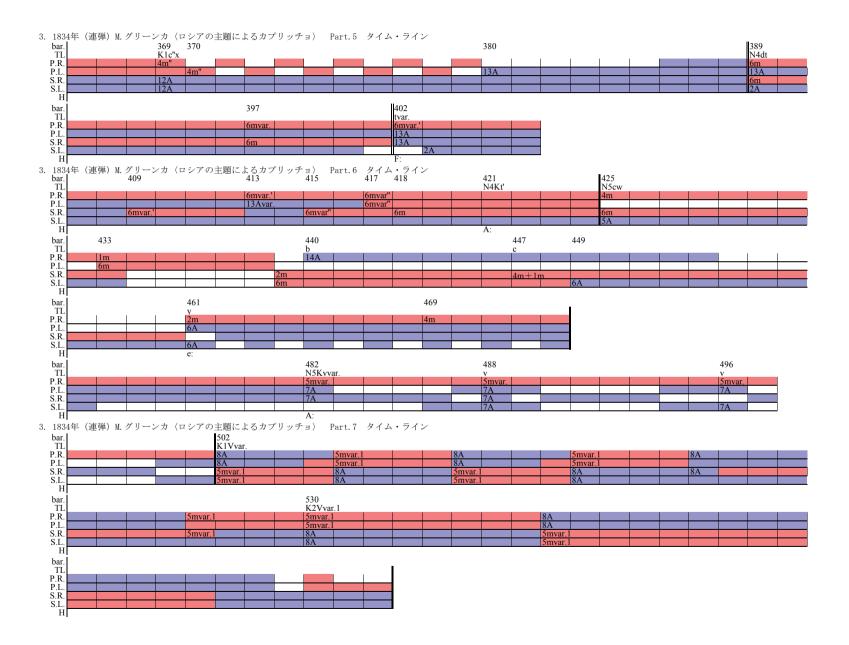


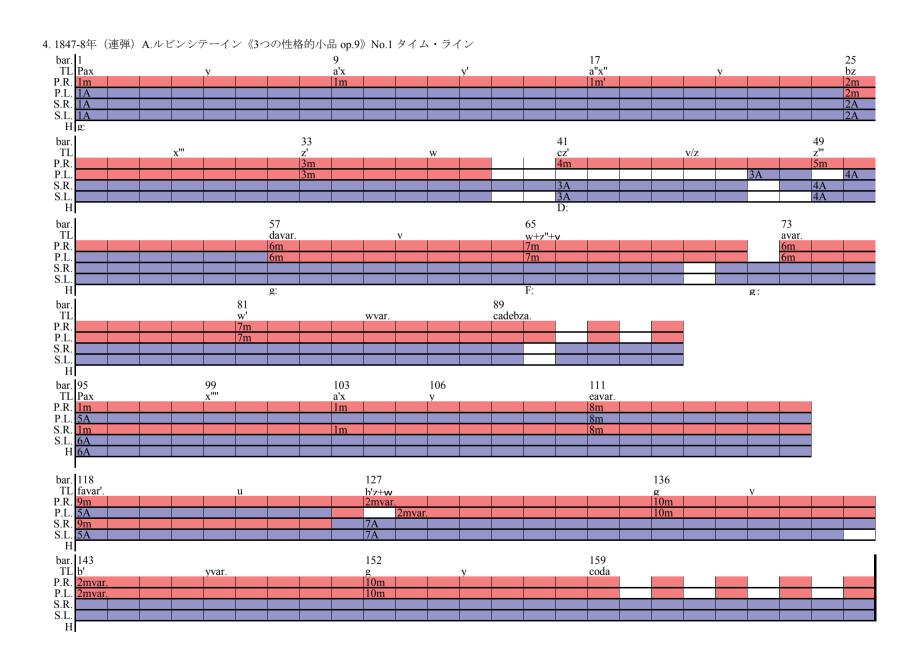




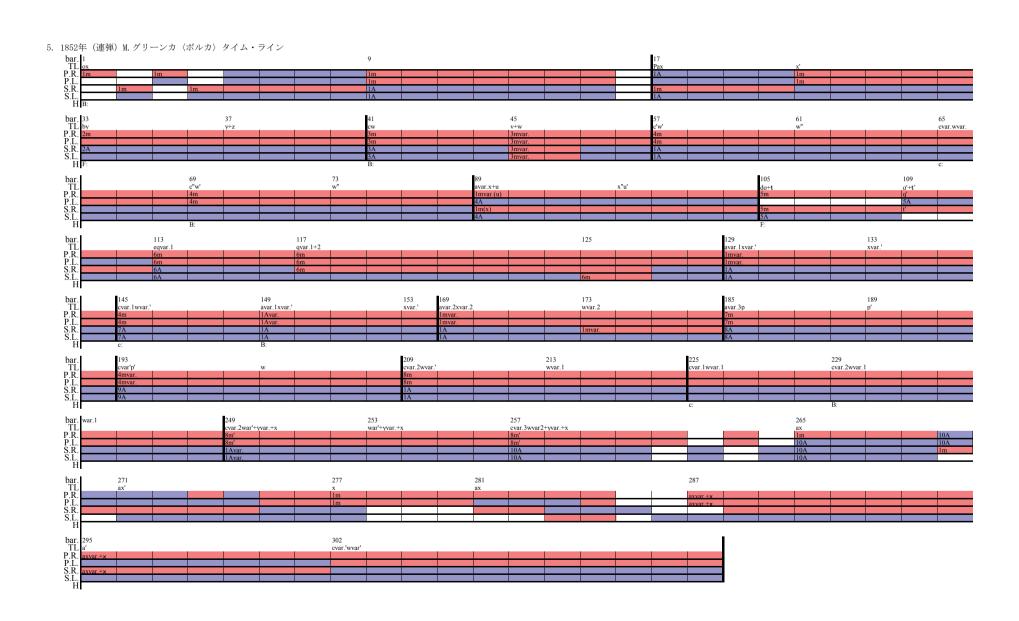


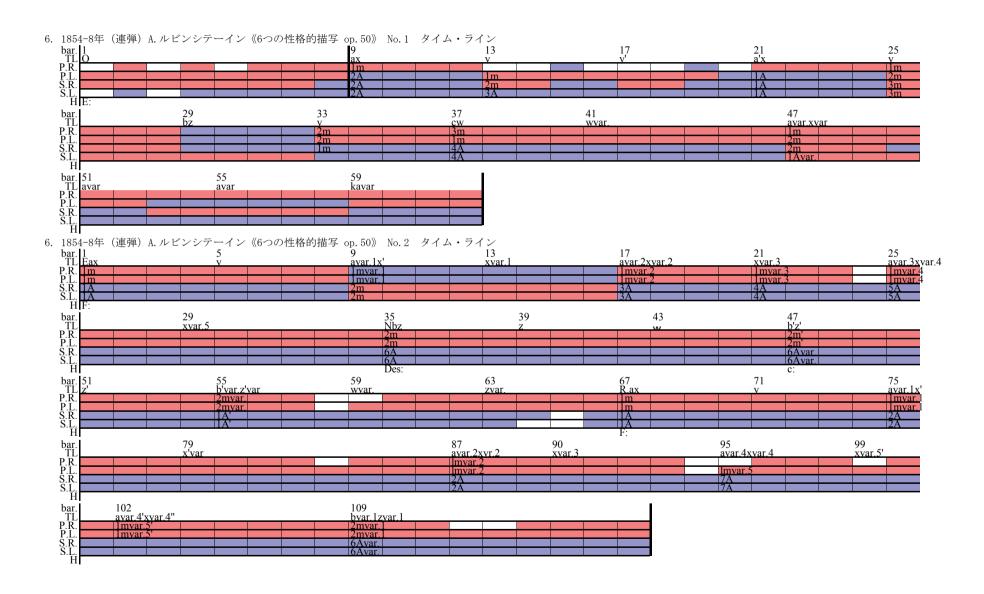


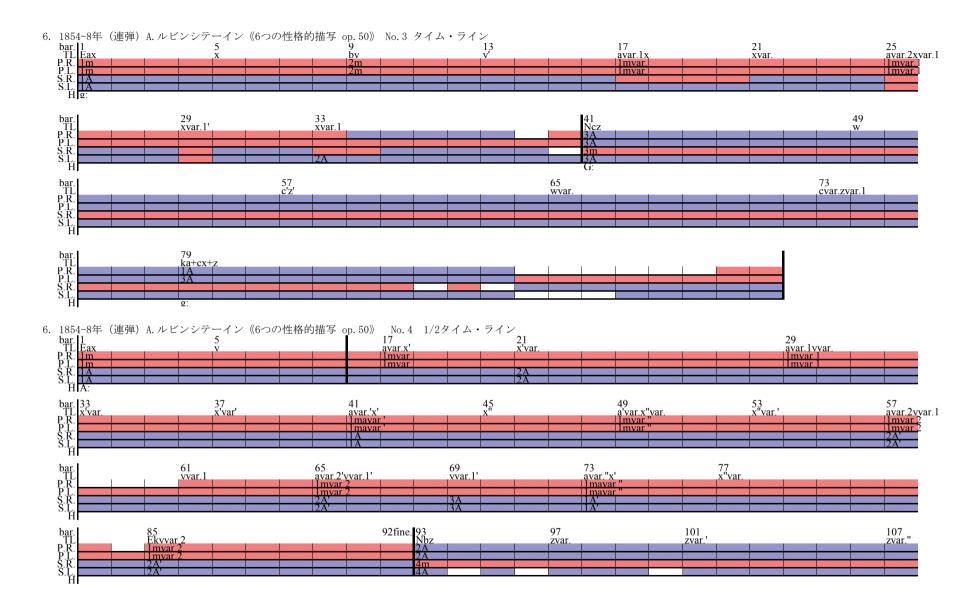


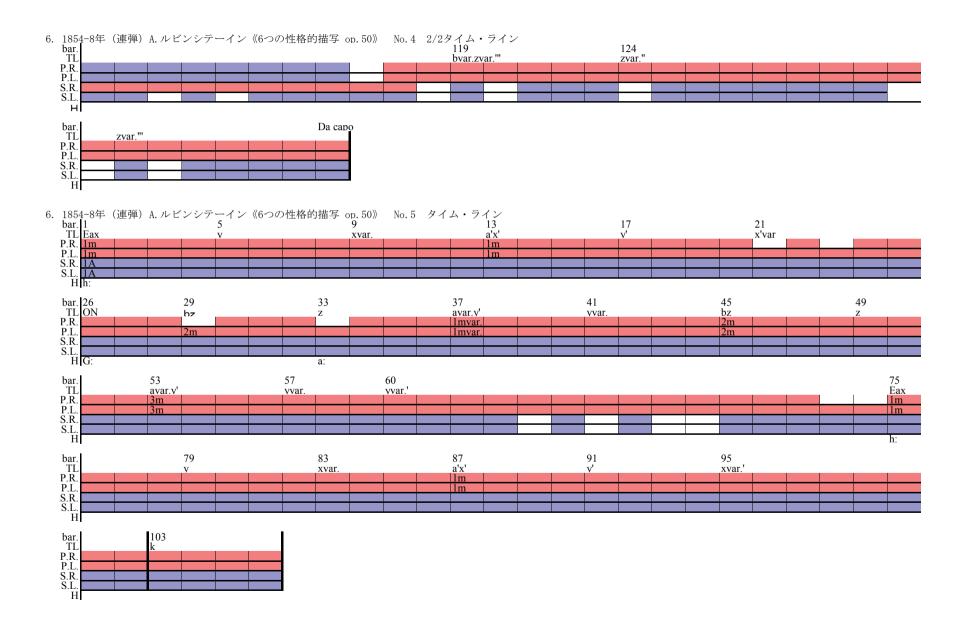


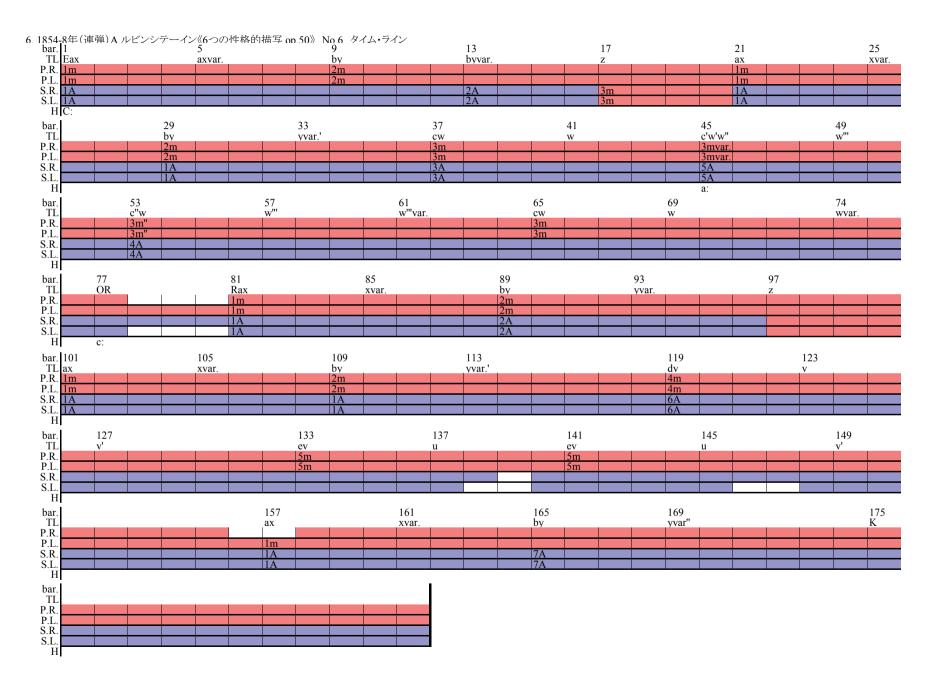
)	3 Eax	7 V		10 z	13 ax				17 x'			22 bw			_	
					1m	1							1A'			
	1m											2m				
A ,	IIII											1A'				
١;									E:	A:						
,	27	33			37			<b>4</b> 1		45						
ĺ	ow	No	ev		u			41 c'v		uvar					_	
	2m	3n	n					3mvar.								
	IA'	3n 2A						3mvar.								
		2 <i>F</i>	1													
		C:							ı						_	
	53					64			68			72		74		
	cadenza					Ra'x			v			z'		dxvar.		
						1m'								4m		
						3A 3A								4m 1A'		
						3A								1A'		
	A:					371			ı					121	_	
		82					90		93						I	
		dvar.xvar					coda		X							
		4mvar.														
							1.4									
							4A 4A									
						· ·	12.1		'							
-8年	(連弾) A.ルビンシテーィ	ン《3つの性格	的小品 or	9) No 3 5	7 イム・ラ	イン										
0 1	5	2 ((0.5 c) IT/II	9	,. 5// 110. 6	13	1 0			17		21					
ax	v		a'x		Z				z'		Nbw			v		
m			1m'								2m					
m A			1m'								2m					
A																
A						· ·			G:	e:						
9	33		37		41				45		49			53		
9 w'	33 v'		cu		u'				cvar.uvar.		t			Rax		
m'			3m						3mvar.					1m		4
m'			3m						3mvar.					1m		
			<u> </u>						<u>'</u>		<u> </u>					
7	61		65		69				73		77					
	a'x		Z		ava	ar.z"			zvar.		avar.z	var'.				
7	1m'				4m	1					4mvai					
	1m'										4mvai					

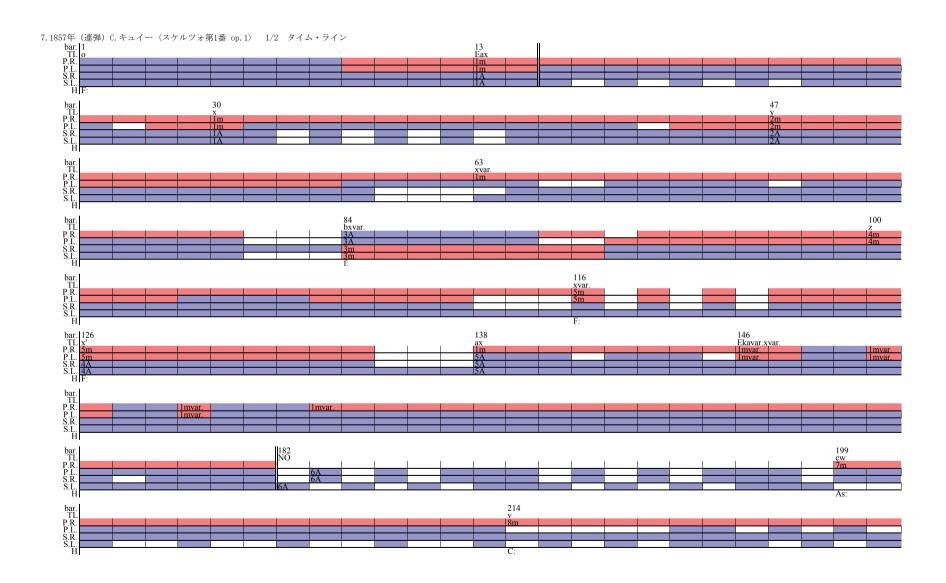


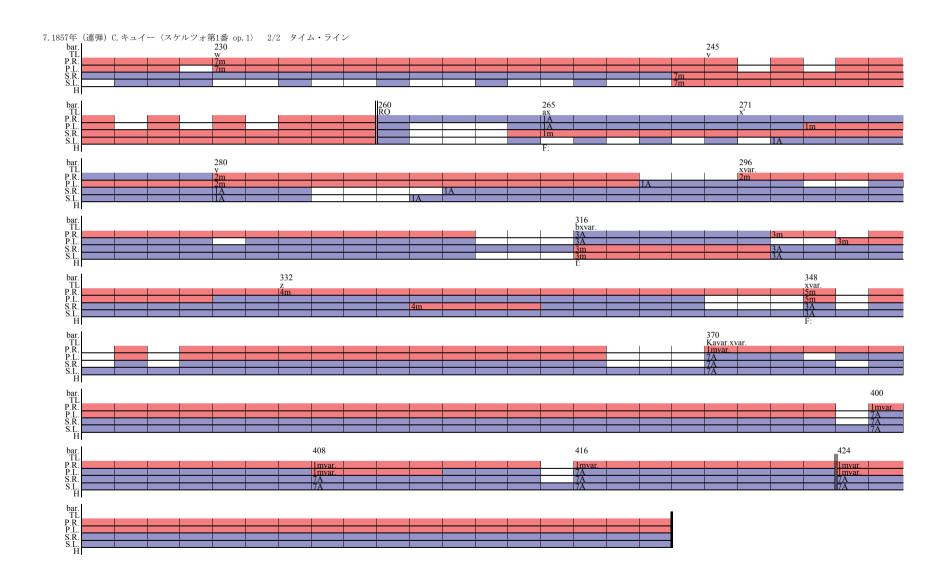


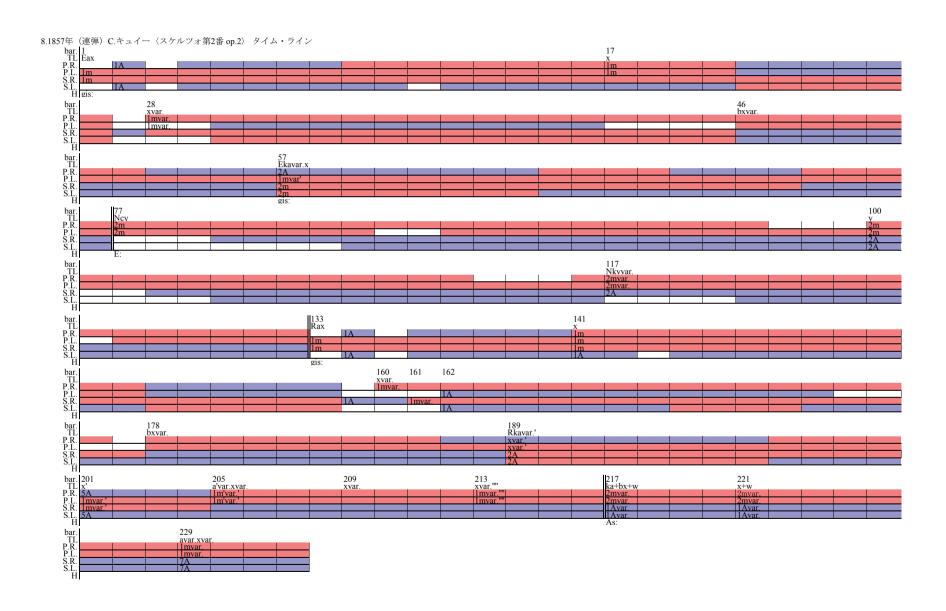






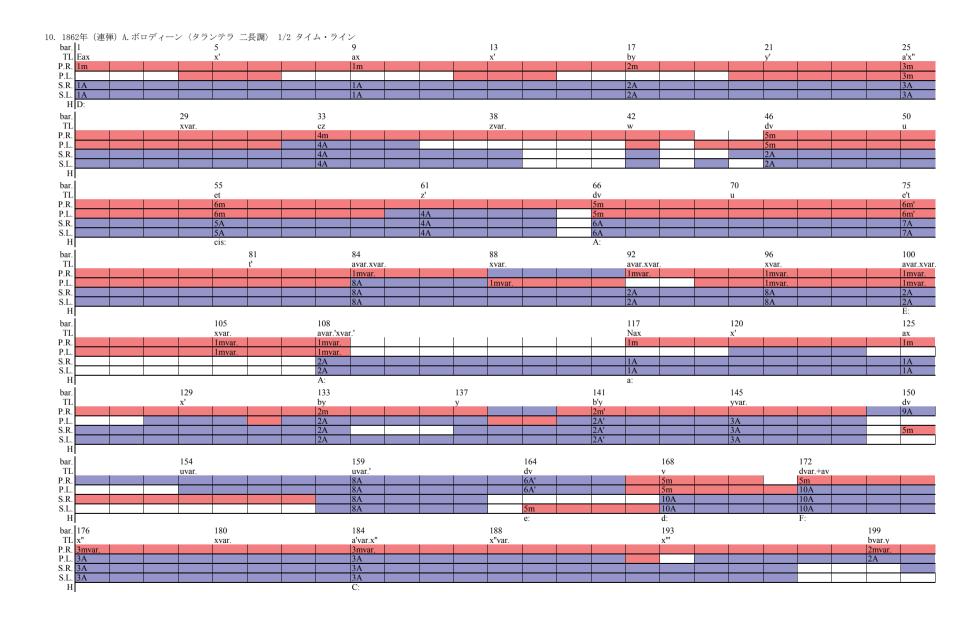


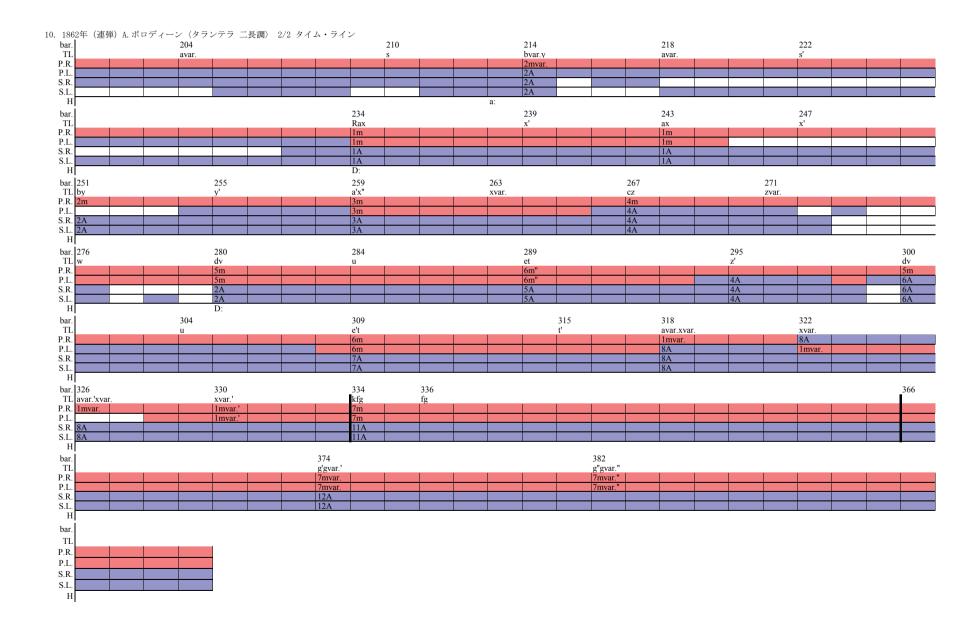




ır. 1		5		9		12	13 x"				17			21			
ar. 1 L Pax	X	5 x' 1m'		axvar			x"				17 a'x'			X	_	_	
R						1m'var					1m'var	.1		1m			
L.		1m'				1m'var					1Avar.			1m			
R. 1m	1	1A		1m							1Avar.			1m			
L. <mark>1m</mark> H C:	1	1A		1m							1Avar.			1m			
ar.			32					39					44				
ΓL	27 x'		32 y					39 y'					y 2m				
R	1m'var.1		2m					2m'									
L. R.	1m'var.1		2m					2m'					2m				
K.	1 Avar.		2A 2A					2A 2A					2A 2A				
L. H	1Avar.		2A					$\angle A$					ZA				
ar.	52			59							67						
ΓL	avar.'x'			X							avar."x						
R.	1mvar.			1mva	:.2						1mvar.						
L. R.	1A 2A			1A 2A							1mvar.	3					
L.	2A			2A 2A							2A						
H	2A			ZA							2/1						
ar.		79 PK			85			89 x'		91		93 x'	94				
ΓL		PK			ax		ń.	x'				x'					
R.					1m			, .		1m'		1m'var	.1				
L.					1m			1m'				1m'var					
R. L.					1m 1m			1m' 1m'					1m'var.1' 1m'var.1'				
.с. Н					Es:			1111					IIII Val. I				
				109			113		115				119	121			
ar. ΓL				Naxva	ar.		115		110				117	121			
R.				1mva			1A		1mvar					1mva	r.		
L.				1A													
R.				1A			1mvar						1mvar.				
L. H				1A									1mvar.				
ar.	127							139				143				148	
ΓL R.	yvar.							axvar.				xvar.				axvar.	
R.	2mvar.							1mvar.				1mvar				1mvar.	
.L.								1mvar.				1mvar.				1mvar.	
R.								1mvar.				1mvar.					
L.								1mvar.				1mvar					
Н	_																
ar. 151	I			158 159				164							172		
ΓL				xvar.'		1	1	yvar.							yvar.'	. 1	
R L				1mva				2mvar.							2mvai	. 1	
R. 3A				1mva: 1mva:				2mvar.							2mvai 2A		
L. 3A				TIIIVa				2A							2A		

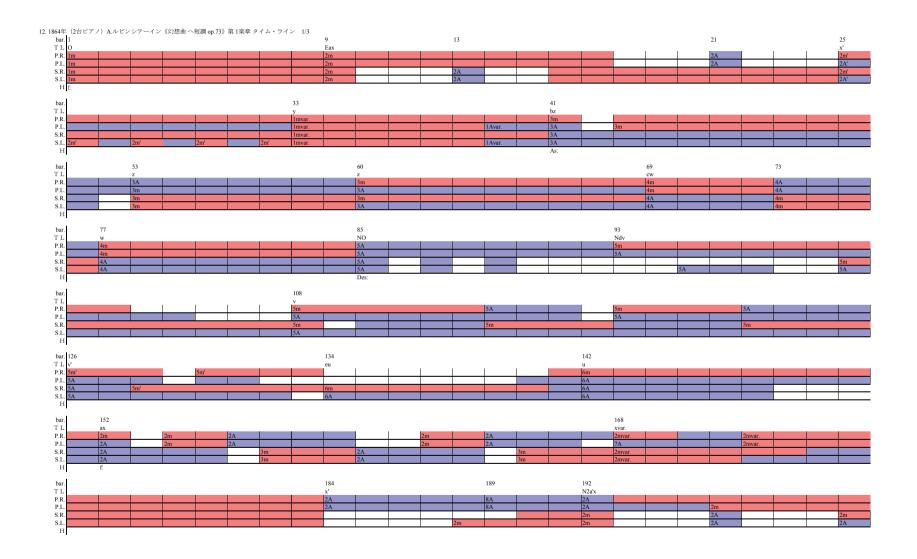
TI NK				184		188 x'	2	192	195	196		199	
I L I I I I I				Rax		x'		axvar.	x"			a'x'	
oar. 176 TL NK P.R. 1mvar.5				1m		1m'			1m'	var.		1m'va	ar.1
2.L.Hmvar.5				1m		1m'				1m'var.		1Ava	
S.R. 2A				1m		1A		1m	1A			1Ava	
S.R. 2A S.L. 2A				1m		1A		1m	1A			1Ava	r.
Н													
oar.	204			200		212		217		221		224	
TL	204 X			209 x'		by		V V		V V		by	
P.R.	1m			A		2m		2m		2m		2m	
P.L.	1m			1A		2A		2m		2m		2m	
.R.	1m			1A		2A		2A		2A		4A	
S.L.	1m			1A		2A		2A		2A		4A	
Н			'			a:					<u> </u>		
_													
oar.	229		233				240				248		2
TL	У		sa'x'								a'x'		
.R.	2m		1m'				1mvar.5				1m'		
P.L.	2m		1A								1m'		1
.R.	4A		5A				1mvar.5				1m'		
S.L.	4A		5A				6A				1A		
Н													
oar.		256		260	261					2	272		
TL P.R.		X		RK		1 1				7	<b>/</b> '		
, K I     /	4									1 1			
·IC.		1m		7.4	7A						2m'		
P.L.		1m		7A	/A					2	2m' 2A		
P.L.		1m 1m		7A	/A					2	2m' 2A 2A		
P.L		1m			/A					2	2m' 2A		
P.L. 5.R. 5.L. H		1m 1m		7A 7A	/A					2	2M 2A 2A 2A		
P.L. 5.R. 5.L. H		1m 1m		7A 7A	/A		290			2	2m' 2A 2A		
P.L. J.R. J.L. H		1m 1m		7A 7A 284 axvar.'''	/A		290 xvar.			2	2M 2A 2A 2A 2A 298		
P.L. J.R. J.R. J.R. J.R. J.R. J.R. J.R. J		1m 1m		7A 7A 284 axvar.''' 1Avar.	/A					2	2M 2A 2A 2A		
P.L.		1m 1m		7A 7A 284 axvar.''' 1Avar. 1Avar.	/A					2	2M 2A 2A 2A 2A 298		
P.L		1m 1m		7A 7A 284 axvar.''' 1Avar.	/A					2	2M 2A 2A 2A 2A 298		

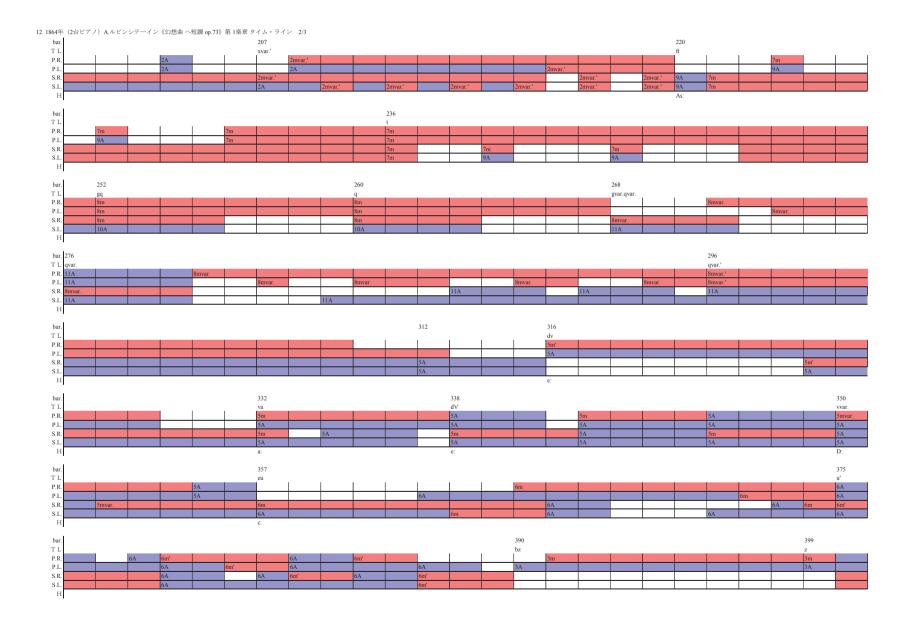


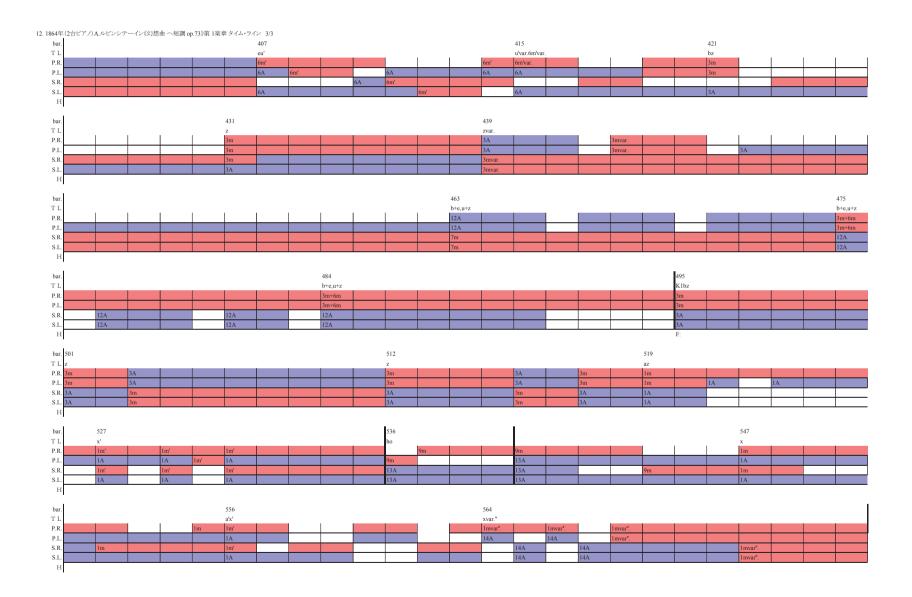


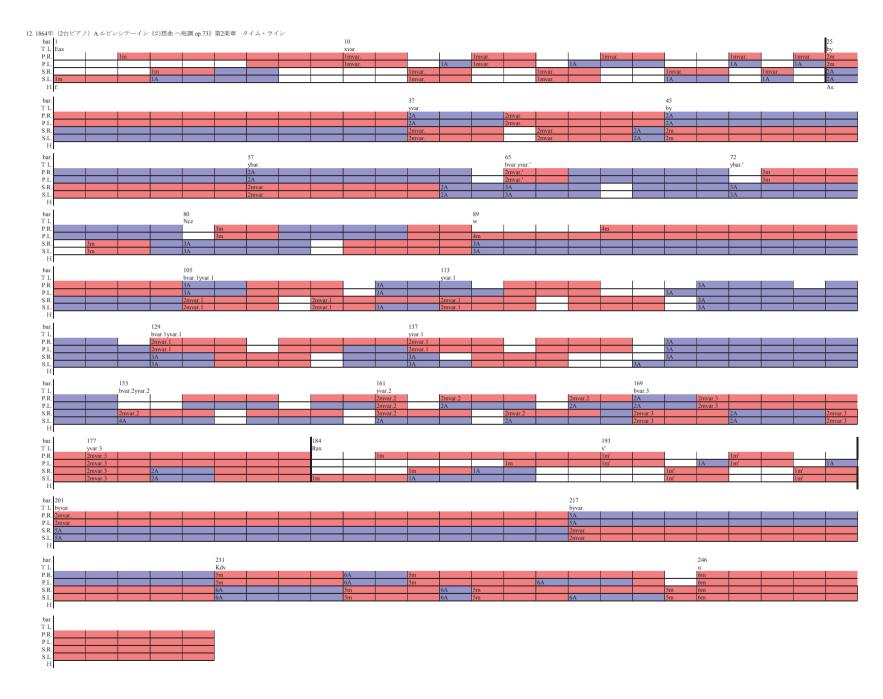
# 11. 1868年(連弾)M. バラーキレフ〈ヴォルガ川にて〉 タイム・ライン

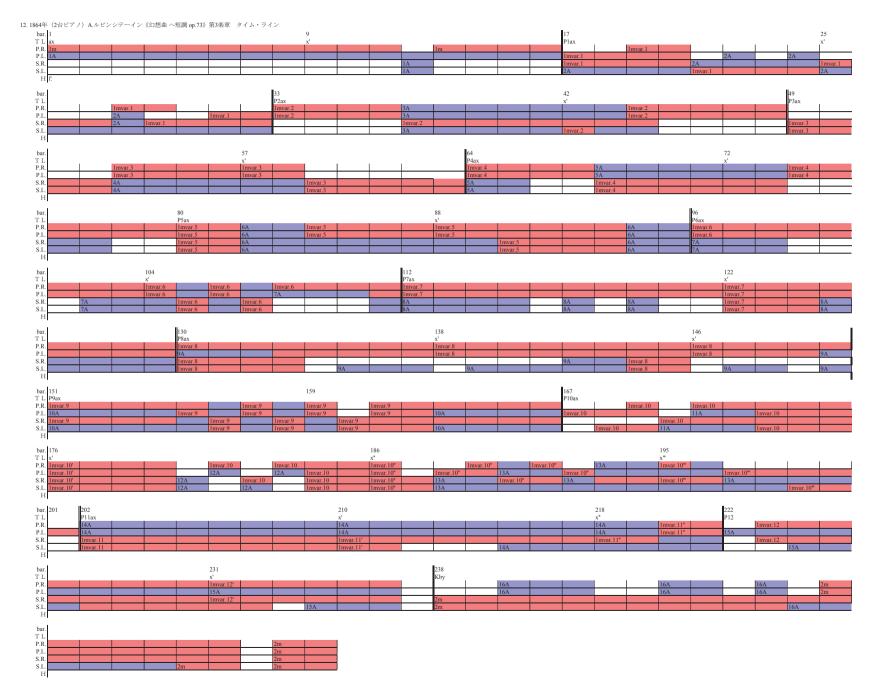
bar. 1	4	9	13	17	21	
TLo	ax	<b>x</b> '	bx"	x'	ax	x'
P.R.	1m		2m		1m	
P.L.					1m	
S.R. 1A					2A	
S.L. 1A					2A	
Н <b>h</b> :					<u> </u>	
i						
bar.	29	33	37	41	k	
bar. TL	29 bx"	33 x'	37 a'x'"	41 x'''	k	
					k	
TL	bx"		a'x'''		k	
TL P.R.	bx"		a'x'''		k 4A	
P.R.	bx"		a'x'''			



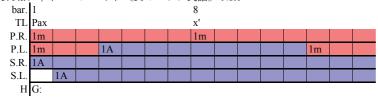








- 13.1868-69年(連弾) P.I.チャイコーフスキイ《50のロシア民謡》 タイム・ライン
- 13. P.I.チャイコーフスキイ 《50のロシア民謡》 No.1



13. P.I.チャイコーフスキイ 《50のロシア民謡》 No.2

bar. TL	1			7			
TL	ax			ax			
P.R.	1m			1m			
P.L.	1m			1m			
S.R.	1A						
S.L.	1A						
P.R. P.L. S.R. S.L.	G:						

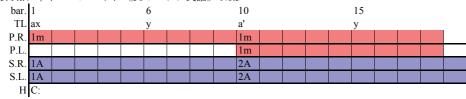
13. P.I.チャイコーフスキイ 《50のロシア民謡》 No.3

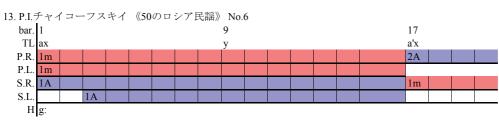
3.1.1.7		/ / ( - ( - )		1130	U) I	- / 1	<b>ДРЩ//</b>	110	9		
bar.				4			7			10	
TL				X			by			Z	
P.R.							2m				
P.L.							2m				
S.R.	1A						2A				
S.L.	1A						2A				
Н	e:										

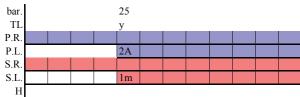
13. P.I.チャイコーフスキイ 《50のロシア民謡》 No.4

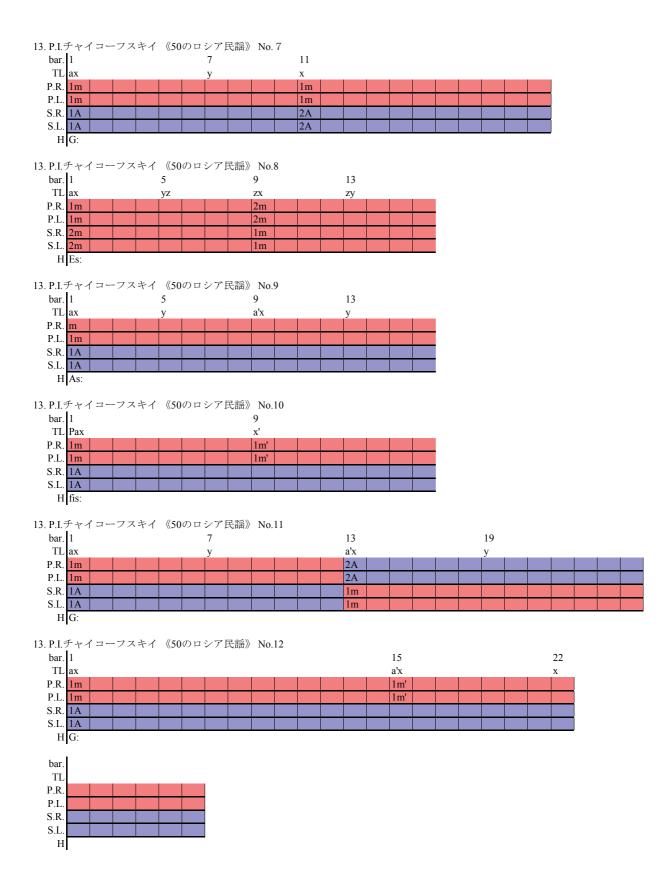
bar.	1		5		9		13		
bar. TL	ax		y		a'x		y		
P.R.	1m				1m				
P.L.					1m				
S.R.	1A				2A				
S.L.	1A				2A				
Н	g:								

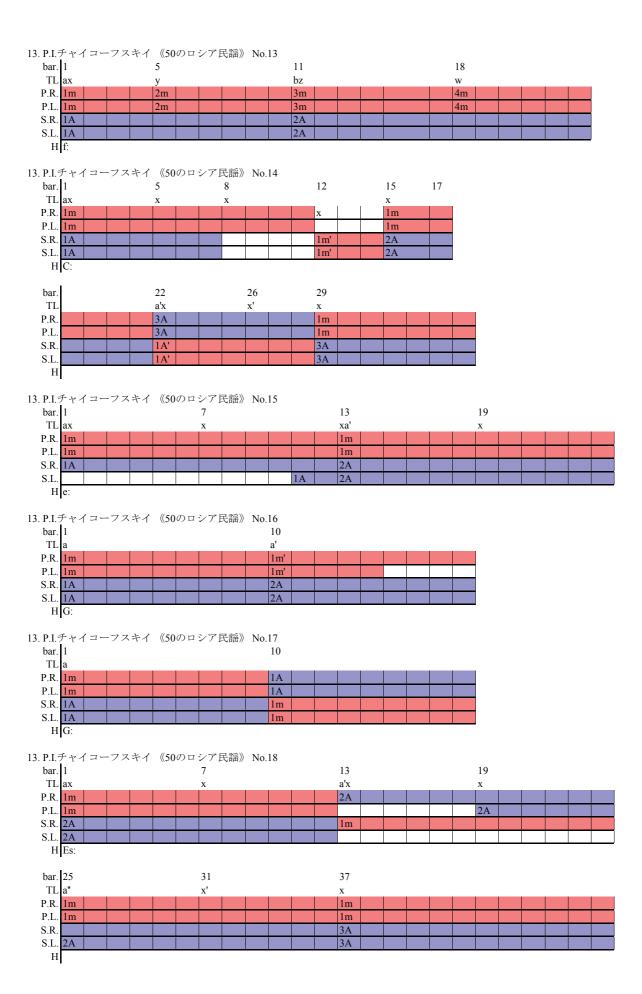
13. P.I.チャイコーフスキイ 《50のロシア民謡》 No.5

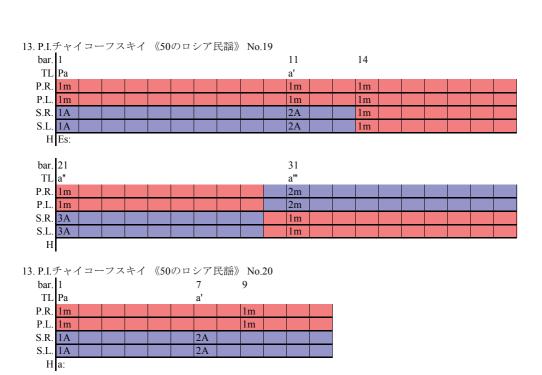






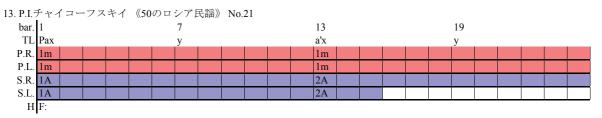


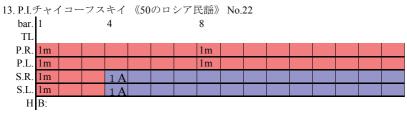






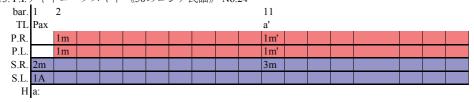
2A

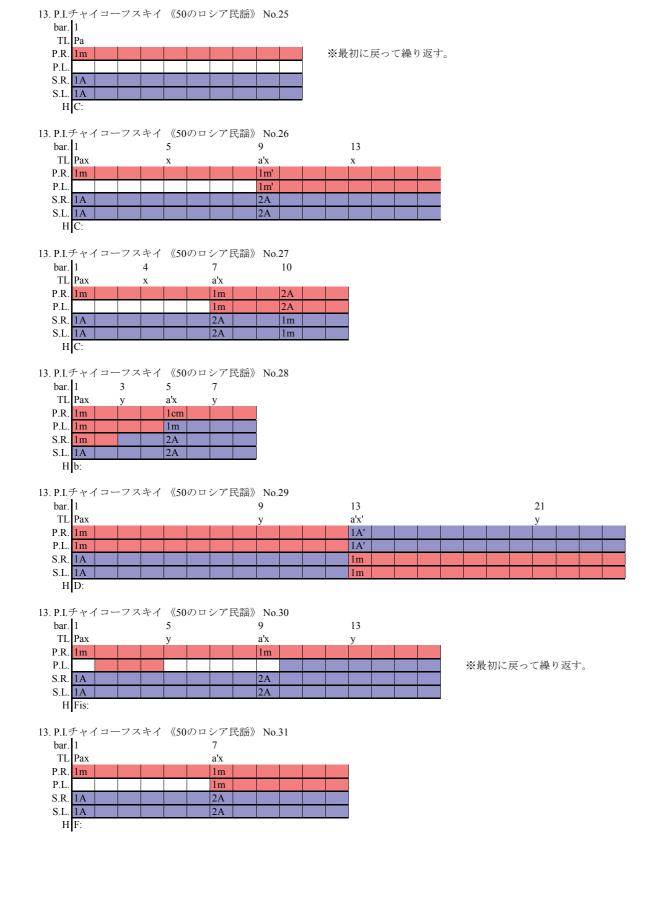






## 13. P.I.チャイコーフスキイ 《50のロシア民謡》 No.24





13. P.I.チャイコーフスキイ 《50のロシア民謡》 No.32

bar.	1		5	7	
	Pax		a'x	x'	
P.R.	1m		1m'		
P.L.			1m'		
S.R.	1A		2A		
S.L.	1A				
Н	Fis:				

13. P.I.チャイコーフスキイ 《50のロシア民謡》 No.33

. 1 .1. ,	1 1 1	_	//	-1 -1	1130	0) 1	~ / 1	人四二//	INO.	33		
bar.					5		7				11	
TL	Pax				У		a'x'				y	
P.R.	1m						1m'					
P.L.	1m						1m'					
S.R.	1A						2A					
S.L.	1A						2A					
Н	h:	•		•	•	•				•		

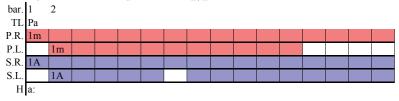
13. P.I.チャイコーフスキイ《50のロシア民謡》 No.34

bar. TL	1	2		6		
TL	Pax			a'x		
P.R.		1m		1m		
P.L.		1A		1m		
S.R.	1A			2A		
S.L.		1A		2A		
Н	B:					

13. P.I.チャイコーフスキイ 《50のロシア民謡》 No.35

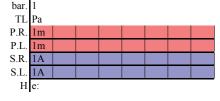
bar.	1		5		9		13		
bar. TL	Pax		y		a'x		y		
P.R.	1m				2m				
P.L.	1m				2m				
S.R.	1A				2A				
S.L.	1A				2A				
Н	h:								

13. P.I.チャイコーフスキイ 《50のロシア民謡》 No.36

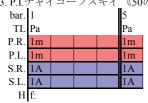


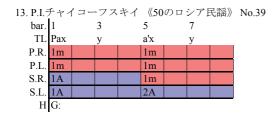
※4小節目に繰り返しあり。

13. P.I.チャイコーフスキイ 《50のロシア民謡》 No.37



13. P.I.チャイコーフスキイ 《50のロシア民謡》 No.38





13. P.I.チャイコーフスキイ 《50のロシア民謡》 No.40

bar.	1				9				
TL	Pa				a'				
P.R.	1m				1m				
P.L.	1A				1m				
S.R.	1A				2A				
S.L.	1A				2A				
Н									

13. P.I.チャイコーフスキイ《50のロシア民謡》 No.41

bar.	1		5		
	Pax		x'		
P.R.	1A		1m		
P.L.	1m		2A		
S.R.	1m		2A		
S.L.	1m		2A		
Н	Es:				

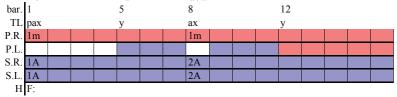
13. P.I.チャイコーフスキイ 《50のロシア民謡》 No.42

bar.	1			7			
bar. TL	Pax			X			
P.R.	1m			1m			
P.L.	1m			1m			
S.R.	1A			1A			
P.R. P.L. S.R. S.L.	1A			1A			
Н	es:						

13. P.I.チャイコーフスキイ 《50のロシア民謡》 No.43

J. 1 .1.	/ / /	//	١ ١	(\50	٠, -	- / 1	√µщ//	110.	7.5				
bar.				5				9			13		
TL	Pax			y				ax			y		
P.R.	1m							2A			3A		
P.L.								2A			3A		
S.R.	1A							1m					
S.L.	1A							1m					
Н	C:												

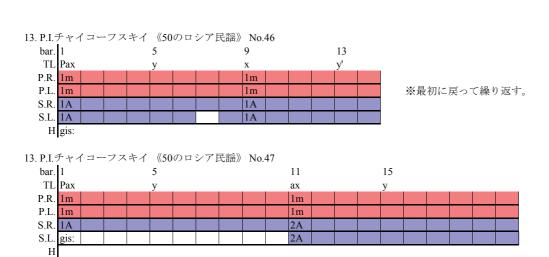
13. P.I.チャイコーフスキイ 《50のロシア民謡》 No.44



※最初に戻って繰り返す。



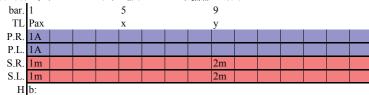
※3小節~6小節、7小節~14小節は繰り返し。

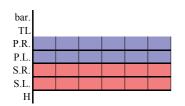




P.L. 1m S.R. 1A S.L. H B:

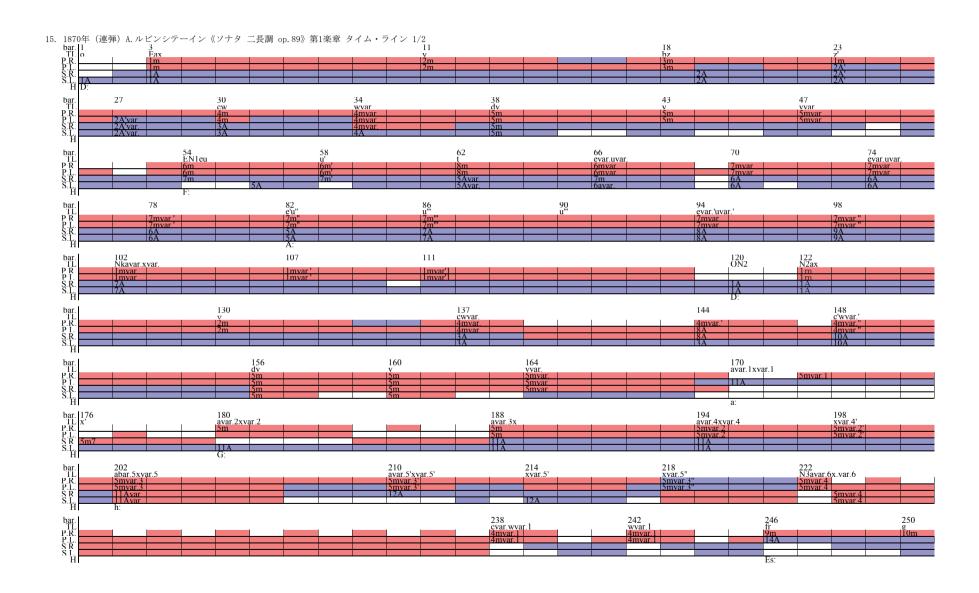
13. P.I.チャイコーフスキイ 《50のロシア民謡》 No.49

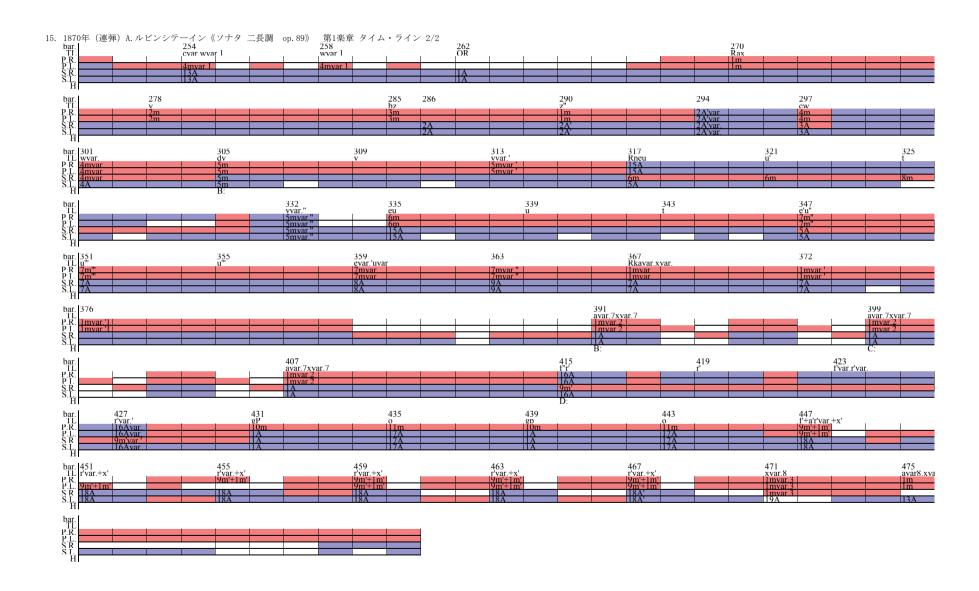


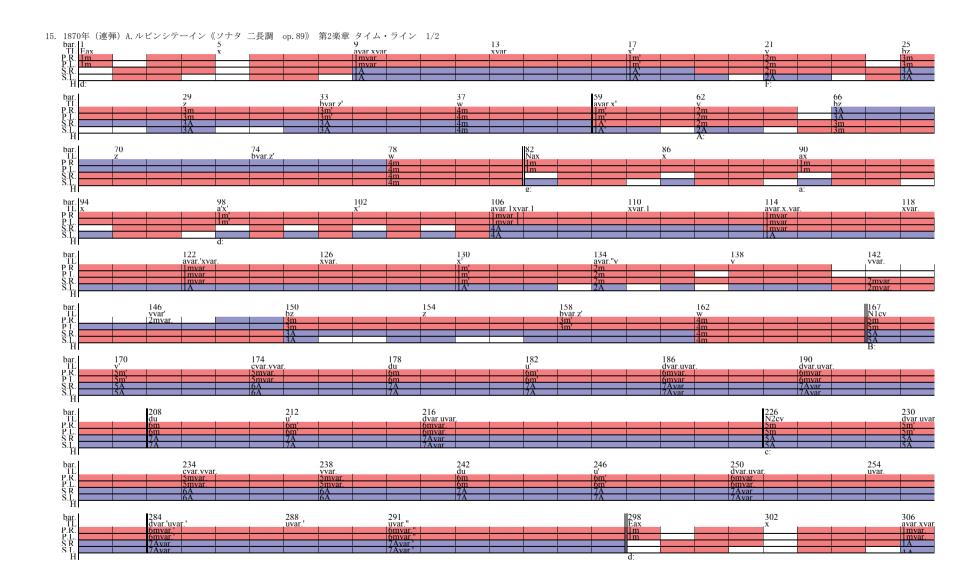


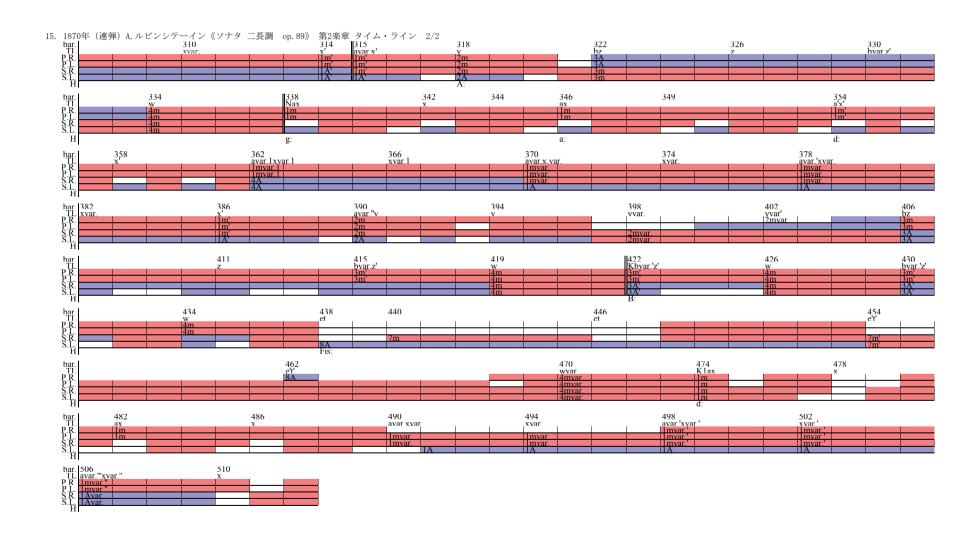
13. P.I.チャイコーフスキイ 《50のロシア民謡》 No.50

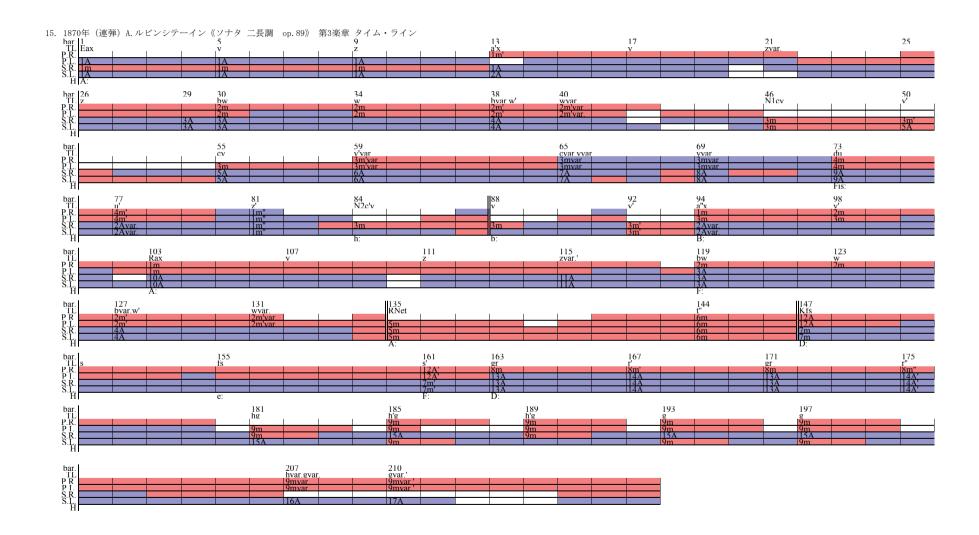
bar.	1		5		
TL	Pax		y		
P.R.	1m		2m		
P.L.	1m		2m		
S.R.	1A				
S.L.	1A				
Н	C:				











16. 1876年(連弾) N.A. リムスキー=コルサコフ、C. キュイー、A. リャードフ、A. ボロディーン、N. シチェルバチョフ共作《変化のない主題によるパラフレーズ集》 1. C. キュイー、N. A. リムスキー=コルサコフ、A. リャードフ共作 〈24の変奏と終曲〉 タイム・ライン 変奏 1 bar. 1 主題 変奏2 bar. 1 bar. 1 5 5 5 TL ax TL ax TL ax X X P.R. 1m P.R. 1m P.R. 1m S.R. 3A S.R. 1A S.R. 2A S.L. 1A H C: S.L. 3A H C: S.L. 2A H C: 変奏3 変奏4 bar. 1 bar. 1 5 5 TL ax TL ax ※分析の結果、24の変奏はどれも同じ結果であった。 x X P.R. 1m P.R. 1m これ以降の結果は割愛する。 S.R. 4A S.R. 5A S.L. 4A H C: S.L. 5A НС: 終曲 bar. 1 5 9 13 17 25 21 TL ax X X X X X X P.R. 1m 1m 1m 1m 1m 1m 1m S.R. 1A S.L. 1A H C: bar. 30 38 42 46 50 34 54 TL ax X X X X X X P.R. 1m 1m 1m 1m 1m 1m 1m S.R. S.L. Η bar. 59 TL x P.R. 1m S.R. S.L. Η

16. 1876年(連弾) N. A. リムスキー=コルサコフ、C. キュイー、A. リャードフ、A. ボロディーン、N. シチェルバチョフ共作《変化のない主題によるパラフレ-2. A. ボロディーン 〈ポルカ〉 タイム・ライン

bar. 1		5		9							21			25
TL Ox	X	Eax		X							ax			X
P.R.		1m									1m			
S.R.		1A									2A			
S.L.		1A									2A			
Н		c:												
bar.	29		33			37		41		45			49	
TL	ax		X			Nax		X	,	ax			X	
P.R.	lm	ı				1m				1m				
S.R.	1A					3A				3A				
S.L.	1A					3A				3A				
Н														

16. 1876年(連弾)N. A. リムスキー=コルサコフ、C. キュイー、A. リャードフ、A. ボロディーン、N. シチェルバチョフ共作《変化のない主題によるパラフレーズ集》
3. A. ボロディーン 〈葬送行進曲〉 タイム・ライン

bar. 1	5	9	13	17	
TL Pax	X	P1ax	X	P2ax	
P.R. 1m		1m		1m	
S.R. 1A		1A		2A'	
S.L. 1A		1A		2A'	
S.L. 1A c:					
bar. 21	25	29	33	37	
bar. 21 TL x	25 P3ax	29 x	33 P4ax	37 x	
bar. 21 TL x P.R.					
bar. 21 TL x	P3ax		P4ax		
bar. 21 TL X P.R.	P3ax 1m		P4ax 1m		

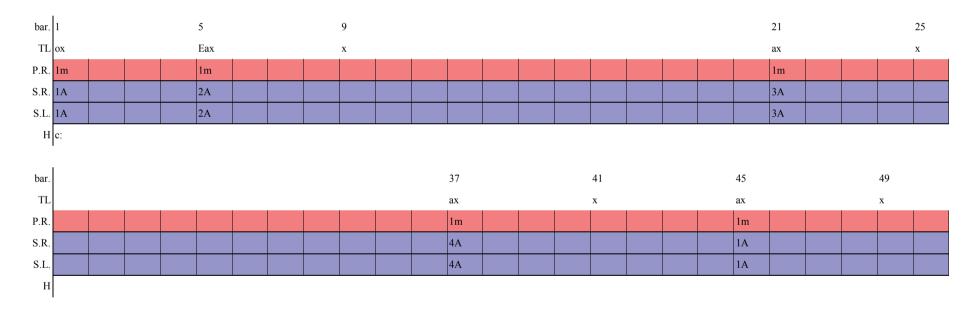
16. 1876年(連弾) N. A. リムスキー=コルサコフ、C. キュイー、A. リャードフ、A. ボロディーン、N. シチェルバチョフ共作《変化のない主題によるパラフレーズ集》 4. A. リャードフ 〈ワルツ〉 タイム・ライン

bar.	1		5		9						19	21		25
TL	ox		Eax		X						X	Nax		X
P.R.			1m									1m		
S.R.			1A									2A		
S.L.			1A									2A		
S.L. H	c:													
	-													
bar. TL							37		41					
TL							ax		X					
P.R.							1m							
S.R.							3A							
S.L. H							3A							
Н														

16. 1876年(連弾) N. A. リムスキー=コルサコフ、C. キュイー、A. リャードフ、A. ボロディーン、N. シチェルバチョフ共作《変化のない主題によるパラフレーズ集》 5. N. A. リムスキー=コルサコフ 〈子守歌〉 タイム・ライン

bar.	1			5			9			13			17			21			25
TL	ox			ax			x			ax			x			Nax			x
P.R.	1m						1m									1m			
S.R.	1A						2A									3A			
S.L.	1A						2A									3A			
Н	c:																		
	i																		
bar.			29			33			37			41			45			49	
TL			ax			х			ax			х			Kax			X	
P.R.			1m						1m						1m				
S.R.			4A						5A						1A				
S.L.			4A						5A						5A				
Н																			

16. 1876年(連弾) N. A. リムスキー=コルサコフ、C. キュイー、A. リャードフ、A. ボロディーン、N. シチェルバチョフ共作《変化のない主題によるパラフレーズ集》 6. A. リャードフ 〈ギャロップ〉 タイム・ライン



16. 1876年(連弾) N. A. リムスキー=コルサコフ、C. キュイー、A. リャードフ、A. ボロディーン、N. シチェルバチョフ共作《変化のない主題によるパラフレーズ集》

7. A. リャードフ 〈ジーク〉 タイム・ライン

bar.	1		5		9		
TL	Eax		Nax		Rax		
P.R.	1m		1m		1m		
S.R.	1A		2A		1A		
S.L.	1A		2A		1A		
Н	c:						

16. 1876年(連弾)N.A. リムスキー=コルサコフ、C. キュイー、A. リャードフ、A. ボロディーン、N. シチェルバチョフ共作《変化のない主題によるパラフレーズ集》

8. N. A. リムスキー=コルサコフ 〈BACHによるフゲッタ〉 タイム・ライン

bar.	1	3	5	9	13	17	21	25
TL	oax	b	X	ax	X	ax	x	x
P.R.	1m	2m		1m		1m		
S.R.		1A		1A		1A		
S.L.		1A		1A		1A		
Н	c:							

16. 1876年(連弾) N. A. リムスキー=コルサコフ、C. キュイー、A. リャードフ、A. ボロディーン、N. シチェルバチョフ共作《変化のない主題によるパラフレーズ集》 10. N. A. リムスキー=コルサコフ 〈タランテラ〉 タイム・ライン

bar.	1			5			9		13		17		21		25
TL	ox			Eax			X		ax		X		ax		X
P.R.	1m			1m					1m				1m		
S.R.				1A					1A				2A		
S.L.				1A					1A				2A		
Н	c:														
	-"														
bar.			29			33									
TL			ax			X									
P.R.			1m												
S.R.			1A												
S.L.			1A												
Н															

16. 1876年(連弾) N. A. リムスキー=コルサコフ、C. キュイー、A. リャードフ、A. ボロディーン、N. シチェルバチョフ共作《変化のない主題によるパラフレーズ集》

10. N.A. リムスキー=コルサコフ 〈メヌエット〉 タイム・ライン

bar.	1			5			9		13			17		21			
TL	Pax			X			X		Plax			X		X			
P.R.	1m								1m								
S.R.	2A								3A								
S.L.	1A								2A								
Н	•		•			•	•		•		•				•		

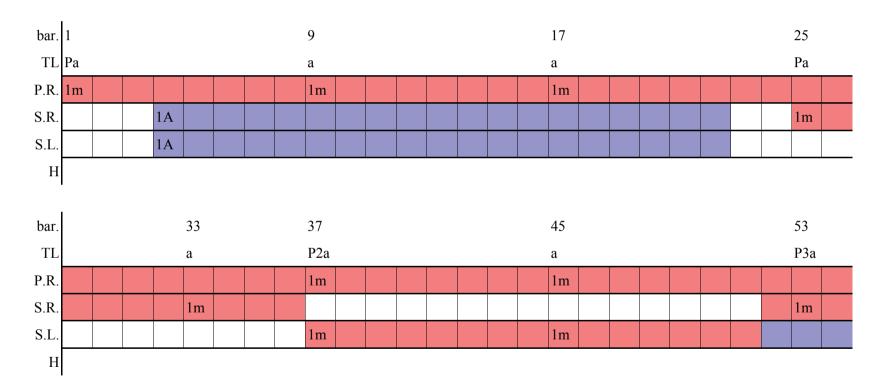
16. 1876年(連弾) N. A. リムスキー=コルサコフ、C. キュイー、A. リャードフ、A. ボロディーン、N. シチェルバチョフ共作《変化のない主題によるパラフレーズ集》

11. C. キュイー 〈ワルツ〉 タイム・ライン

bar.	1		5		9			13		17		21		25	
TL	Eax		X		a	(		X		ax		X		ax	
P.R.	1m				1:	n				1m				1m	
S.R.	1A				1.	<b>A</b> '				2m				2m'	
S.L.	1A				1.	<b>A'</b>				2A				3A	
Н															

126

16. 1876年(連弾) N. A. リムスキー=コルサコフ、C. キュイー、A. リャードフ、A. ボロディーン、N. シチェルバチョフ共作《変化のない主題によるパラフレーズ集》 12. A. ボロディーン 〈レクイエム〉 タイム・ライン



16. 1876年(連弾)N.A. リムスキー=コルサコフ、C. キュイー、A. リャードフ、A. ボロディーン、N. シチェルバチョフ共作《変化のない主題によるパラフレーズ集》

14. A. ボロディーン 〈マズルカ〉 タイム・ライン

bar.	1	4	5		9		13			17		21		25
TL	E/Rax	7	7		bx'		Z		]	Vcw		v		du
P.R.	1m								, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	2m				
S.R.	1m									2m				
S.L.	1A								,	2A				
Н														_

16. 1876年(連弾) N.A. リムスキー=コルサコフ、C. キュイー、A. リャードフ、A. ボロディーン、N. シチェルバチョフ共作《変化のない主題によるパラフレーズ集》

15. N.A. リムスキー=コルサコフ 〈グロテスクなフーガ〉 タイム・ライン

bar.	1	3	3						15				22		
TL	o	]	Pa						P1b				P2c		
P.R.			1m												
S.R.			1m												
S.L.			1A												
Н															

bar.
TL
P.R.
S.R.
S.L.
H

16. 1876年(連弾) N. A. リムスキー=コルサコフ、C. キュイー、A. リャードフ、A. ボロディーン、N. シチェルバチョフ共作《変化のない主題によるパラフレーズ集》 16. A. リャードフ 〈凱旋の行列曲〉 タイム・ライン

	L			_			l								• •		
bar.	1			5			17			21			25		29		33
TL	Pax			у			P1bz			y'			P2cz		z'		Pax
P.R.	1m						2m						3m				4m
S.R.	1m						2m						3m				4m
S.L.	1A						2A						3A				4A
Н	C:						_										
	•																
bar.			37			41			45			49					
TL			W			P3dv			w			kewv	ar.				
P.R.						5m						5mva	ır.				
S.R.						5m						5mva	ır.				
S.L.						5A						6A					
Н																	

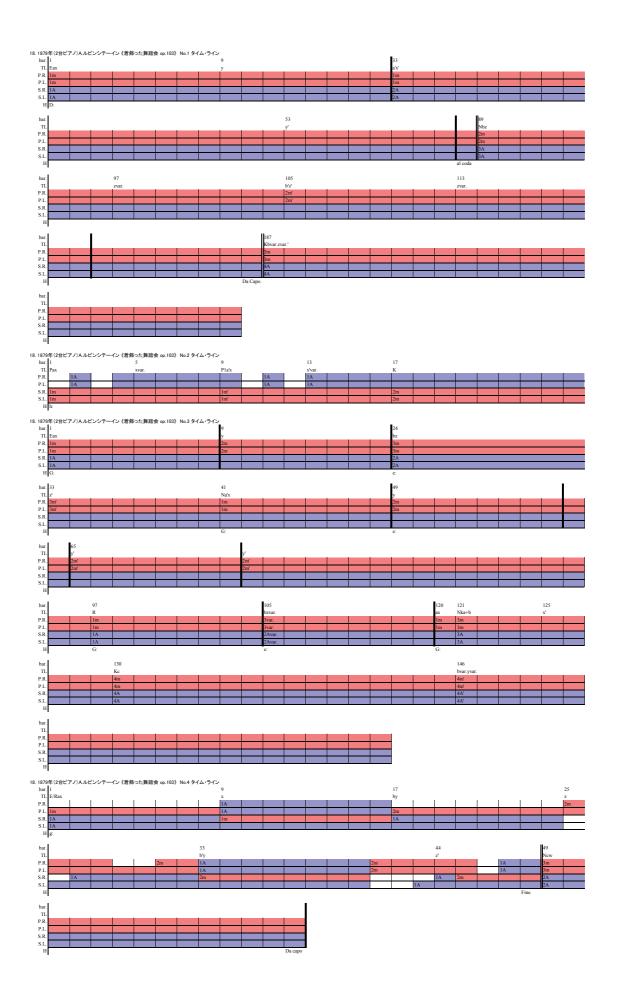
16. 1876年(連弾)N.A. リムスキー=コルサコフ、C. キュイー、A. リャードフ、A. ボロディーン、N. シチェルバチョフ共作《変化のない主題によるパラフレーズ集》 17. N. シチェルバチョフ 〈雑多な、小さな補遺〉タイム・ライン

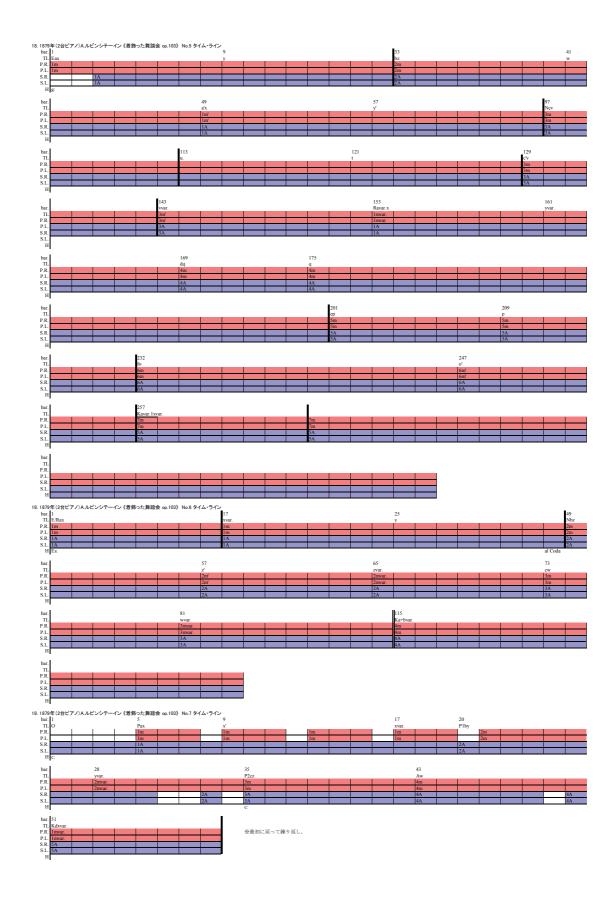
bar.	1		5				9			13				17			21			
TL	Pax		y				a'x			y'				P1bz			z'			
P.R.	1m						1m							2m						
S.R.	1m						1m							2m						
S.L.	1A													2A						
S.L. H	c:																			
bar. TL						33			37				41			45				
TL						P2cw			w				P3dv			v				
P.R.						3m							4m						4m	
S.R.						3m							4m						4m	
S.L.						3A							4A						4A	
S.L. H																				
bar. TL																				
TL																				
P.R.					4m							4m						4m		
S.R.					4m							4m						4m		
S.L.					4A							4A						4A		
S.L. H																				
bar. TL																				
TL											K									
P.R.				4m							4m									
S.R.				4m							4m									
S.L.				4A							4A									
Н																				

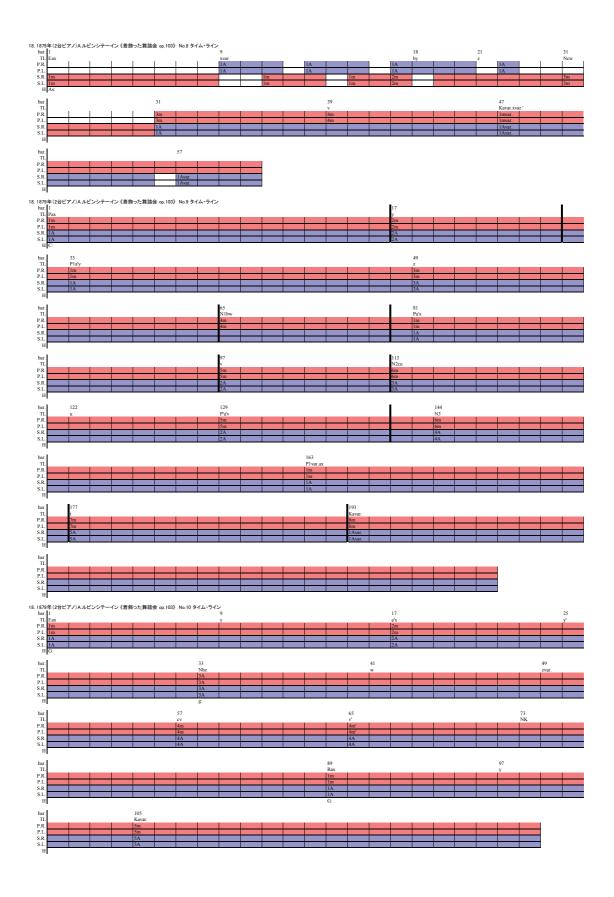
17. 1878-9年(連弾)N.A.リムスキー=コルサコフ〈ミーシャの主題による変奏曲〉タイム・ライン

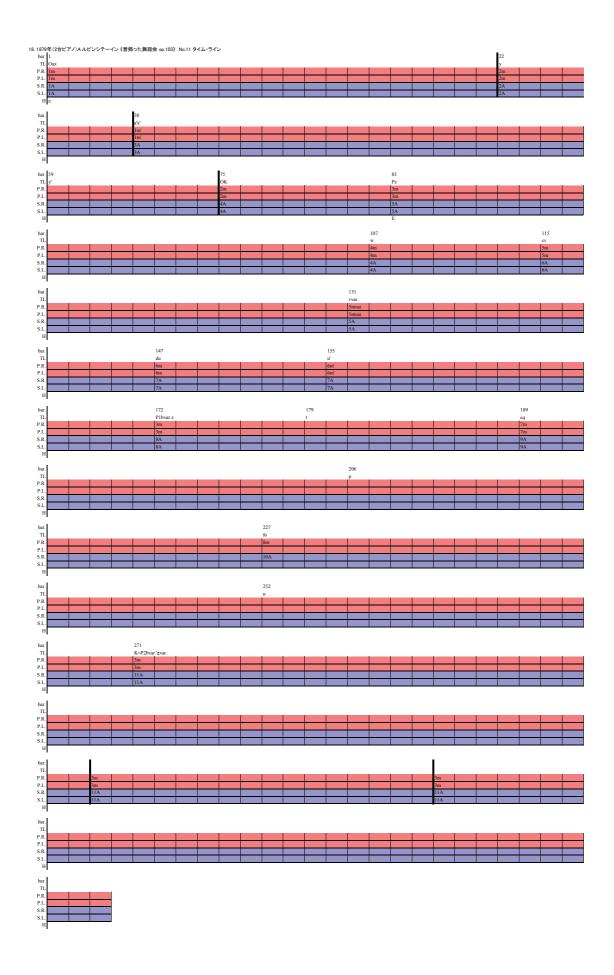
bar.	1		5		9		13		17			21		25
TL	Pax		x'		by		y		P1ax			x'		by
P.R.	1m				2m				1m					2m
S.R.	1A				2A				3A					4A
S.L.	1A							2A	3A					4A
Н	C:									·	,			

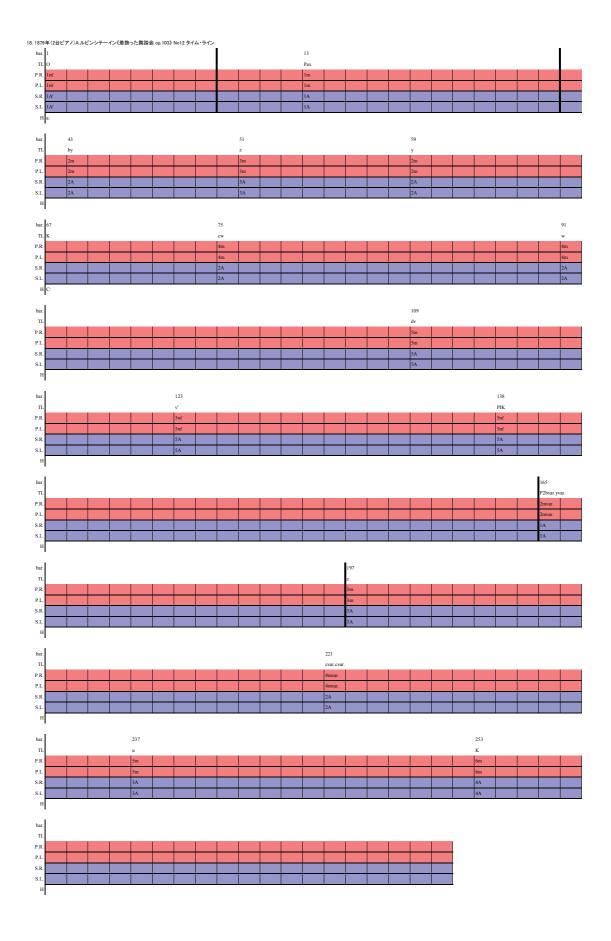
bar.	2	29	33	37		41		44		
TL		y	P2ax	x'		by		у		
P.R.			1m			2m				
S.R.	4	4A	5A							
S.L.	4	4A	5A							
Н					-					

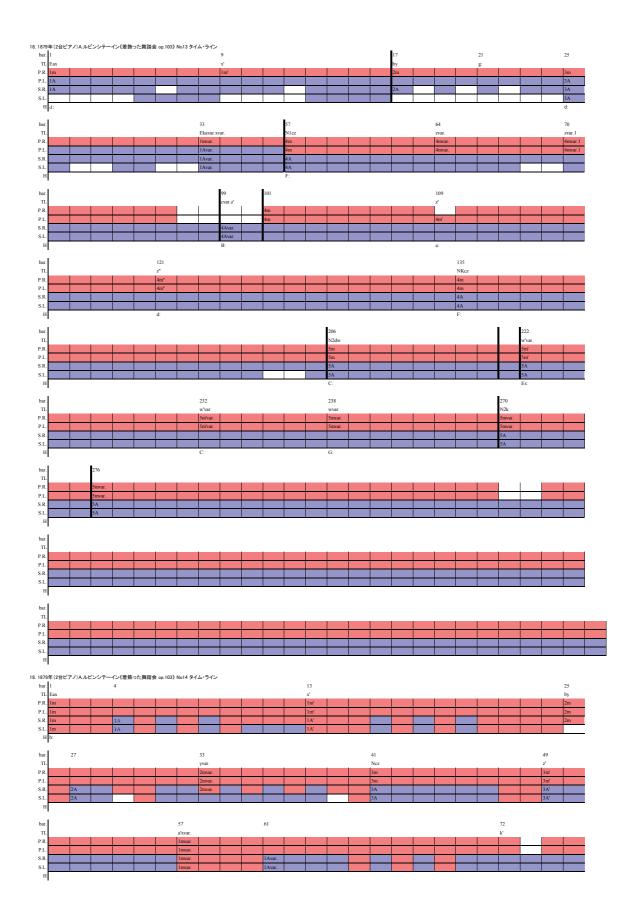


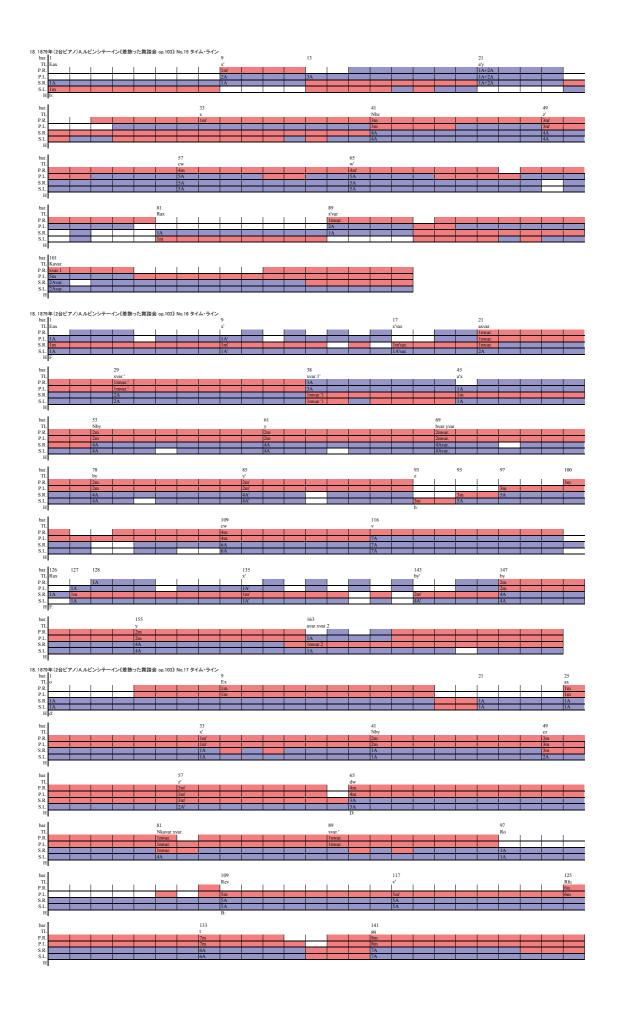


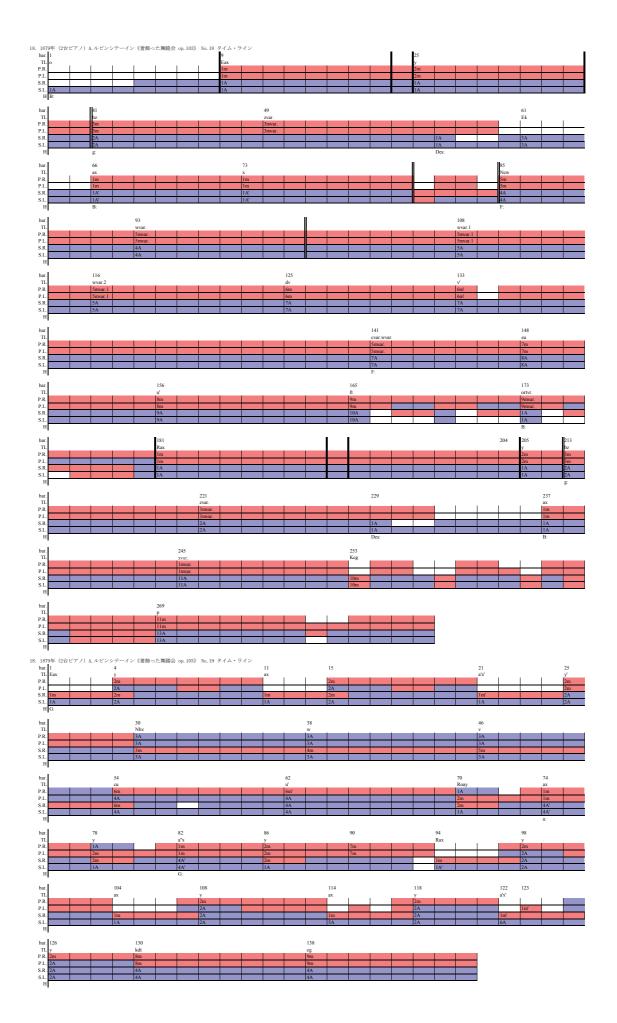


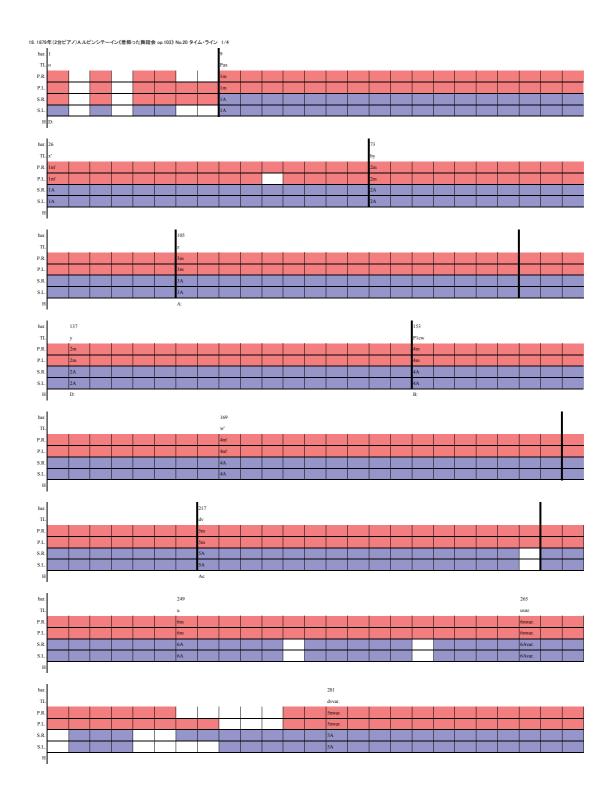


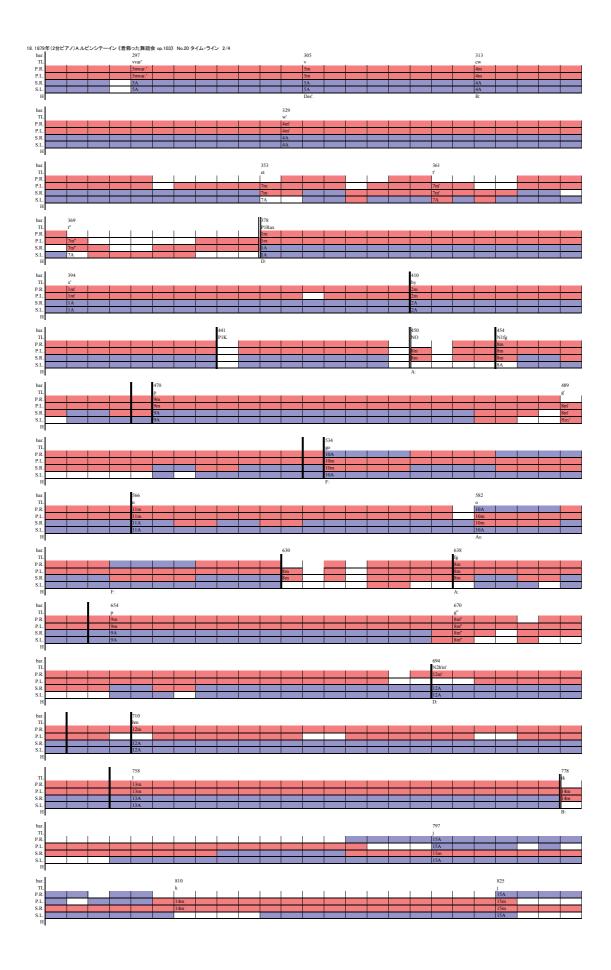


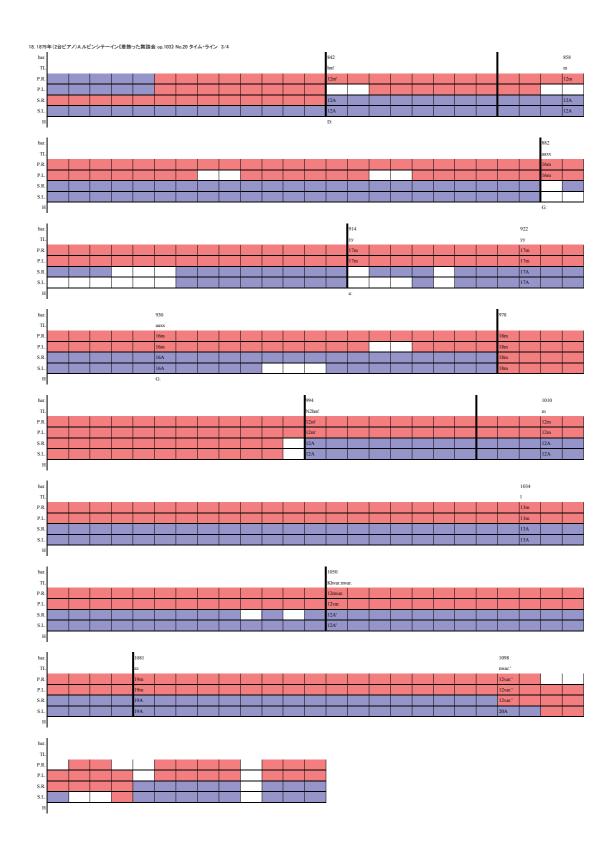


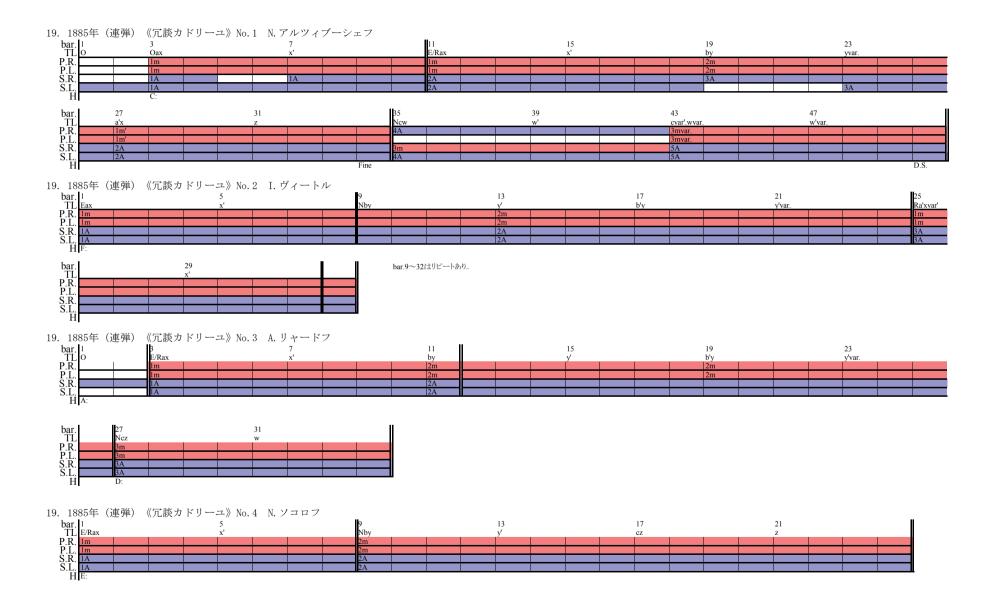


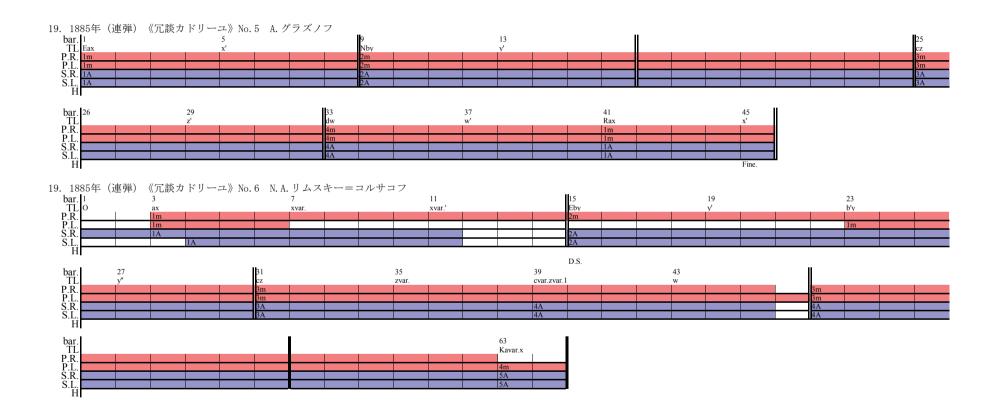


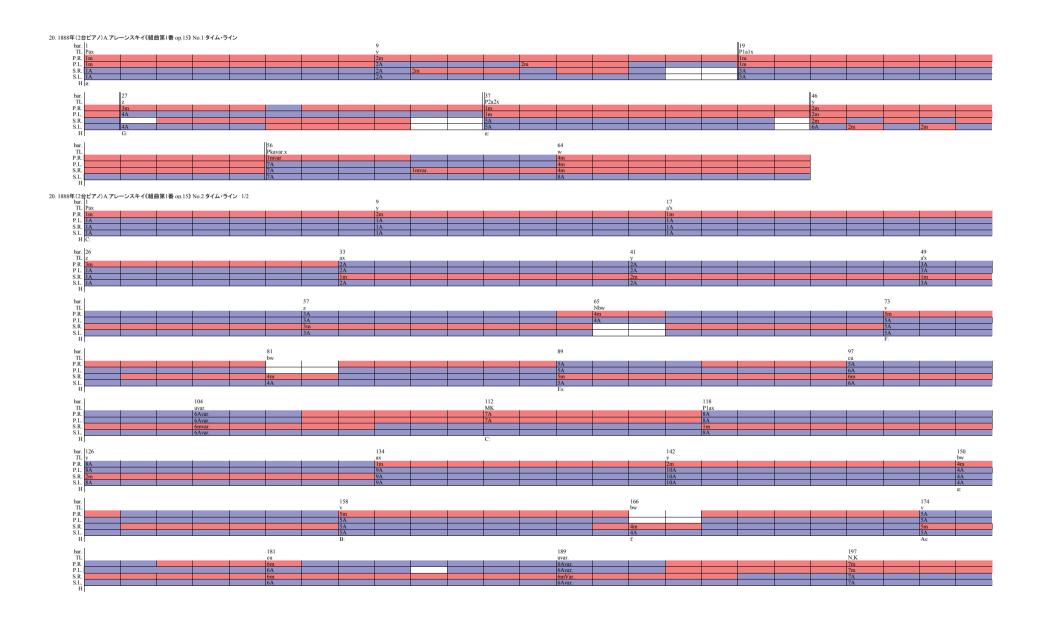


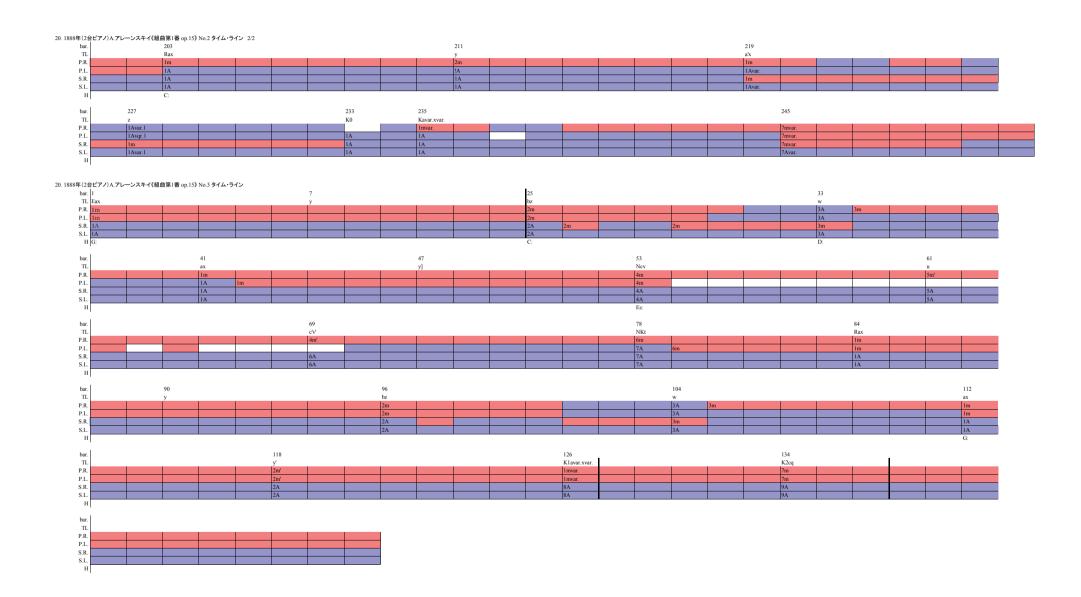






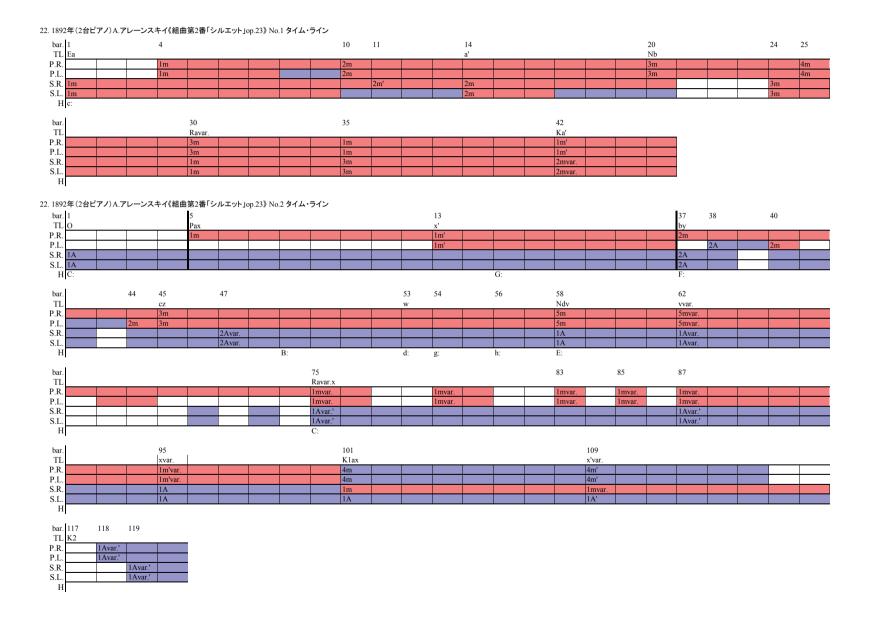


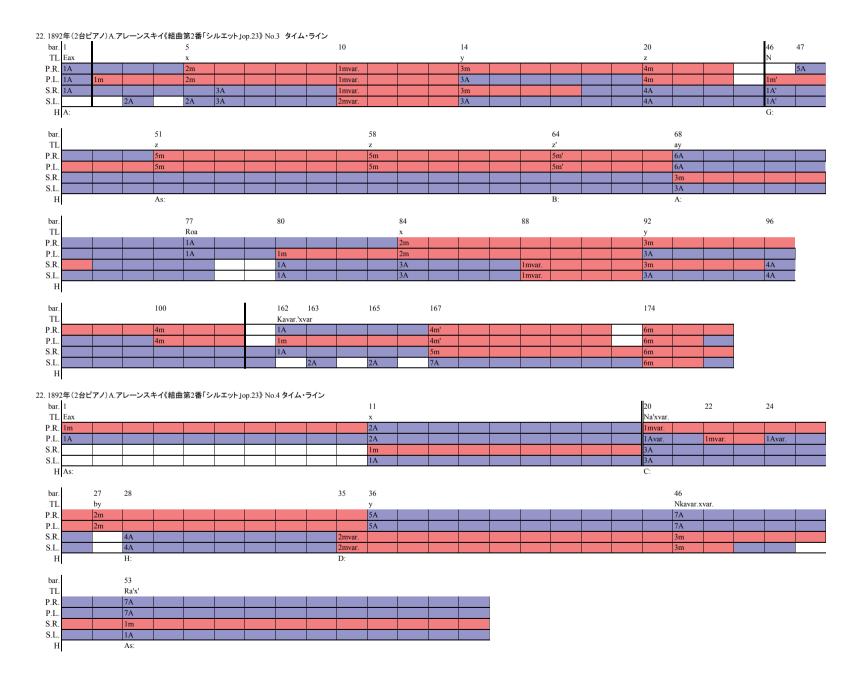


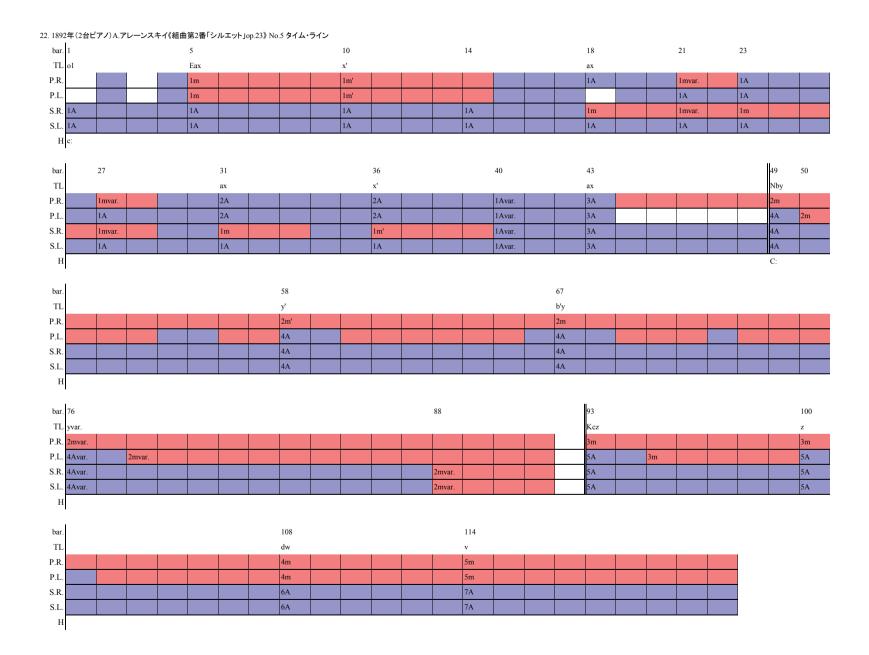


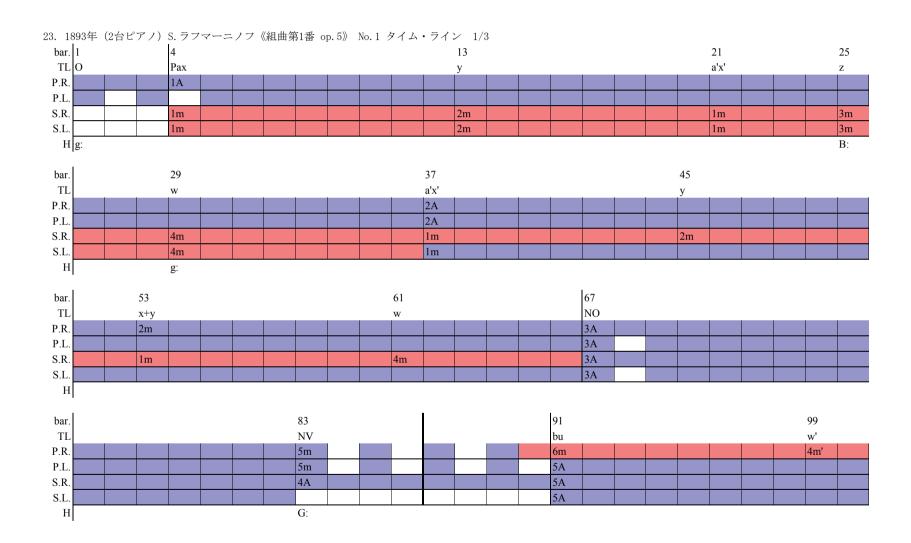
21. 18	391年(2台ピアノ	′)S. ラ	フマー	ニノフ	7 (口:	ンア狂語	詩曲〉	タイ	ム・ラ	イン	1/2									
bar.			5								13						21			
TL	ox		Eax								y						ax			
P.R.	1m		1m								2m						1m			
P.L.	1m		1A								2A						1m			
S.R.							1m							2A			3A			
S.L.	1A						1A							2A			3A			
Н	G:																			
•																				
bar.		29							36				40						48	
TL		y							bz				a'x'						у	
P.R.		2m							3m				5A						5A	
P.L.		2m							3m				5A						5A	
S.R.		3A'							4A				1m'						2m	
S.L.		3A'							4A				5A						5A	
Н			ı										1		1	ı				
ı																				
bar.				56	57							64						72		
TL				avar.1								x"						avar.2	v	
P.R.	2m			1m								6A						7A		
P.L.	2m			1m								6A						7A		
S.R.					5A							1m"						2m		
S.L.					5A							1m"						2m		
Н					011							1111								
bar.			80								88						96			
TL			y								avar.1	x'					y			
P.R.			7A								8A						9A			
P.L.			7A								8A						9A			
S.R.			2m								1m"						2m			
S.L.			2m								8A						9A			
H			2111								071						<i>)</i> 11			
***																				
bar.		104								112		114						122		
TL		yvar.								cw		avar.3	vvar 3					avar.3	vvar 3	
P.R.		2mva	r							4m		1 mvai						1mvar		
P.L.		2mva								4m		1mvai						1mvar		
S.R.		10A	1.							11A		12A						12A		
S.K. S.L.		10A 10A								11A 11A		12A 12A						12A 12A		
		IUA								HA		12A						12A		
Н																				

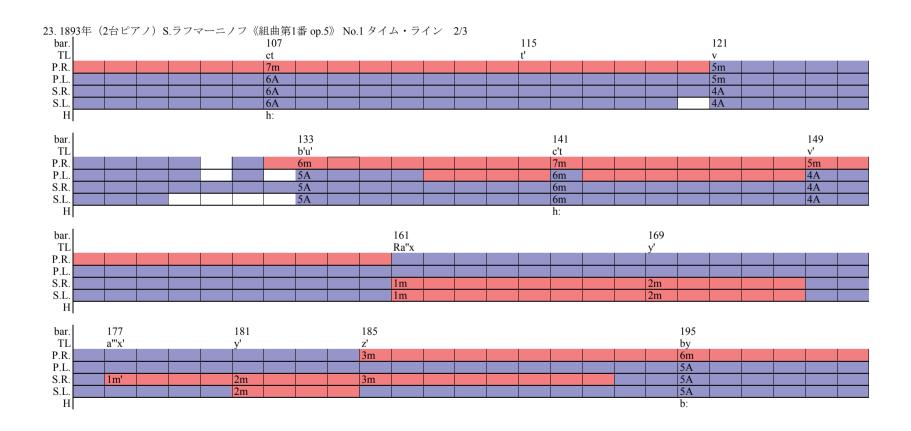
21. 18	891年(2·	台ピアノ)	S. ラフマー	ニノフ	/ 〈ロシ	/ア狂語	詩曲〉	タイ	ム・ラ	イン	2/2							
bar.	126	128					134								146			
TL	Ndv	eu					$\mathbf{v}'$								Nke-	+d		
P.R.	5m	14A					13A								14A			
P.L.	5m	14A					13A								13A			
S.R.	13A	6m					5m'								6m			
S.L.	13A	6m					13A								13A			
Н							•										·	
bar.			155									164			170	172		
TL			Ray'									ft			avar.4xvar.4	1		
P.R.			15A									16A			1mvar.4			
P.L.			15A									16A			1mvar.4			
S.R.			2m'									7m			1mvar.4			
S.L.			15A									7m			1mvar.4	17A		
Н																		
Н																		
H bar.		178			182						188				196			
H bar. TL		Kgxvaı			hxvar.						188 ixvar.7				a'y'			
H bar. TL P.R.															a'y'			
bar. TL P.R. P.L.		Kgxvaı	5		hxvar. 1mvar 1mvar	.6					ixvar.7 1mvar. 1mvar.	7			a'y' 2m' 21A			
bar. TL P.R. P.L. S.R.		Kgxvar 1mvar. 1mvar. 1mvar.	5 5 5		hxvar. 1mvar 1mvar 19A	.6					ixvar.7 1mvar. 1mvar. 20A	7			a'y' 2m' 21A 21A			
bar. TL P.R. P.L. S.R. S.L.		Kgxvar 1mvar. 1mvar.	5 5 5		hxvar. 1mvar 1mvar	.6					ixvar.7 1mvar. 1mvar.	7			a'y' 2m' 21A			
bar. TL P.R. P.L. S.R.		Kgxvar 1mvar. 1mvar. 1mvar.	5 5 5		hxvar. 1mvar 1mvar 19A	.6					ixvar.7 1mvar. 1mvar. 20A	7			a'y' 2m' 21A 21A			
bar. TL P.R. P.L. S.R. S.L.		Kgxvar 1mvar. 1mvar. 1mvar.	5 5 5		hxvar. 1mvar 1mvar 19A	.6					ixvar.7 1mvar. 1mvar. 20A	7			a'y' 2m' 21A 21A			
bar. TL P.R. P.L. S.R. S.L. H		Kgxvar 1mvar. 1mvar. 1mvar.	5 5 5		hxvar. 1mvar 1mvar 19A 19A	208					ixvar.7 1mvar. 1mvar. 20A	7			a'y' 2m' 21A 21A			
H bar. TL P.R. P.L. S.R. S.L. H bar. TL		Kgxvar 1mvar. 1mvar. 1mvar.	5 5 5		hxvar. 1mvar 1mvar 19A 19A	208 jg					ixvar.7 1mvar. 1mvar. 20A	7			a'y' 2m' 21A 21A			
H bar. TL P.R. S.R. S.L. H bar. TL		Kgxvar 1mvar. 1mvar. 1mvar.	5 5 5		hxvar. 1mvar 1mvar 19A 19A	.6 .6 208 jg 8m					ixvar.7 1mvar. 1mvar. 20A	7			a'y' 2m' 21A 21A			
H bar. TL P.R. S.R. S.L. H bar. TL P.R. P.L.		Kgxvar 1mvar. 1mvar. 1mvar.	5 5 5		hxvar. 1mvar 1mvar 19A 19A	.6 .6 208 jg 8m 22A					ixvar.7 1mvar. 1mvar. 20A	7			a'y' 2m' 21A 21A			
H bar. TL P.R. S.R. S.L. H bar. TL P.R. P.L. Sar. S.L. S.R. S.R. S.R. S.R. S.R. S.R.		Kgxvar 1mvar. 1mvar. 1mvar.	5 5 5		hxvar. 1mvar 1mvar 19A 19A	208 jg 8m 22A 22A					ixvar.7 1mvar. 1mvar. 20A	7			a'y' 2m' 21A 21A			
H bar. TL P.R. S.R. S.L. H bar. TL P.R. P.L.		Kgxvar 1mvar. 1mvar. 1mvar.	5 5 5		hxvar. 1mvar 1mvar 19A 19A	.6 .6 208 jg 8m 22A					ixvar.7 1mvar. 1mvar. 20A	7			a'y' 2m' 21A 21A			

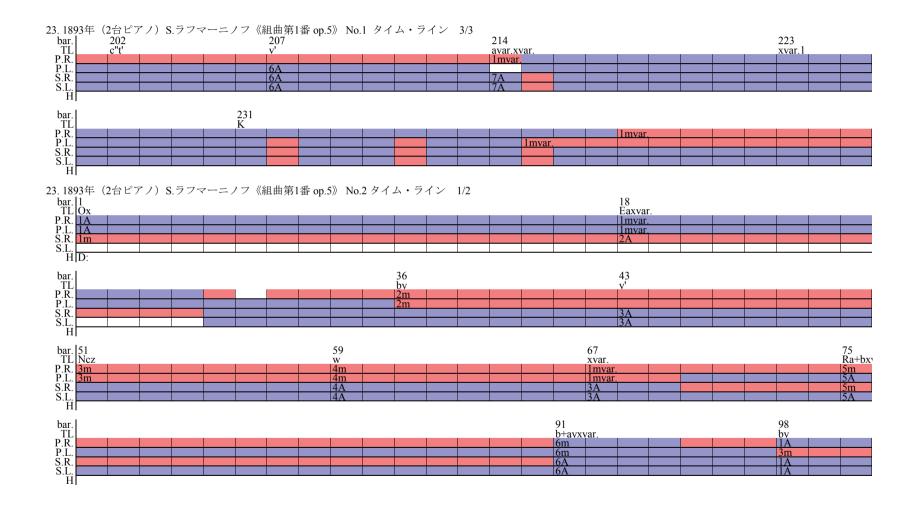


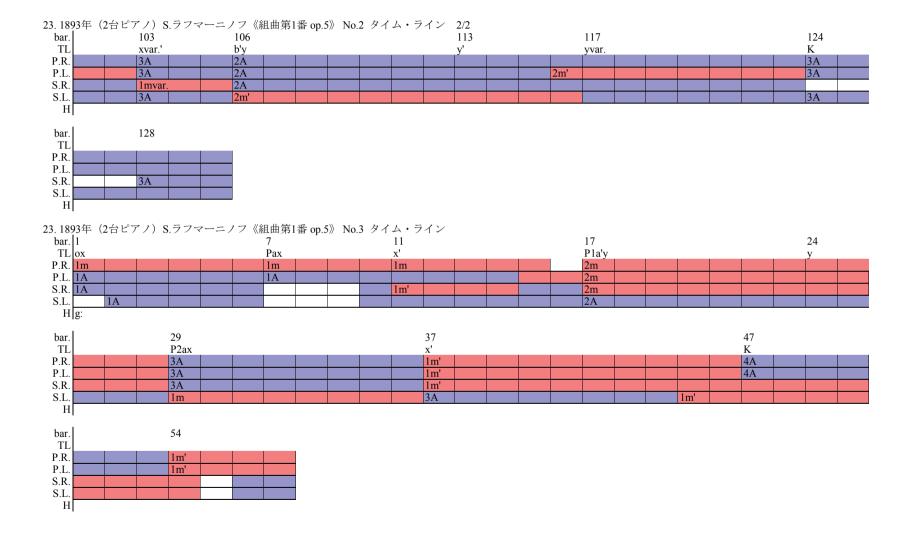


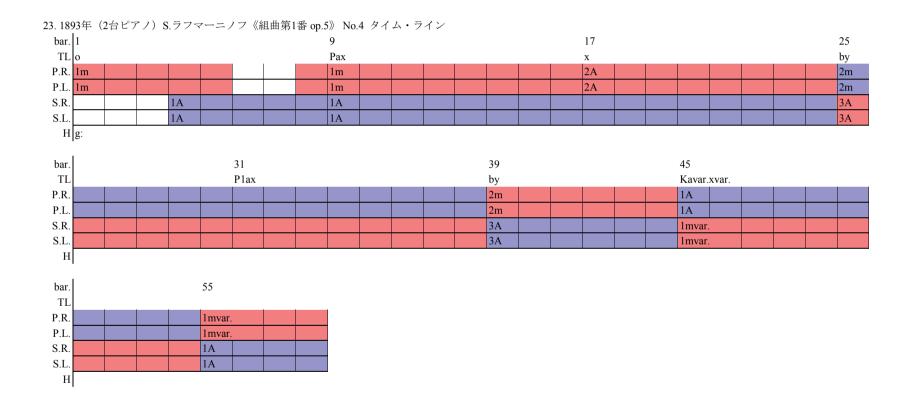








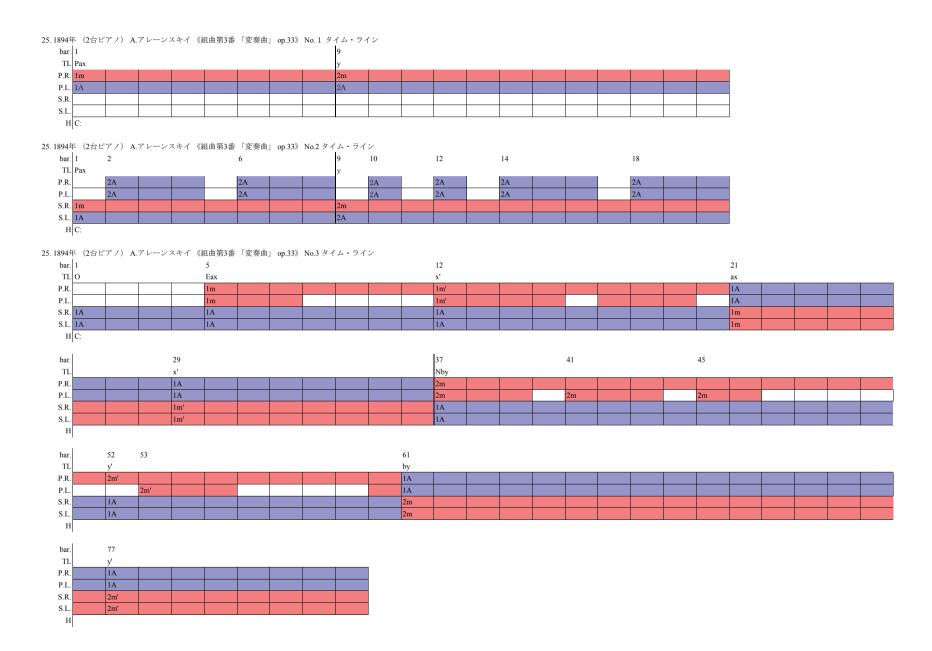


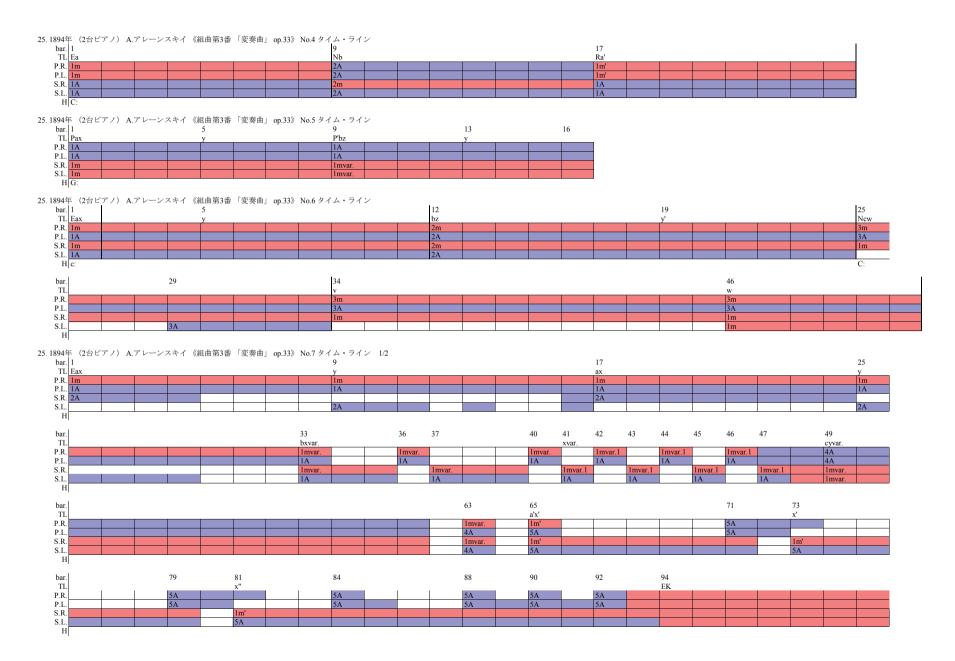


## 24. 1893年 (2台ピアノ) A.N.スクリャービン 〈幻想曲 遺作〉 1/2 タイム・ライン bar. 1 TL ox P.R. 13 Pay 1m 1A 1A 1m P.L. 1A 1A S.R. 1A 1m 1m S.L. 1A 1A Н а: bar. TL P.R. 1A 1m 1m 1m P.L. S.R. 1m 1A 1A 1A 1A 1A 1m 1m S.L. 1A 1A 1A Н bar. TL P.R. 71 55 1z bz 2A 2m P.L. 2A 2m 2A 2A S.R. 2m S.L. 2m Н Es: bar. TL 88 ay 1A P.R. P.L. 1A 1m 1A 1A 1m 1m S.R. 1A 1m 1A 1m S.L 1m 1A 1A Н a: bar. TL 117 Nox P.R. P.L. 1A 1m 1m 1m 1A 1m 1m 1m S.R. 1m 1A 1A 1m 1m S.L 1m 1A 1m Н bar. TL 127 135 N1cx xvar. P.R. 1A 4A 4m P.L 1A 4A 4m S.R. 4A 1m 4m 4m 4A S.L. 1m Н

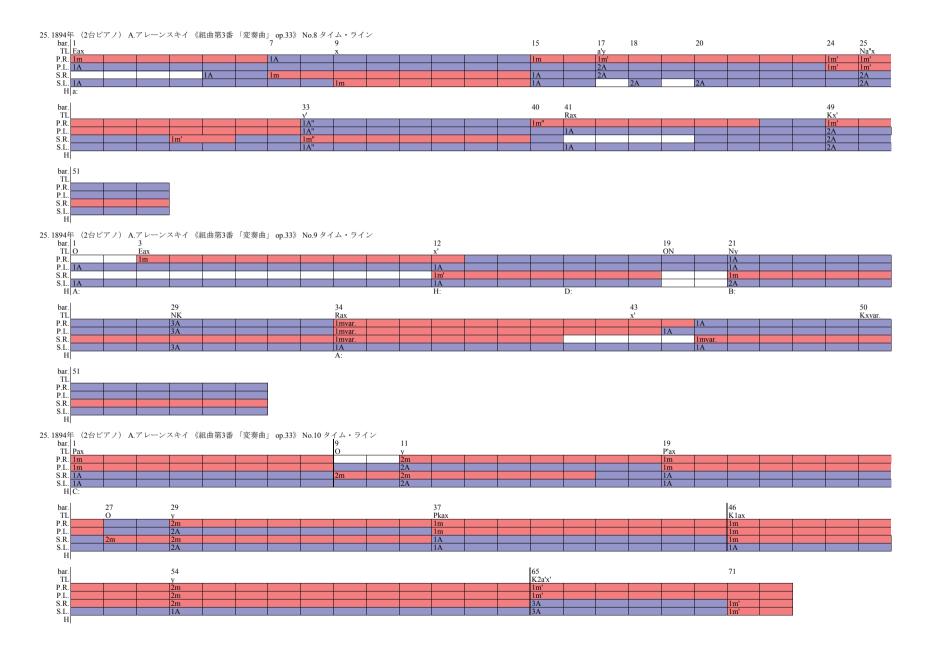
## 24. 1893年 (2台ピアノ) A.N.スクリャービン 〈幻想曲 遺作〉 2/2 タイム・ライン bar. 159 171 TL o1yvar. N2bz P.R. 1mvar. 2A 1mvar. P.L 1mvar. 1Avar. 2A 1Avar. S.R. 1Avar. 1Avar. 1mvar. 2m 1mvar. S.L 1Avar. 1Avar. Η 187 bar. TL z' P.R. 3A P.L 3A S.R. 2m' S.L Н 219 a'y' 1m' bar. TL 202 avar'yvar' P.R. 1Avar. 1mvar. 1mvar. 1Avar. 1m' 1Avar. 1m' P.L 1Avar. 1Avar. 1Avar. 1m' 1mvar. 1m' 1m' 1mvar. S.R. 1Avar. 1m' 1Avar. 1mvar. 1Avar. 1Avar. 1m' 1Avar. 1Avar. 1m' S.L 1Avar. 1Avar. 1Avar. 1mvar. Н bar. TL 231 238 N3ew a'y' P.R. 1Avar. 1m' 1m 1A 1A 5m 5A 5m 5A P.L. 1Avar. 1m' 5m 5A 5A 1A 1m 1A 5A S.R. 1m' 1Avar. 1m' 1A 1A 1m 5A 5A 5m 5m S.L. 1m' 5A 5A 1Avar. 1m' 1A 1m 5m Н 266 254 262 273 bar. TL Nkwvar. P.R. 5m 5m 6m P.L 5A 5A 6A 5m S.R. 5A 5A 5m 6A S.L 5m Н bar. 280 287 289 291 TL P.R. 6m 6A 6m P.L 6m 6A 6m S.R. 6A 6A 6m S.L 6A 6m 6A

Н

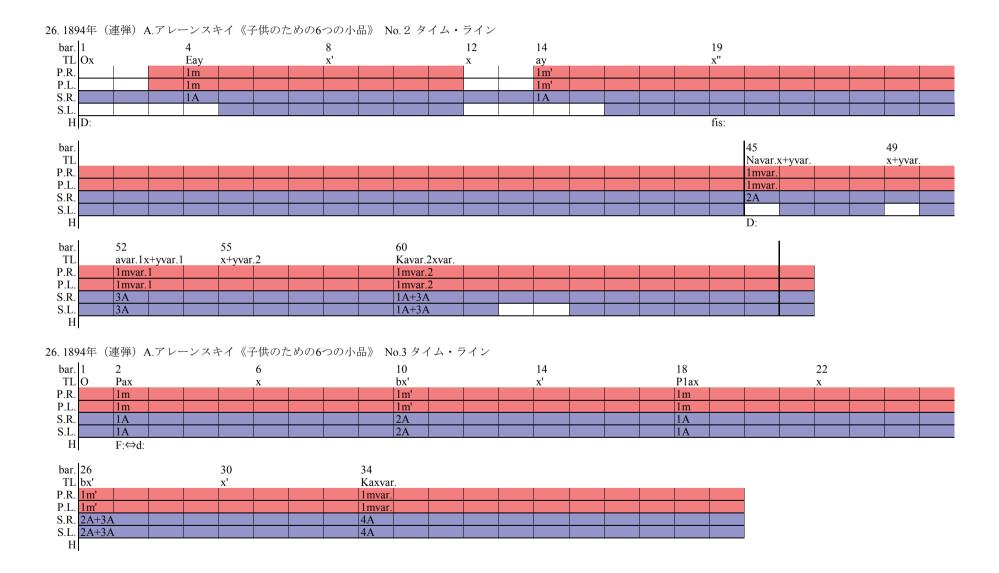


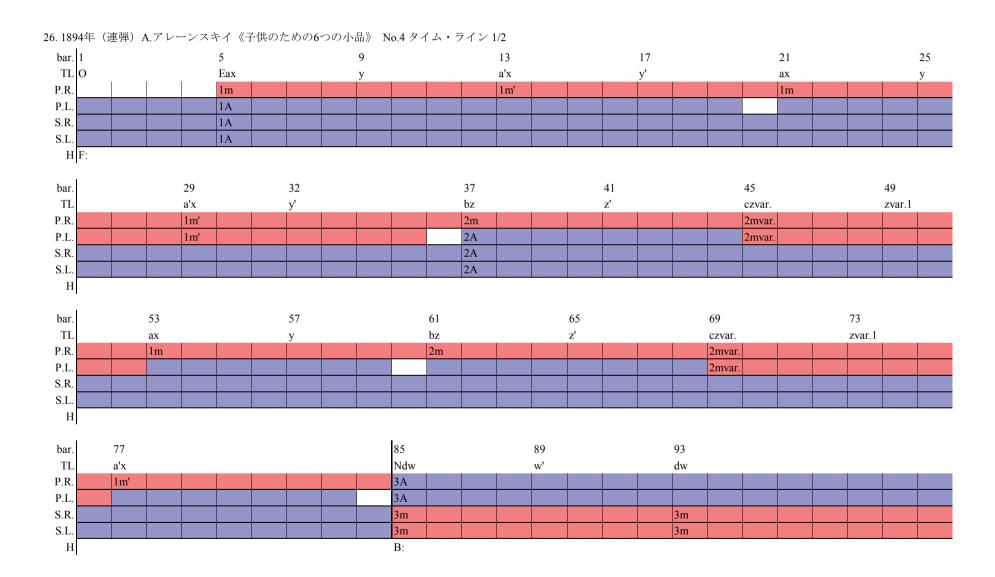


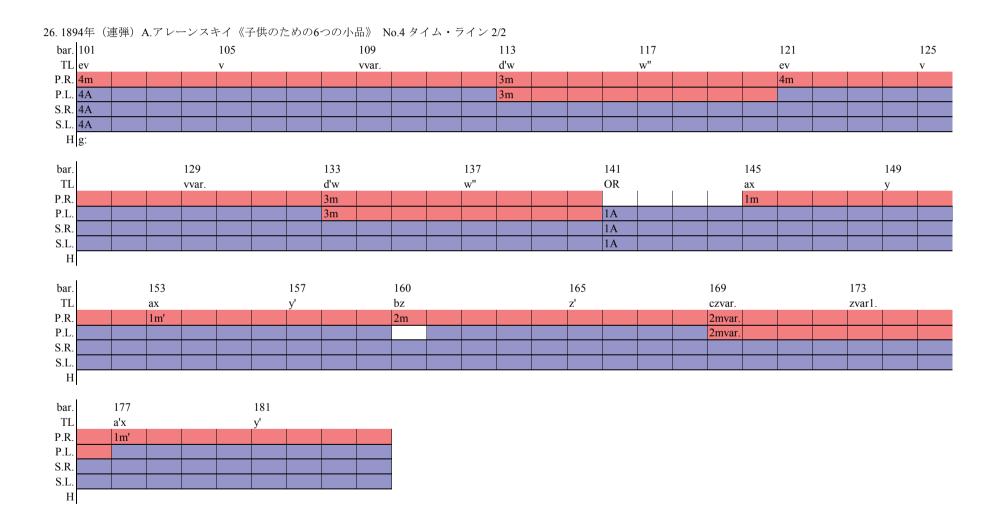
bar.				105		108				112		114		116				120		122		
TL				Na'x'								x'								a"x"		
P.R.				1m'								1m'								1m"		Т
P.L.				1A'								1A"								1A"		
				IA		1.4.1						IA		1 4 11						IA		#
S.R.						1A'								1A"								4
S.L.										1A'								1A"				L
H																						
bar.			129								138	139			142		144		146	147		1
TL			z								a'x'								x'			
P.R.			2m								lm'								lm'			
											1A'								1 4 "			+
P.L.			2m																1A"			#
S.R.			1 Avar.								1A'								1A"			4
S.L.			1Avar.									1A'			1A'		1A'			1A'		1.
H																						
·																						
bar.	152		154		156	158			161													
TL			a"x"						Nkzvar.													
P.R.			lm"						2mvar.													
P.L.			1A'						1Avar.													4
S.R.			1A'						1Avar.													4
S.L.	1A'		1A'		1A'	1A'			1Avar.													
H																						
bar.					181			185	186				190							197		
TL													Rax							y		
P.R.								2		T			1m							T T		T
					_			2mvar.														4
P.L.					2mvar.								1A									4
S.R.									2mvar.													Ш
S.L.																				1A		
H																						
bar.				205		208	209			212	213	214	215	216	217	218	219		221			
TL				bxvar.							xvar.1								cuvar.			
P.R.				1mvar.		1mvar.		1	1	1mvar.	Avai.1	1mvar.1		1mvar.1		1mvar.1			4A			
																						+
P.L.				1A		1A				1A		1A		1A		1A			4A			4
S.R.				1mvar.			1mvar.				1mvar.1		1mvar.1		1mvar.1		1mvar.1		1mvar.			4
				1A			1A				1A		1A		1A		1A		1mvar.			
S.L.																						
S.L.																						
S.L. H								235		237						243	244	245				
S.L. H								235		237						243	244	245 a'x'				
S.L. H bar. TL													1				244	245 a'x'				$\top$
S.L. H bar. TL P.R.								1mvar.		1mvar.						4A	244					Ŧ
S.L. H bar. TL P.R. P.L.								1mvar. 4A		1mvar. 4A							244	a'x'				I
S.L. H bar. TL P.R. P.L. S.R.								1mvar. 4A 1mvar.		1mvar. 4A 1mvar.						4A	244	a'x'				
S.L. H bar. TL P.R. P.L. S.R. S.L.								1mvar. 4A		1mvar. 4A						4A	244	a'x'				
S.L. H bar. TL P.R. P.L. S.R.								1mvar. 4A 1mvar.		1mvar. 4A 1mvar.						4A	244	a'x'				
S.L. H bar. TL P.R. P.L. S.R. S.L.								1mvar. 4A 1mvar.		1mvar. 4A 1mvar.						4A	244	a'x'				
S.L. H bar. TL P.R. P.L. S.R. S.L. H		253			256			1mvar. 4A 1mvar. 1mvar.		1mvar. 4A 1mvar. 4A		264	265	266		4A	244	a'x'				
S.L. H bar. TL P.R. P.L. S.R. S.L. H bar.   251		253 x'			256			1mvar. 4A 1mvar. 1mvar.		1mvar. 4A 1mvar.		264	265 K	266		4A	244	a'x'				
S.L. H bar. TL P.R. P.L. S.R. S.L. H bar. 251		253 x'						1mvar. 4A 1mvar. 1mvar.		1mvar. 4A 1mvar. 4A			K	266		4A	244	a'x'				
bar. TL P.R. P.L. S.R. H bar. 251 TL P.R. A Bar. 251 TL					5A			1mvar. 4A 1mvar. 1mvar.		1mvar. 4A 1mvar. 4A 262		5A	K 4m	266		4A	244	a'x'				
S.L. H  bar. TL P.R. P.L. S.R. S.L. H  bar. 251 TL P.R. 5A P.L. 5A		x'						1mvar. 4A 1mvar. 1mvar.		1mvar. 4A 1mvar. 4A			K 4m 4m	266		4A	244	a'x'				
S.L. H bar. TL P.R. P.L. S.R. S.L. H bar. 251 TL P.R. 5A P.L. 5A S.R. S.L. SA S.R. S.L. SA Bar. 251		x'			5A			1mvar. 4A 1mvar. 1mvar.		1mvar. 4A 1mvar. 4A 262		5A	K 4m 4m 4m			4A	244	a'x'				
S.L. H  bar. TL P.R. P.L. S.R. S.L. H  bar. 251 TL P.R. 5A P.L. 5A		x'			5A			1mvar. 4A 1mvar. 1mvar.		1mvar. 4A 1mvar. 4A 262		5A	K 4m 4m 4m	266		4A	244	a'x'				



26. 189	94年(達	車弾)A	アレー	ンスキ	Fイ 《 i	子供のた	<u>:</u> めの6	つの小	品》 N	o. 1 タ	イム・	ライン								
bar.	1				5				9				13			17		21		25
TL	Eax				y			_	ax				y			avar.x		xvar.		ON
P.R.	1m								1m							1mvar.				<u> </u>
P.L.	1m								1m							1mvar.				
S.R.	1A								2A							1A				
S.L.									2A							1A				
Н	g:																			
	i																			
bar.					30				34				38					46		50
TL					zvar.				Ravar.				xvar.1					a'x		y'
P.R.									1mvar	.1								1m'		
P.L.	2m								1mvar	.1								1m'		
S.R.	3A								4A									5A		
S.L.									4A									5A		
Н																				
	ı																			
bar.			:	54				58					63		66					
TL				a'x				y'					a'var.xv	var.2	y'var.					
P.R.				1m'									1mvar.	2						
P.L.				1m'									1mvar.	2						
S.R.													6A							
S.L.													6A							
Н																				







	ための6つの小品》 No.5 タィ				
bar. 1 5 TL Eax x P.R. 1m P.L. 1m	9	13		19 Nax	23
TL Eax x	by	y'		Nax	X
P.R. Im	2m			1m	
P.L. IM	2m			1m	
S.R. IA					
S.L. 1A H C:					
bar. 27 TL avar.xvar. P.R. Imvar. P.L. Imvar. S.R. S.L.					
26. 1894年(連弾)A.アレーンスキイ《子供の	ための6つの小品》 No.6 タイ	<b>イム・</b> ライン			
	9	13	17	21	25
bar. 1 5 TL Ox ax	v	ax	X	v	25 bz
P.R. 1m		1m			2m
P.L. 1m		1m			2m
S.R. 1A		1A			
S.L. 1A H G:		1A			
H G:					
1 1 20	22				
bar. 29		27	41	4.5	40
TI  !	33	37	41	45	49
bar. 29 TL z'	ax	37 y	bz	45 z'	a'x
P.R.	ax 1m		bz	45 z'	a'x   1m'
P.R. P.L.	ax   1m   1m		bz	45 z'	a'x   1m'   1m'
P.R. P.L. S.R.	ax   1m   1m   2A		bz	45 z'	a'x   1m'   1m'   3A
P.R. P.L. S.R.	ax   1m   1m		bz	45 z'	a'x   1m'   1m'
P.R. P.L.	ax   1m   1m   2A		bz	45 z'	a'x   1m'   1m'   3A
P.R. P.L. S.R. S.L. H	ax   1m   1m   2A   2A   2A	у	bz	z'	a'x   1m'   1m'   3A
P.R. P.L. S.R. S.L. H	ax   1m   1m   2A   2A   2A   58	62	bz	70	a'x   1m'   1m'   3A
P.R. P.L. S.R. S.L. H  bar. 53 TL y'	ax   1m   2A   2A   2A   58   avar.x	у	bz	z'	a'x   1m'   1m'   3A
P.R. P.L. S.R. S.L. H  bar. TL P.R.	ax   1m   1m   2A   2A   2A   58	62	bz	70	a'x   1m'   1m'   3A
P.R. P.L. S.R. S.L. H  bar. 53 TL P.R. P.L. S.R.	3X	62	bz	70	a'x   1m'   1m'   3A
P.R. P.L. S.R. S.L. H  bar. TL P.R.	3X	62	bz	70	a'x   1m'   1m'   3A

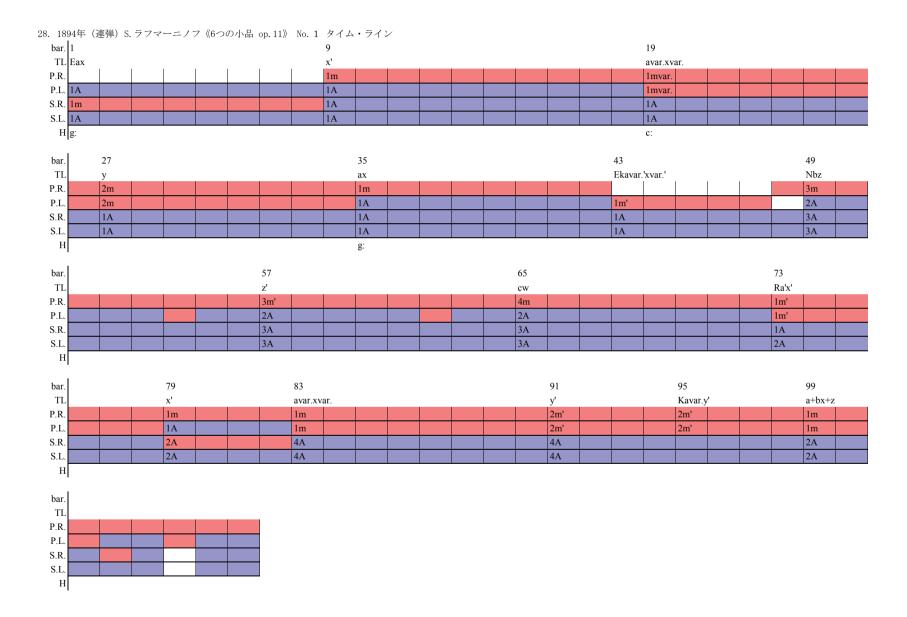
## 27. 1893年(連弾) S. ラフマーニノフ〈ロマンス ト長調〉タイム・ライン

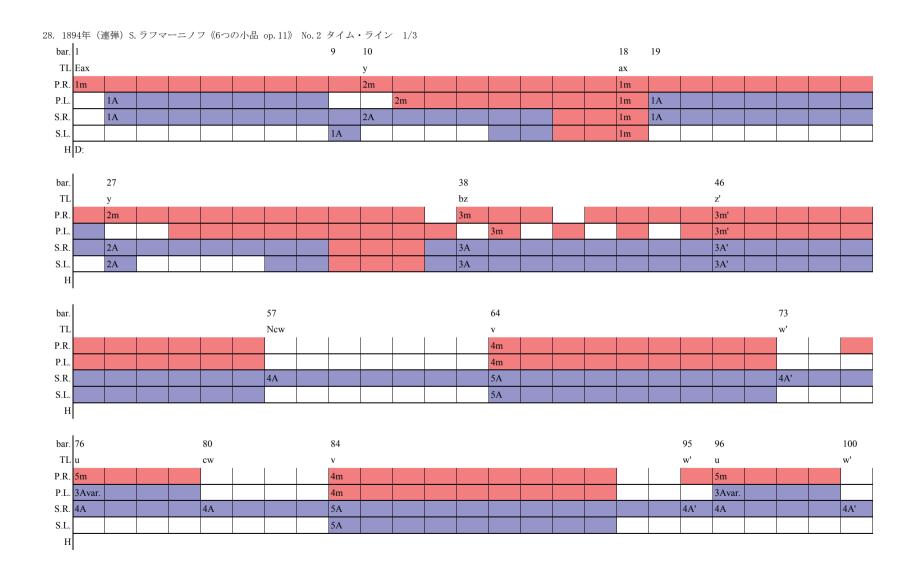
bar.		3	5		9			14	
TL	Eax		y		ax			y'	
P.R.	1m				1m'				
P.L.	1m				1m'				
S.R.		1m			1m'				
S.L.		1A							
Н	G·								

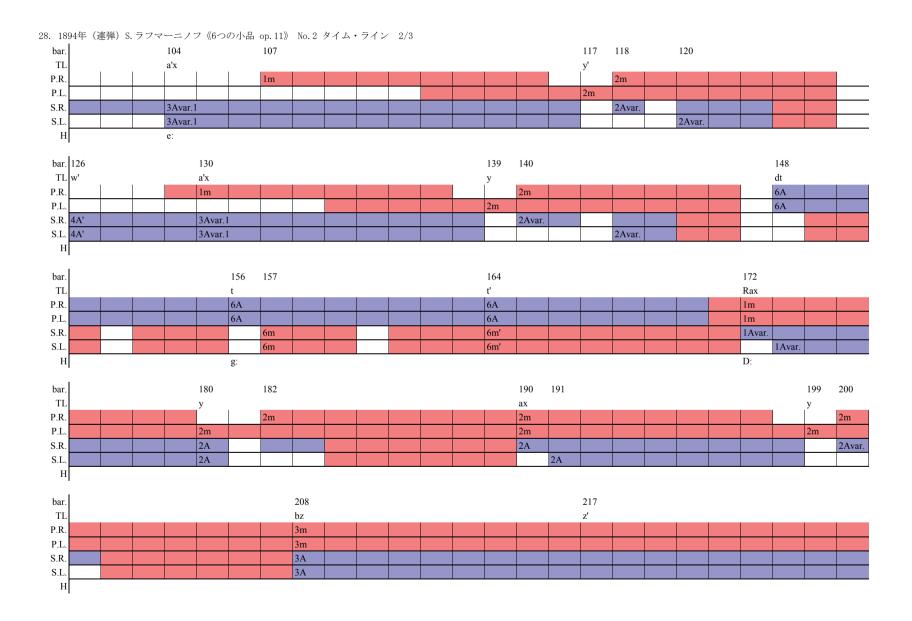
TT	$\alpha$ .
п	U.

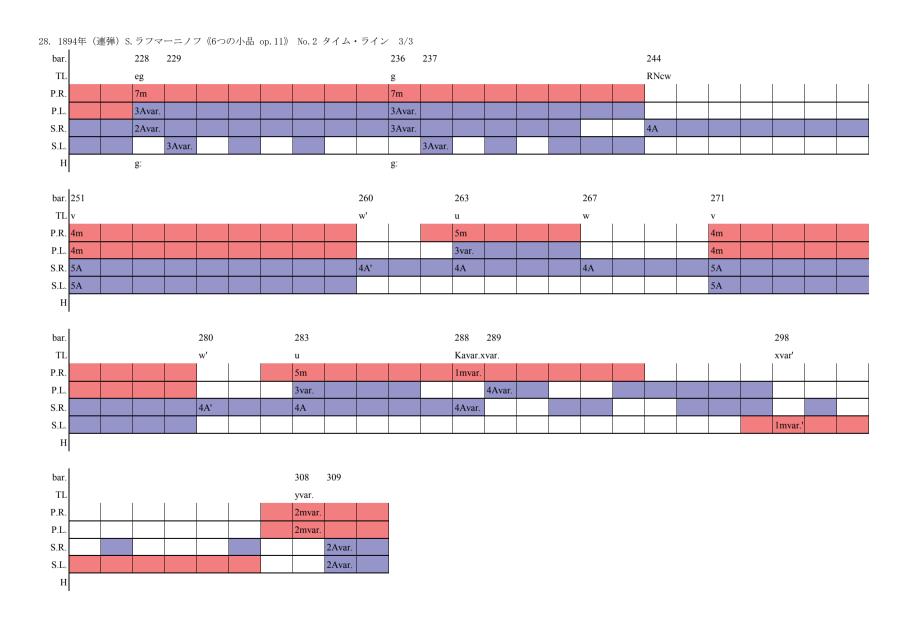
bar.	17		21			25			29		
TL	bz		z'			bvar.zv	ar		Nax		
P.R.	2m+3m								1m+4m		
P.L.	2m+3m								1m+4m		
S.R.	2m+3m				1A				1m+4m		
S.L.											
Н											

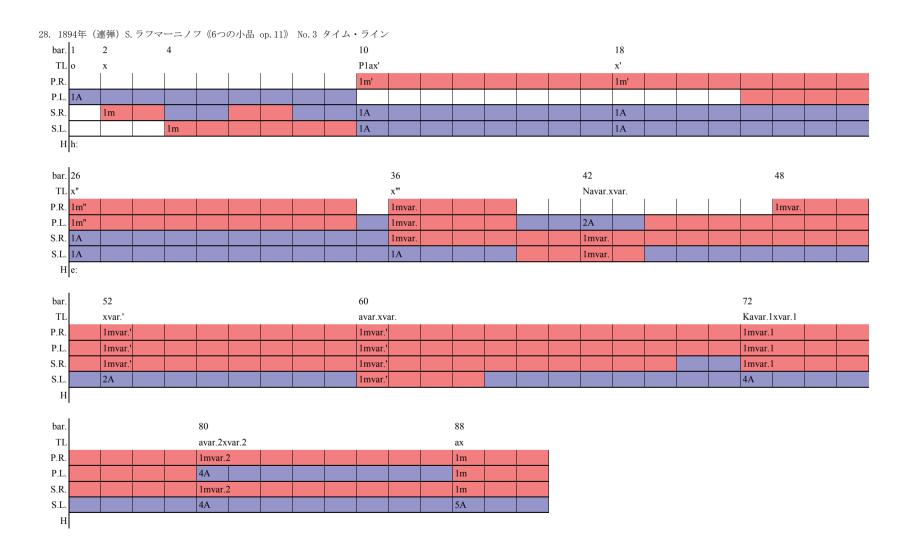
bar. TL	33		37					
TL	y''		avarx		yvar			
P.R.			1m					
P.L.			1m					
S.R.			1m					
S.L.								
Н								

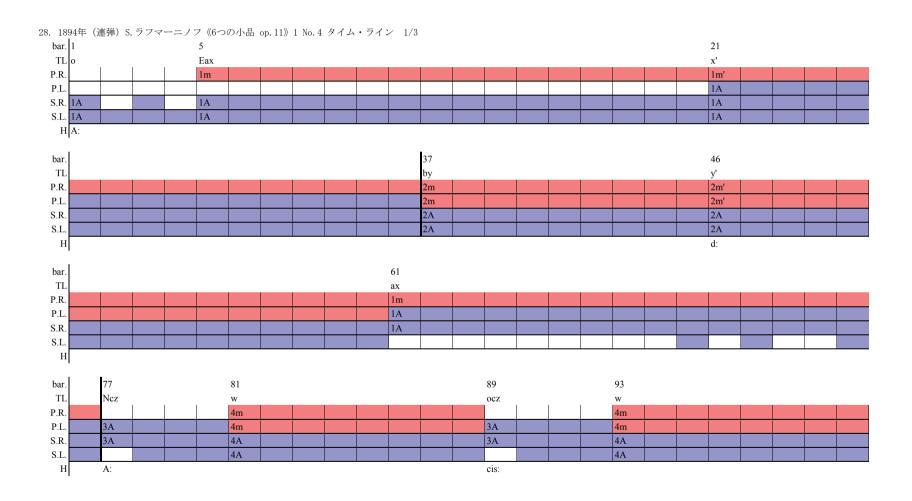




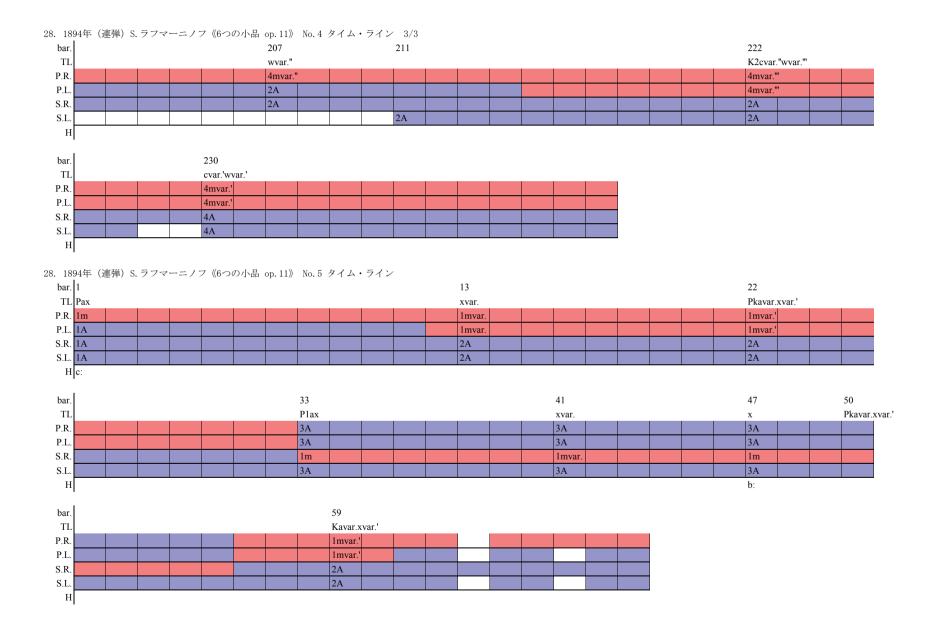


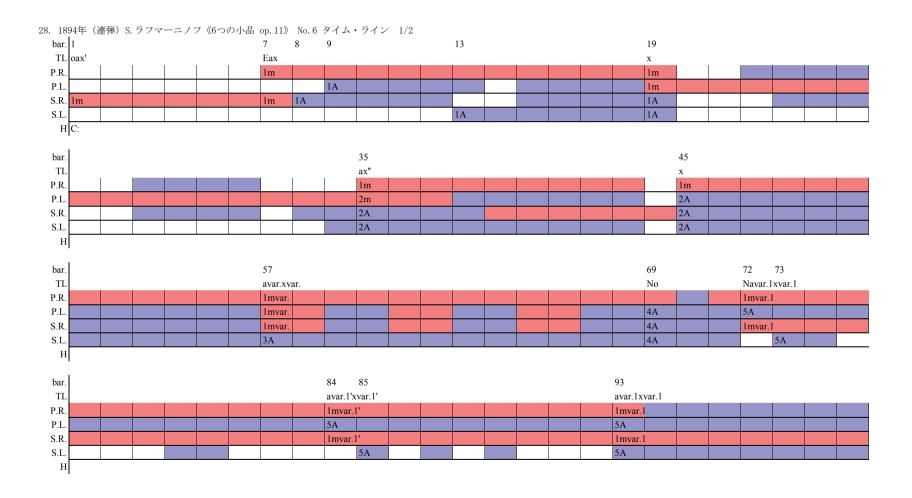


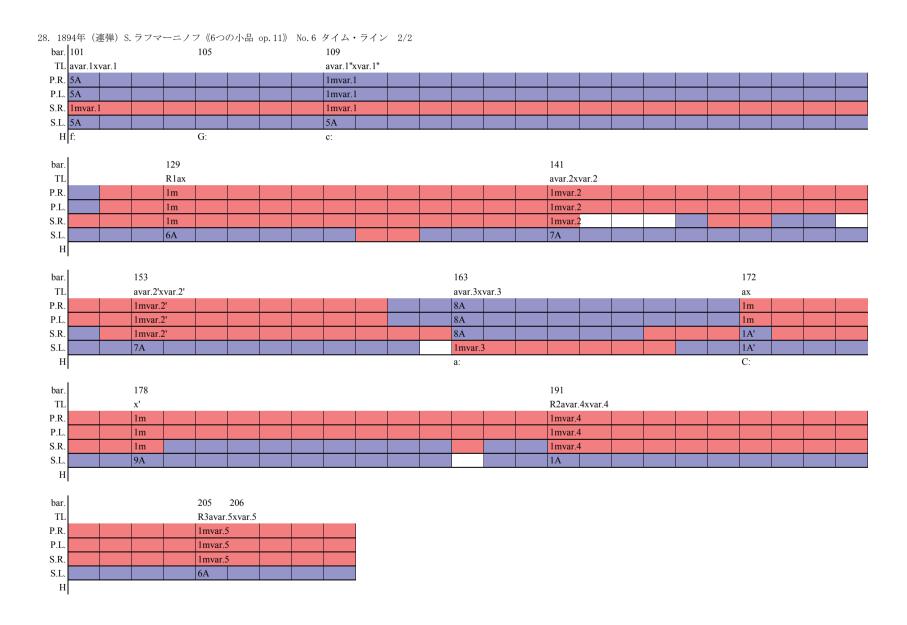


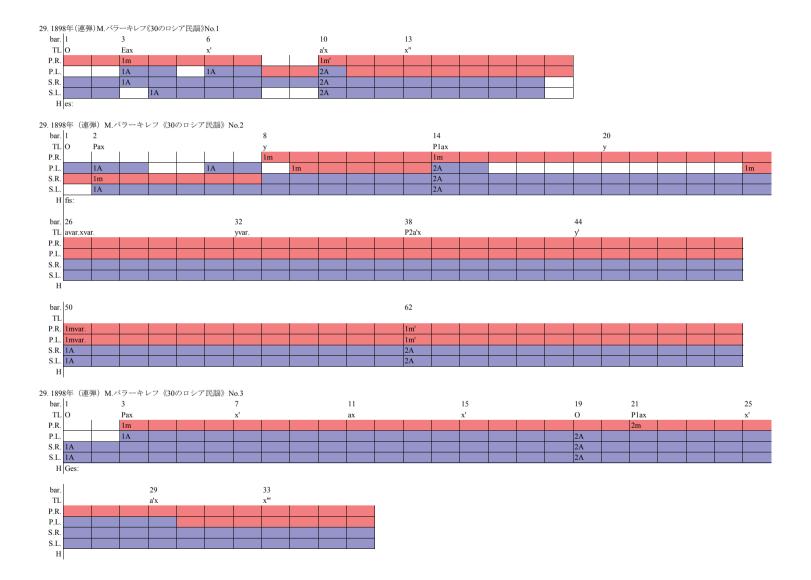


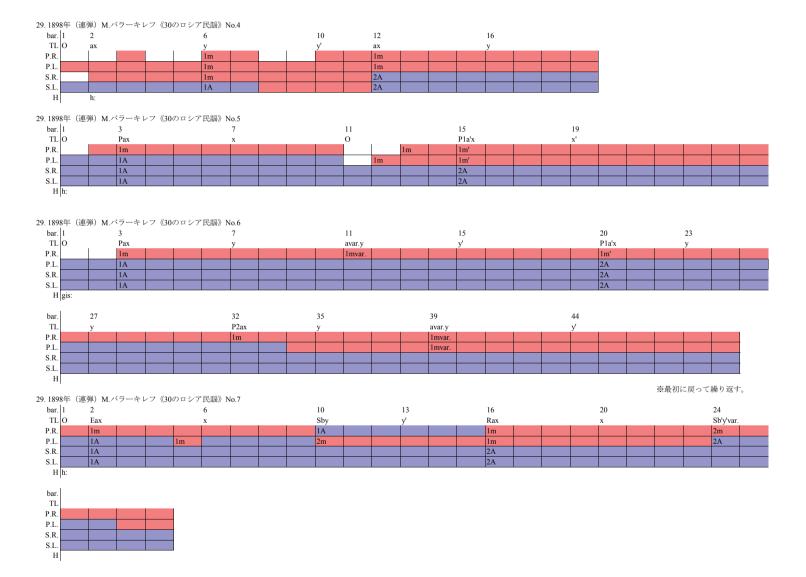


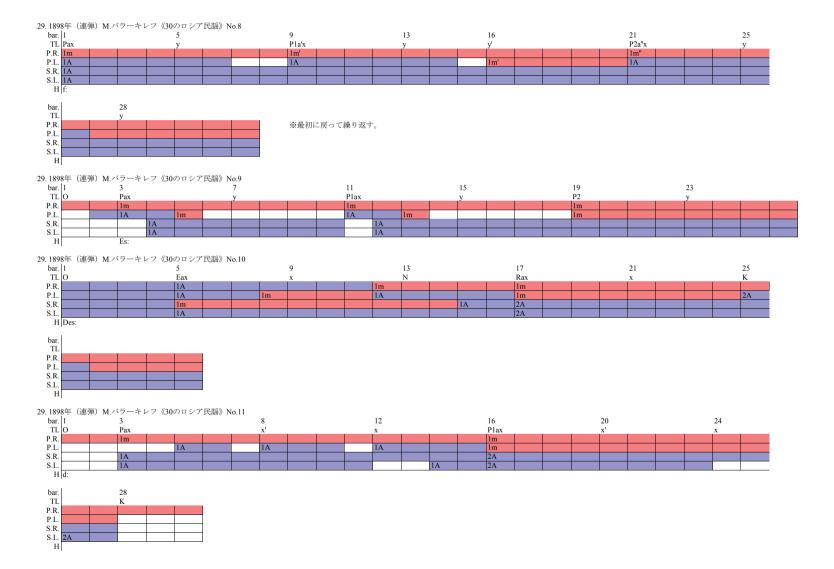


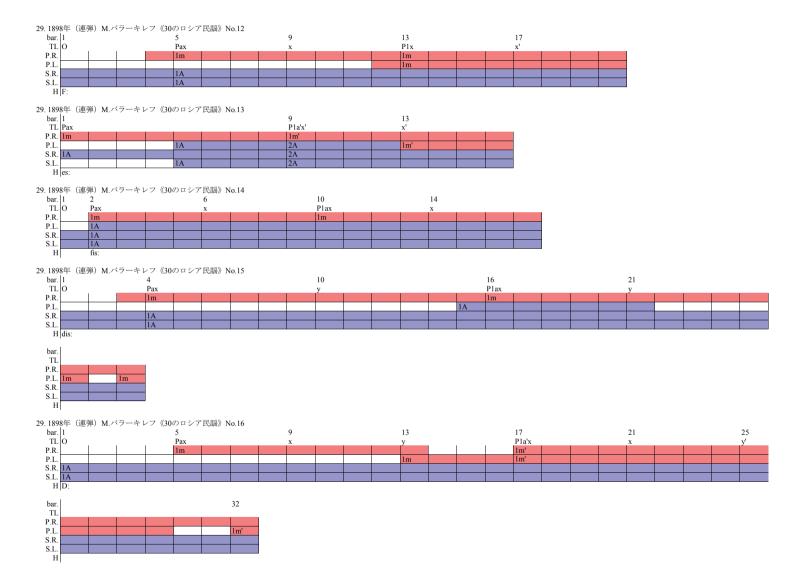


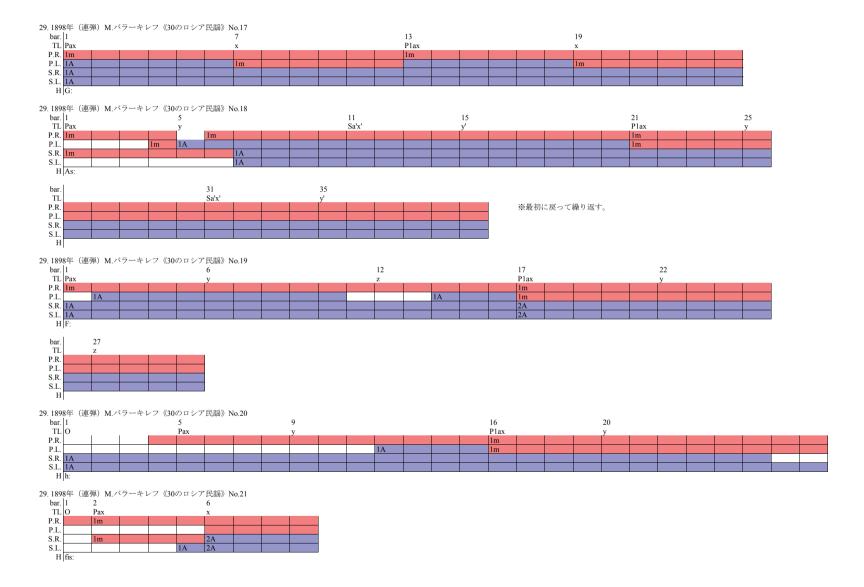


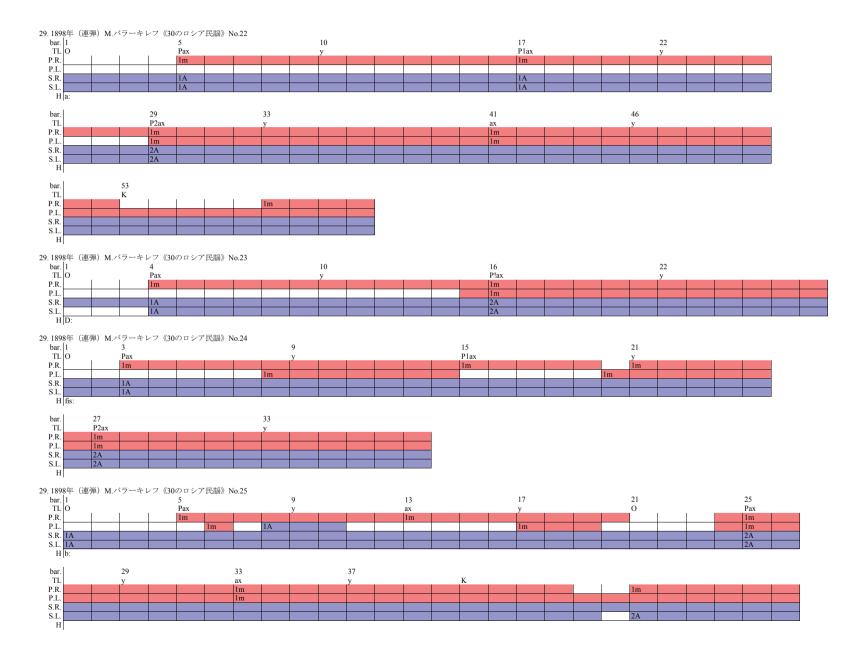


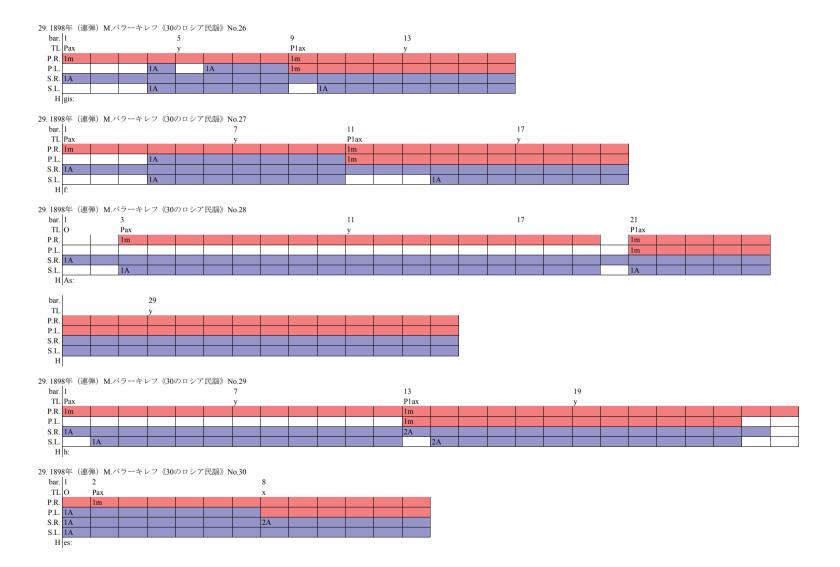


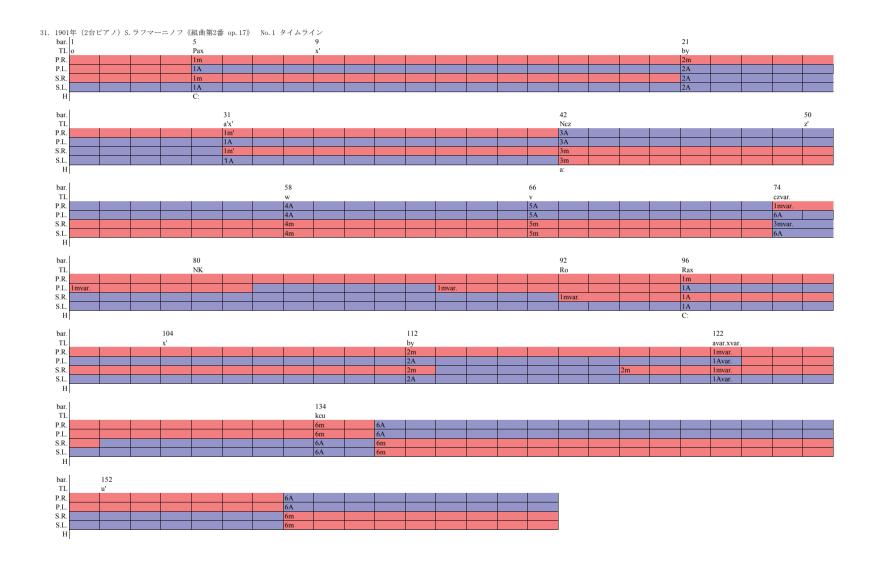






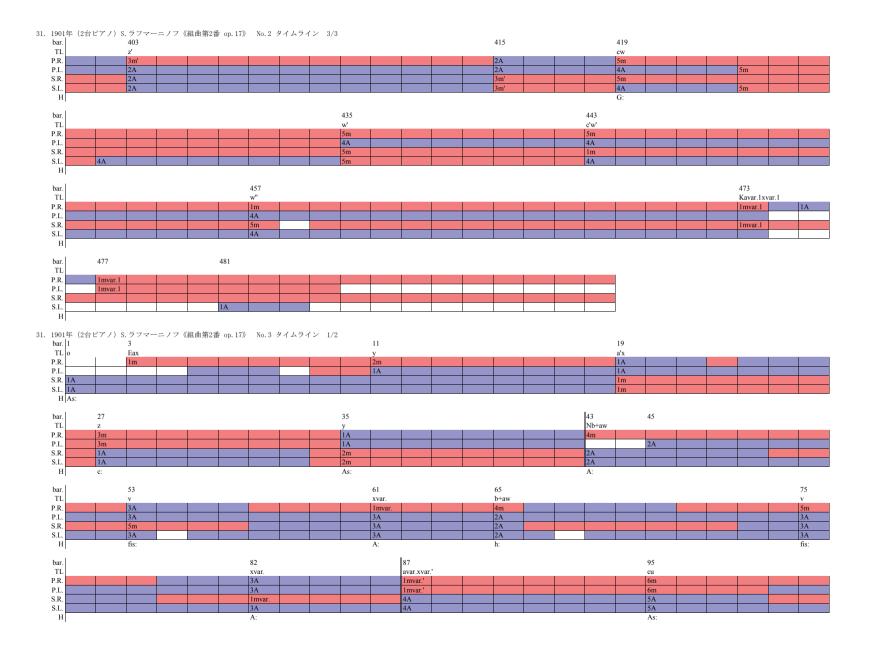


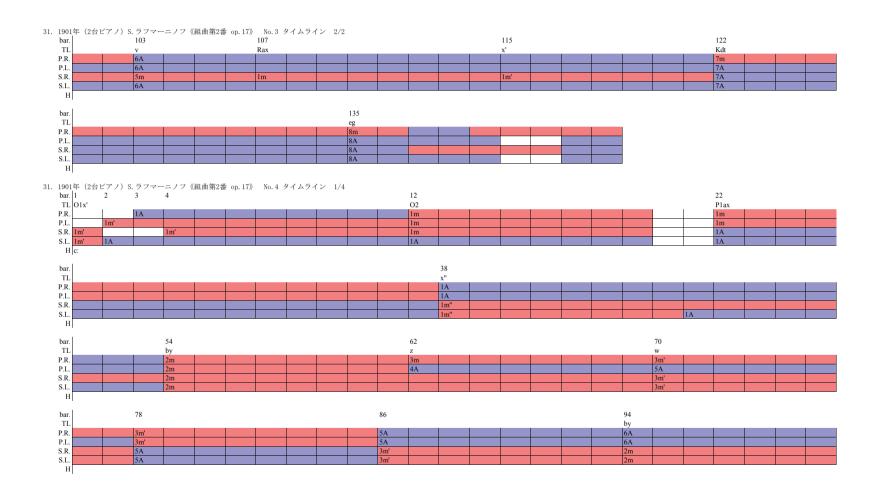






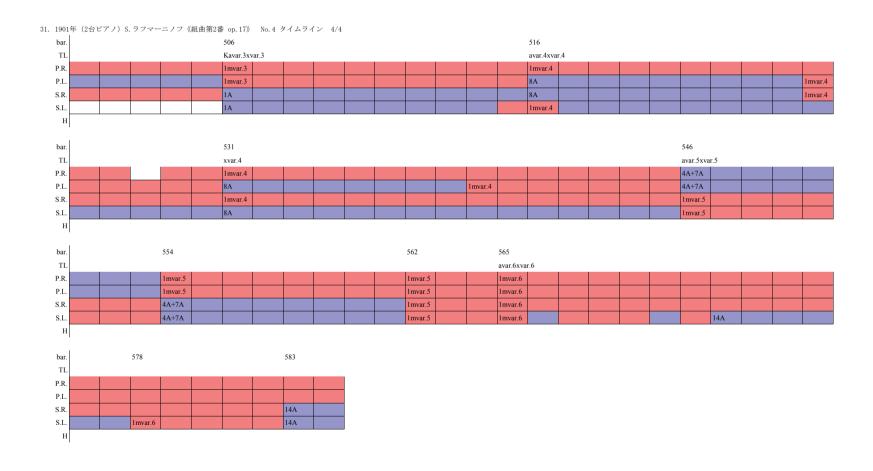


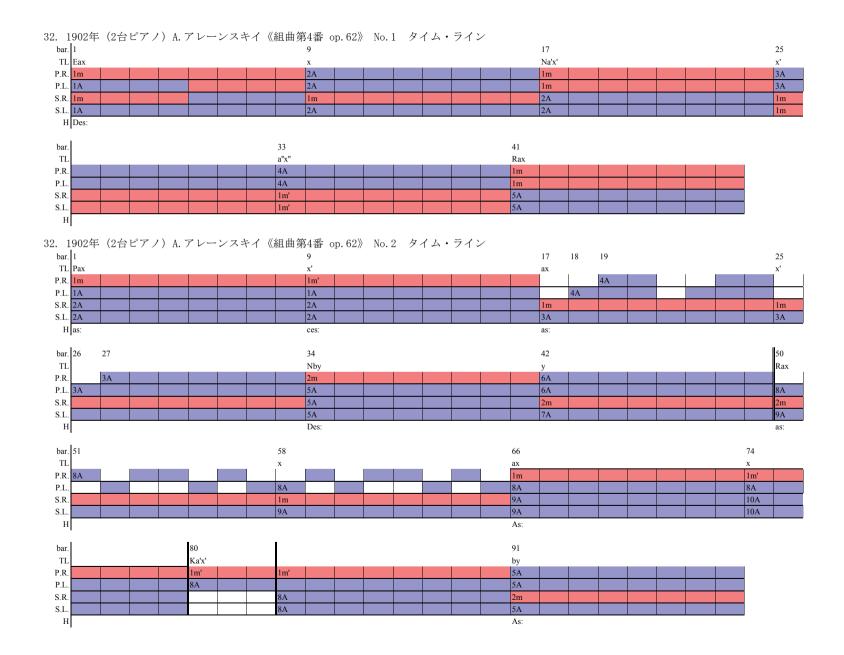


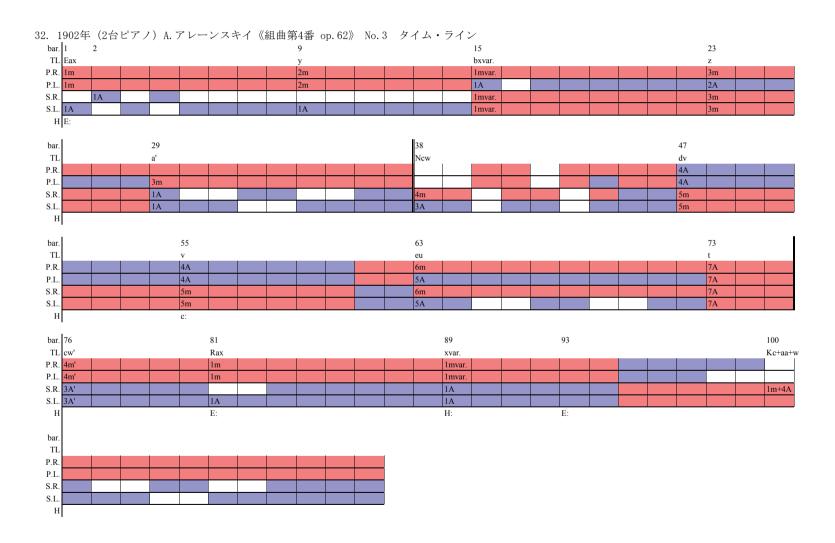


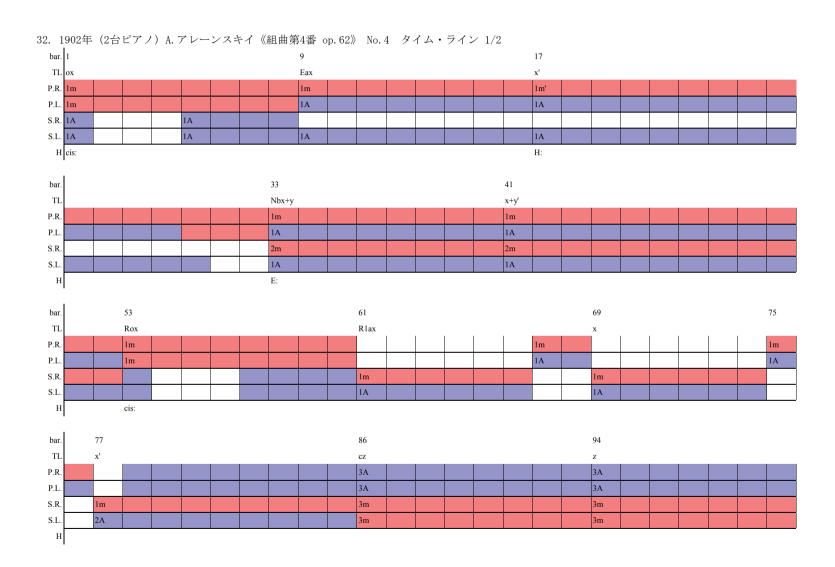




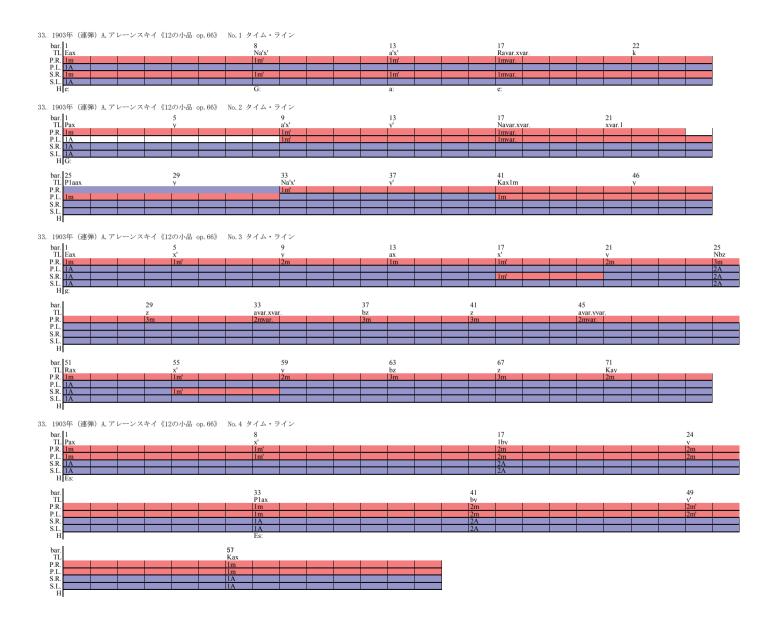


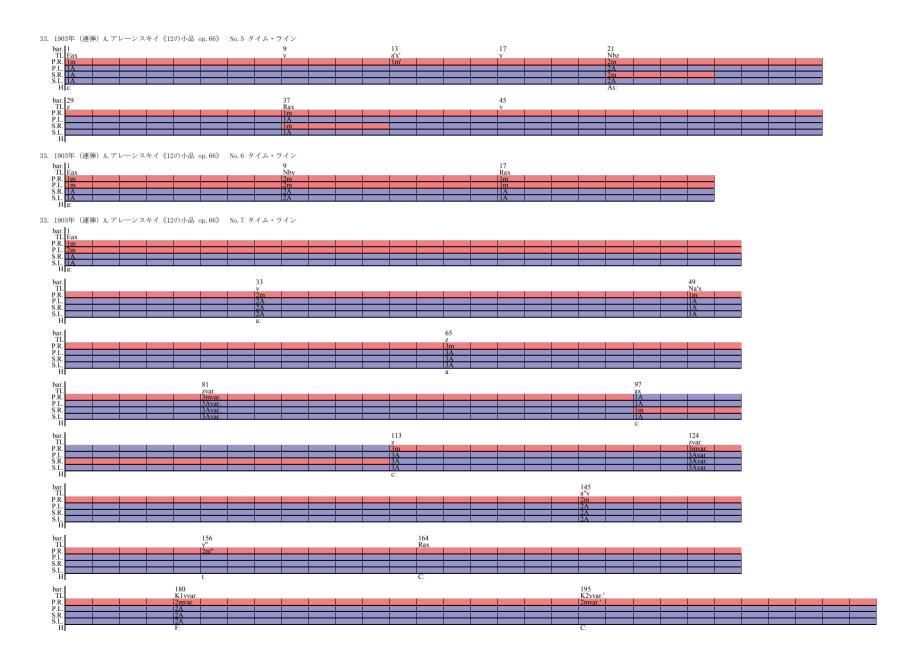


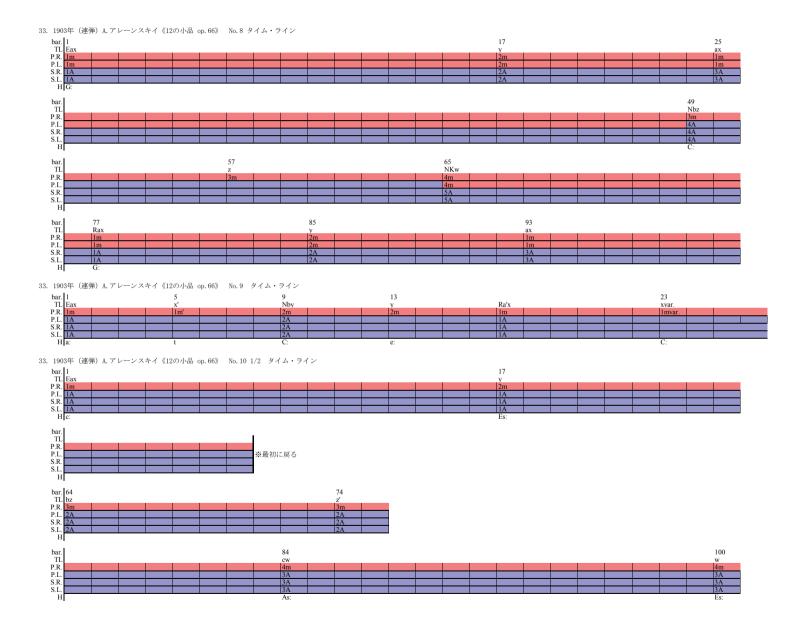




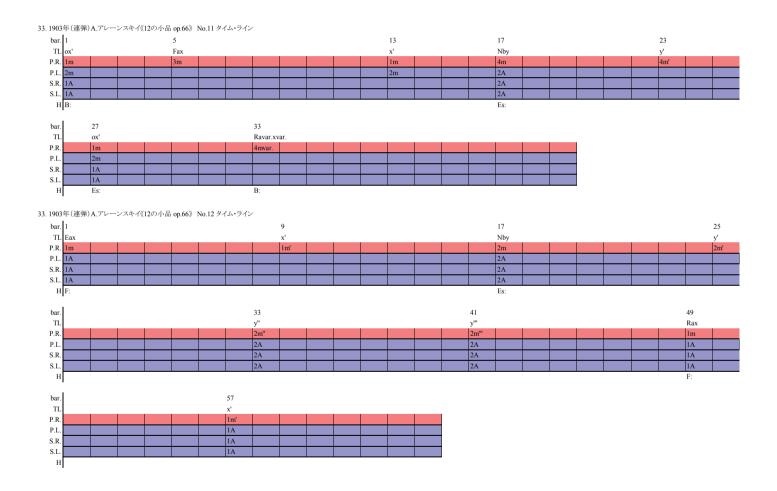


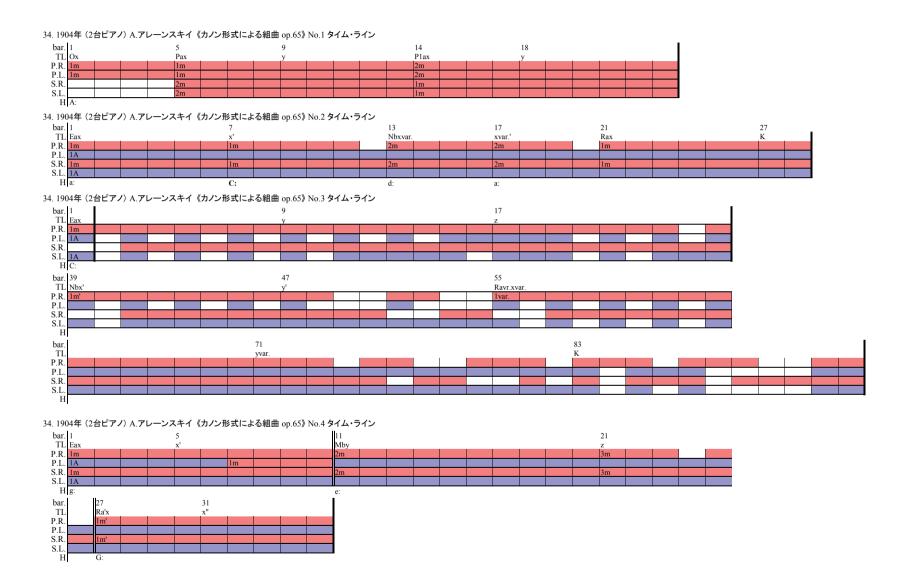


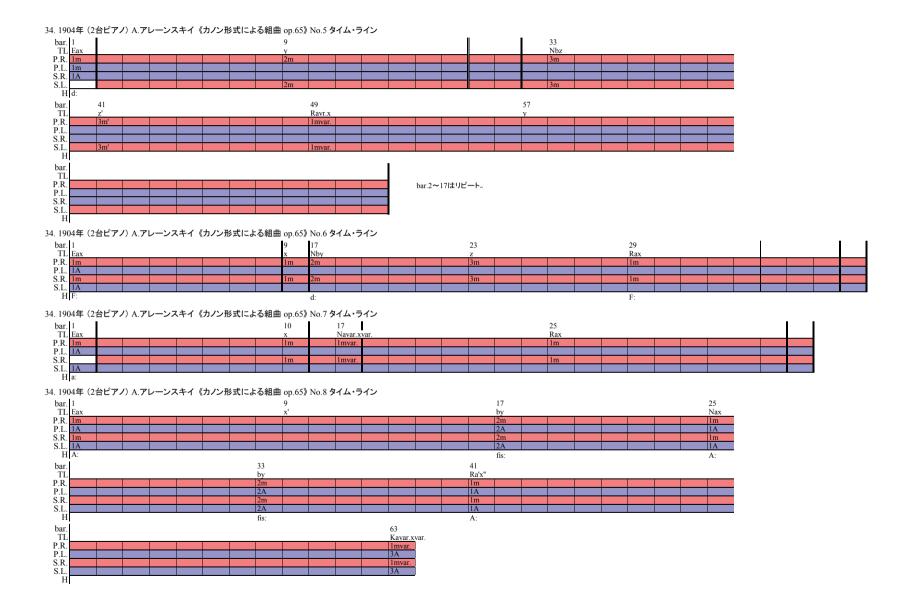


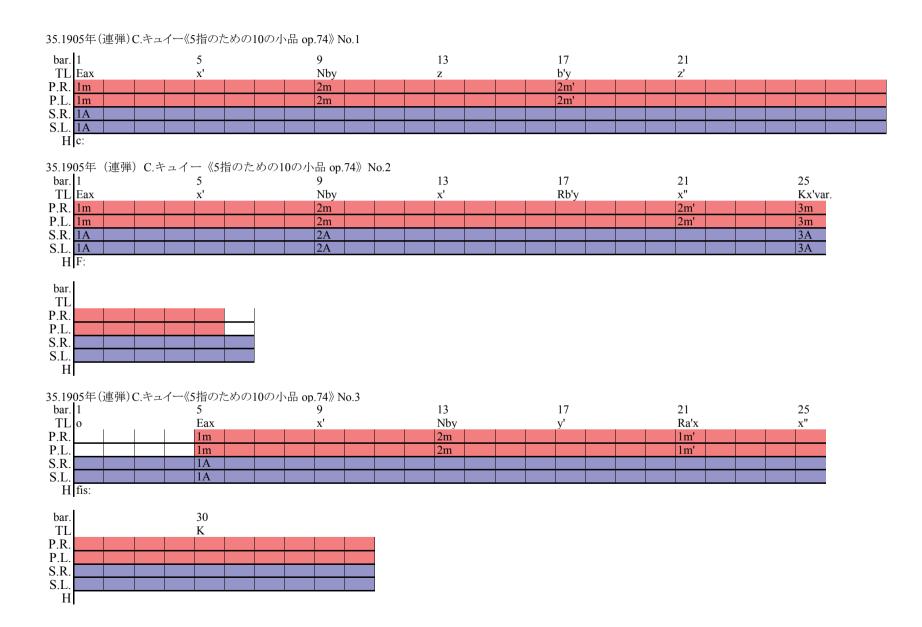


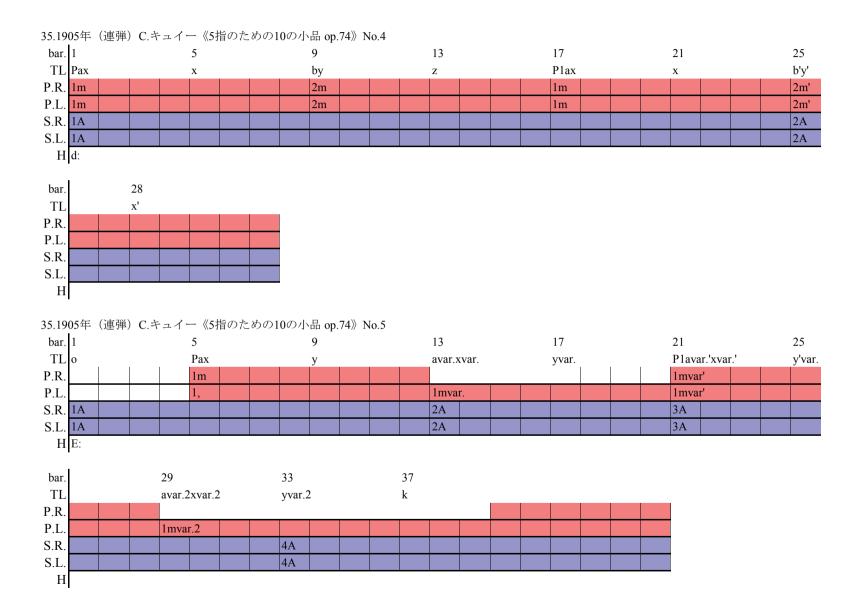


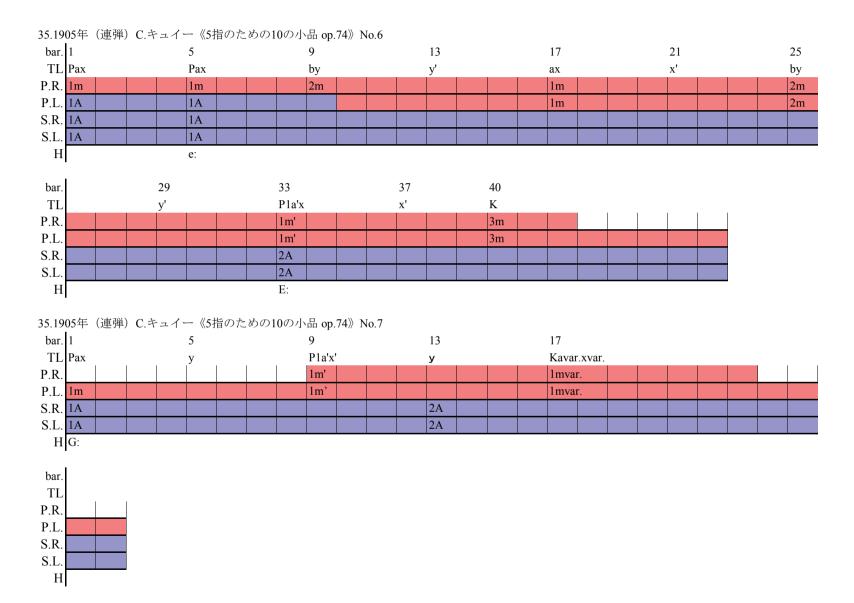


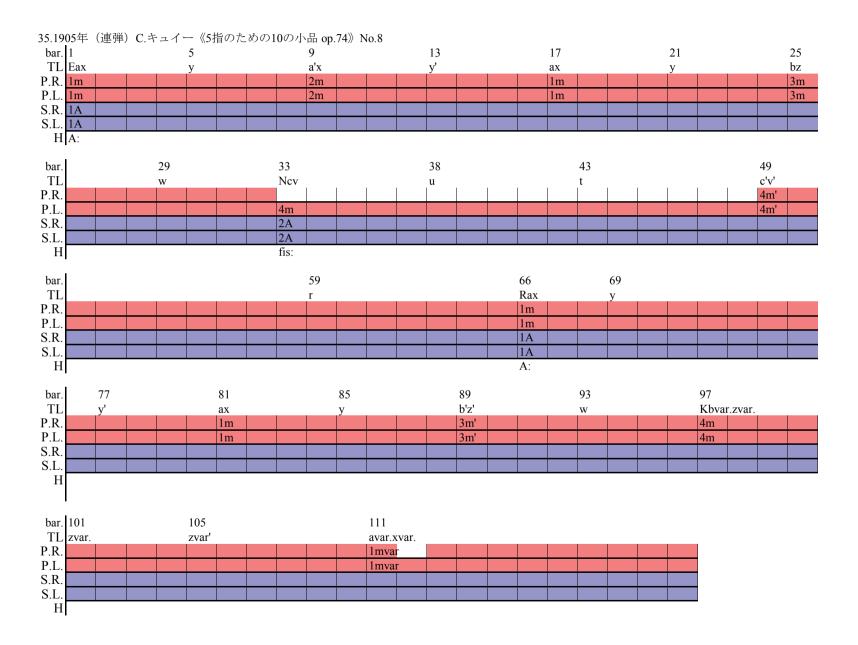


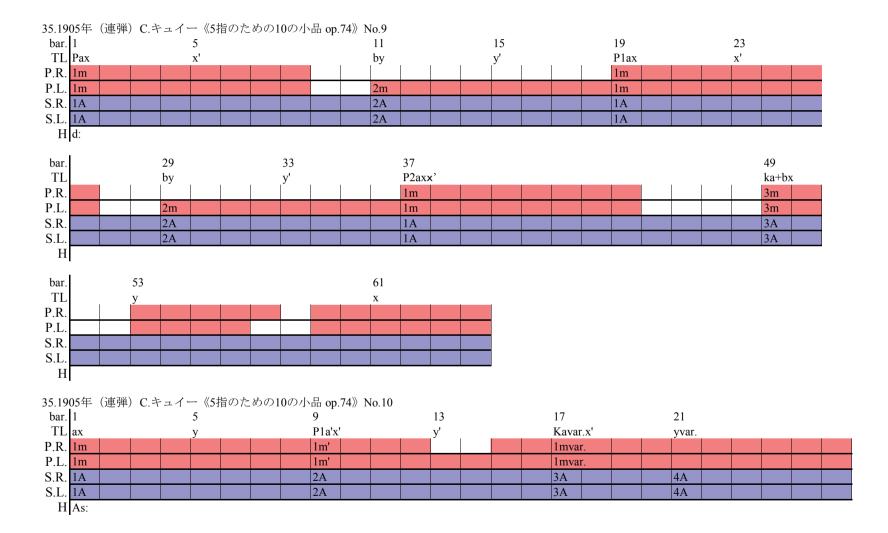










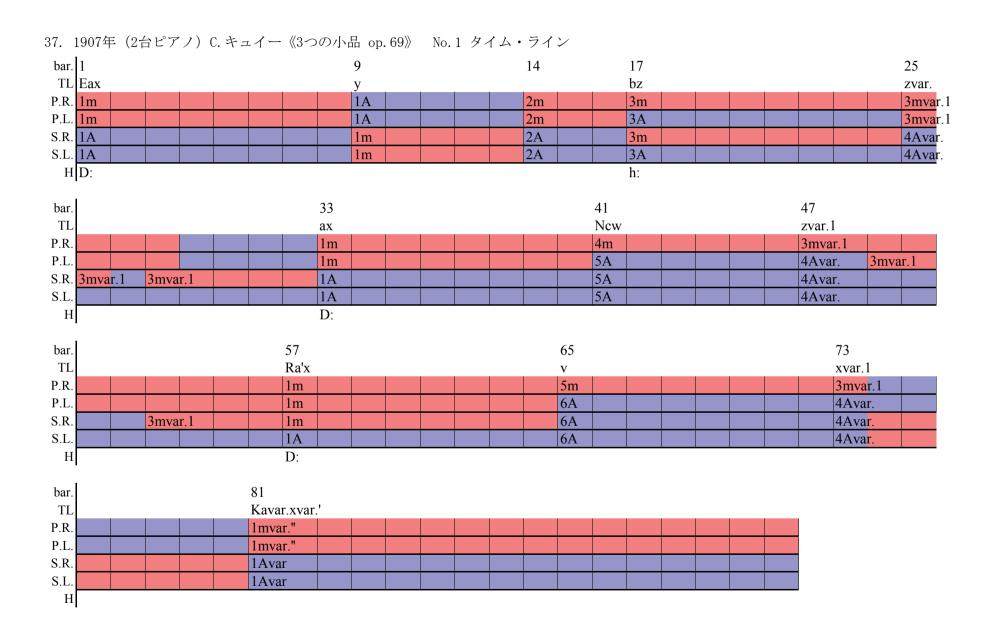


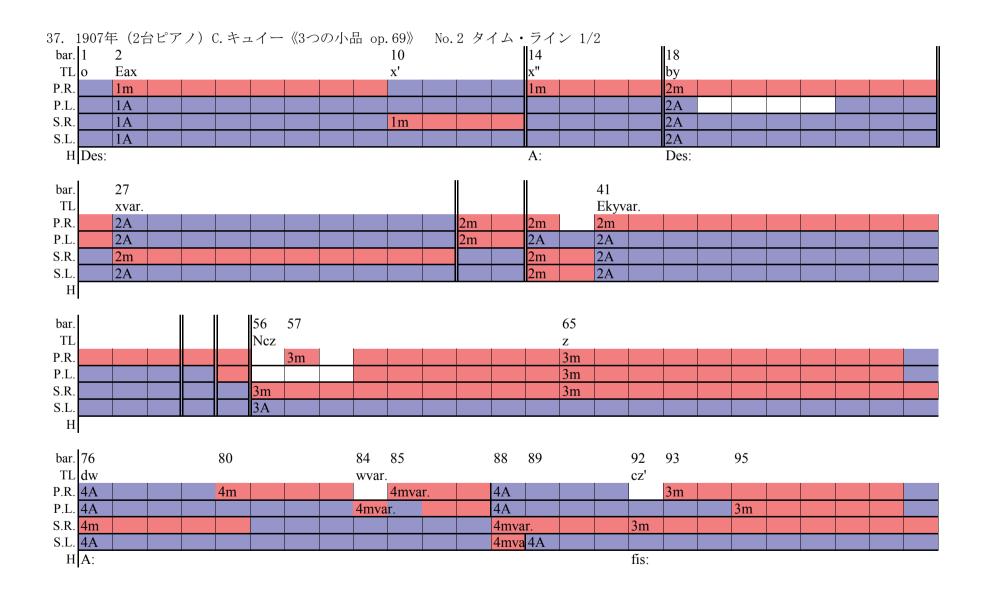
## 36. 1906年(連弾) S. ラフマーニノフ〈イタリアン・ポルカ〉 タイム・ライン

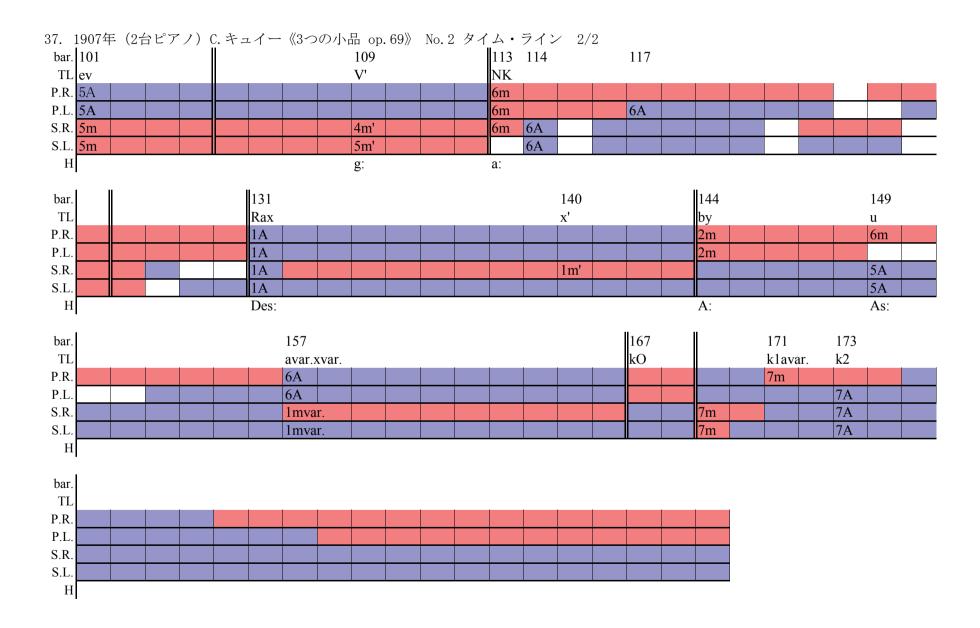
bar.	1		5		9		13		
TL	Pax		y		ax		y		
TL I P.R. 1 P.L. 1	lm				1m				
P.L. ]	lm				1m				
S.R.	1A				1A				
S.L.	1A				1A				
S.L. I	es:								

bar. 17		21		25	5		29		
TL Nbz		$\mathbf{z}'$		b'z	Z		zvar'.		
P.R. 2m				2n	n'				
P.L. 2m				2n	n'				
S.R. 1A				1 <i>A</i>	4				
S.L. <b>1A</b>				1 <i>A</i>	4				
Н									

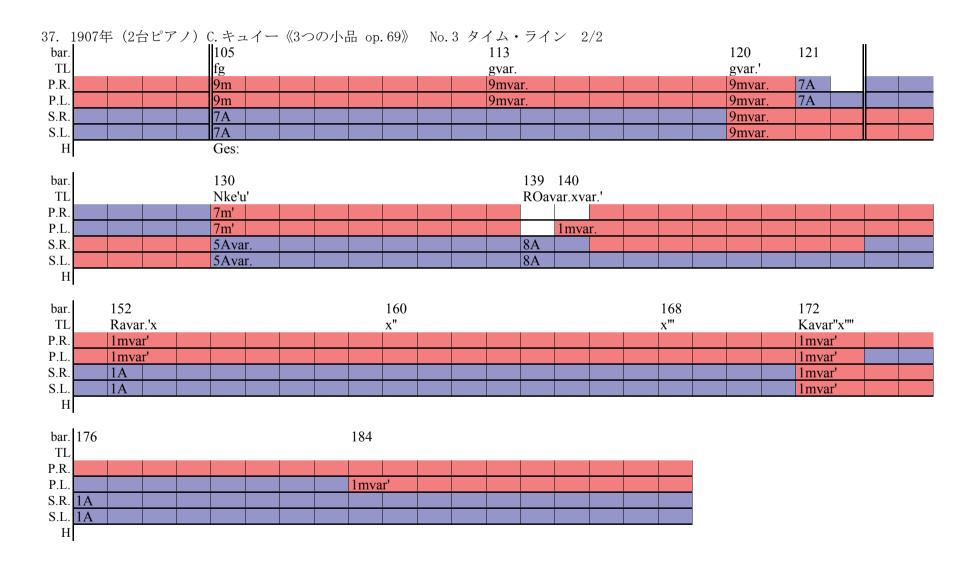
bar.	33			37			41			45		
TL	cw			v			c'w			vvar.		
bar. TL P.R.	3m						3m'					
P.L.							3m'					
S.R.		1A					1A					
S.L.		1A					1A					
Н	•			•		•			•			

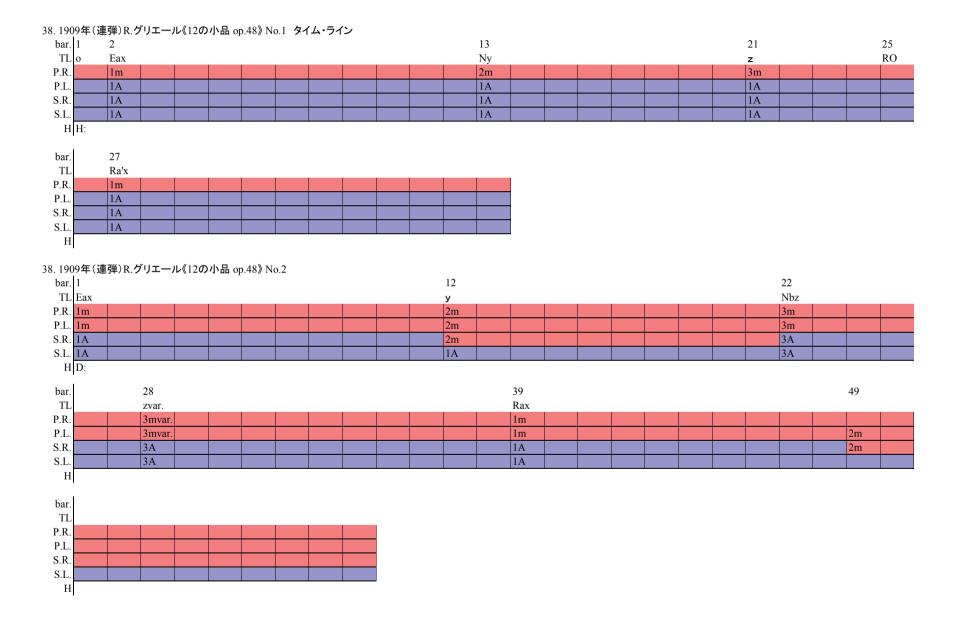


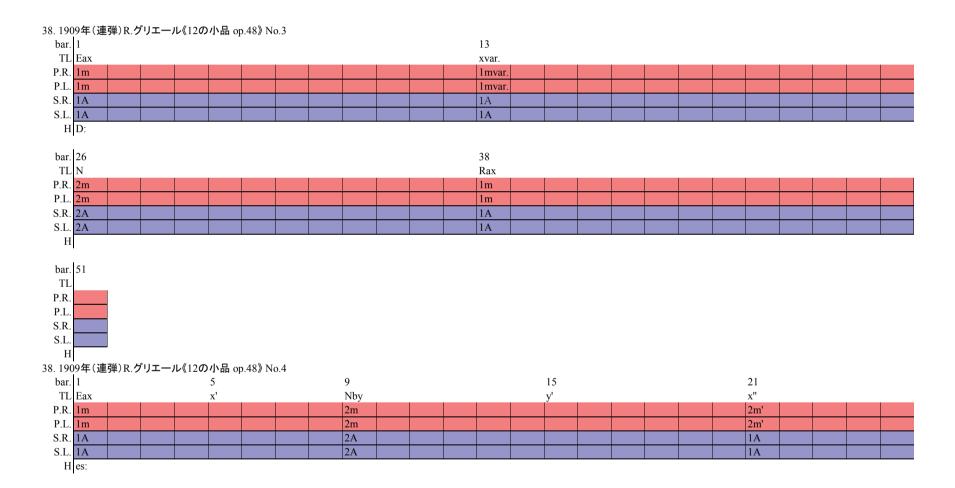


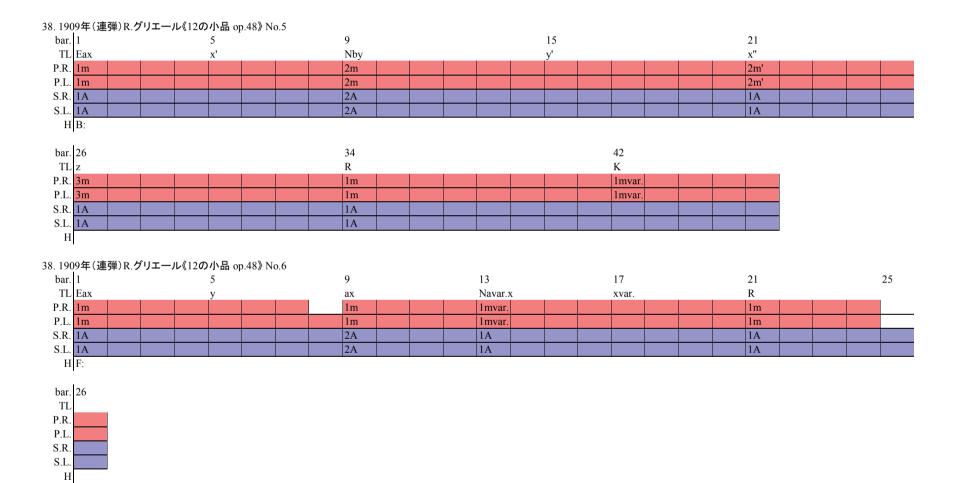


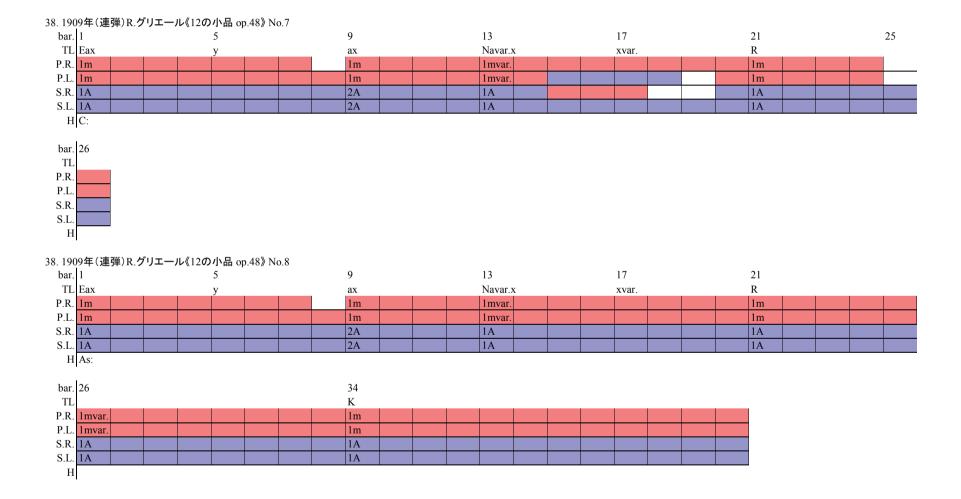


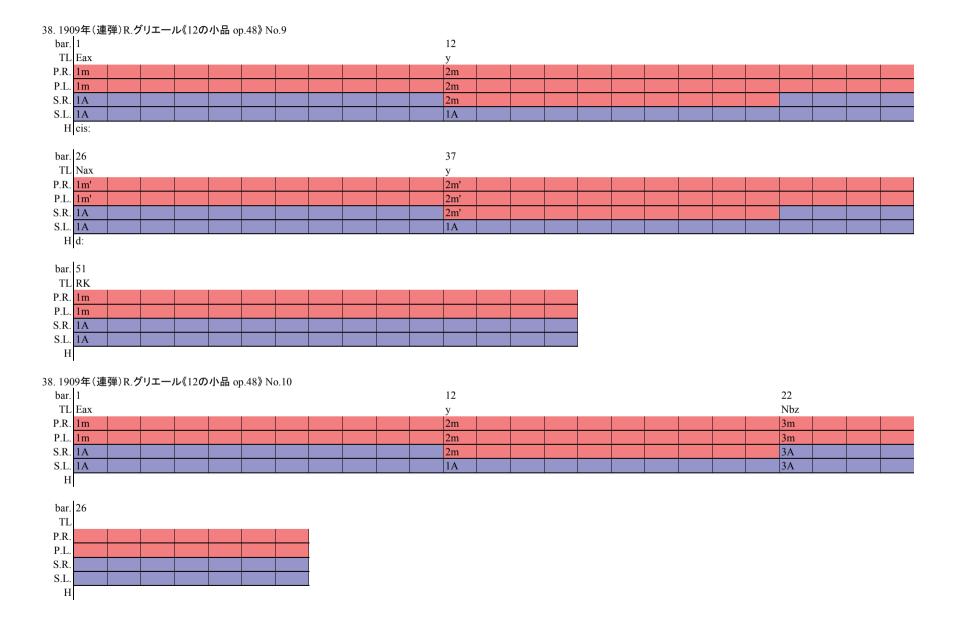


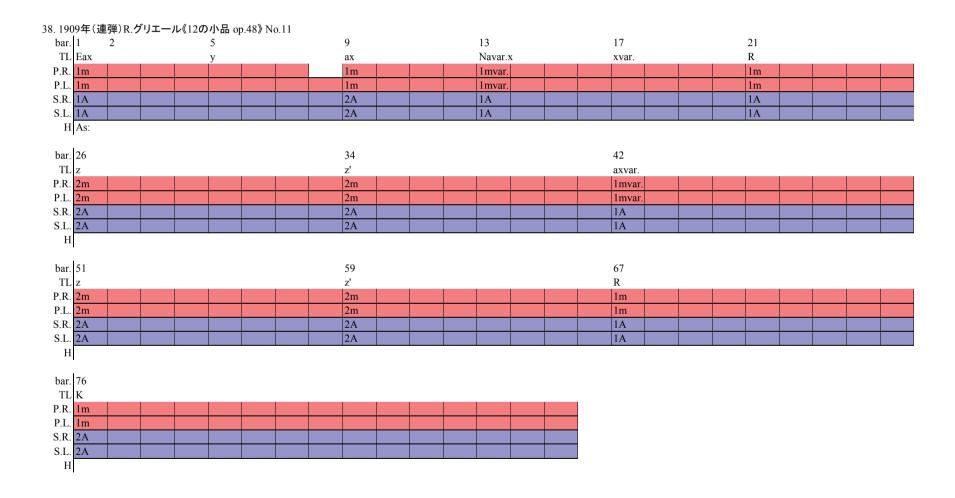








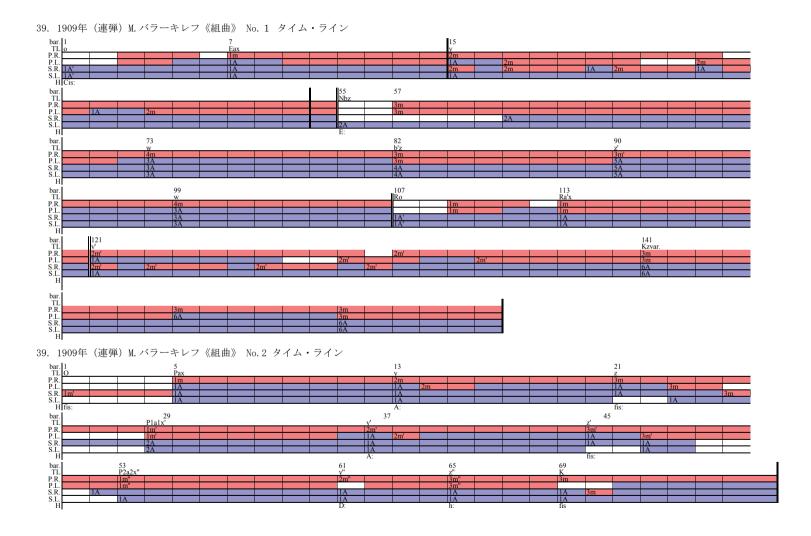




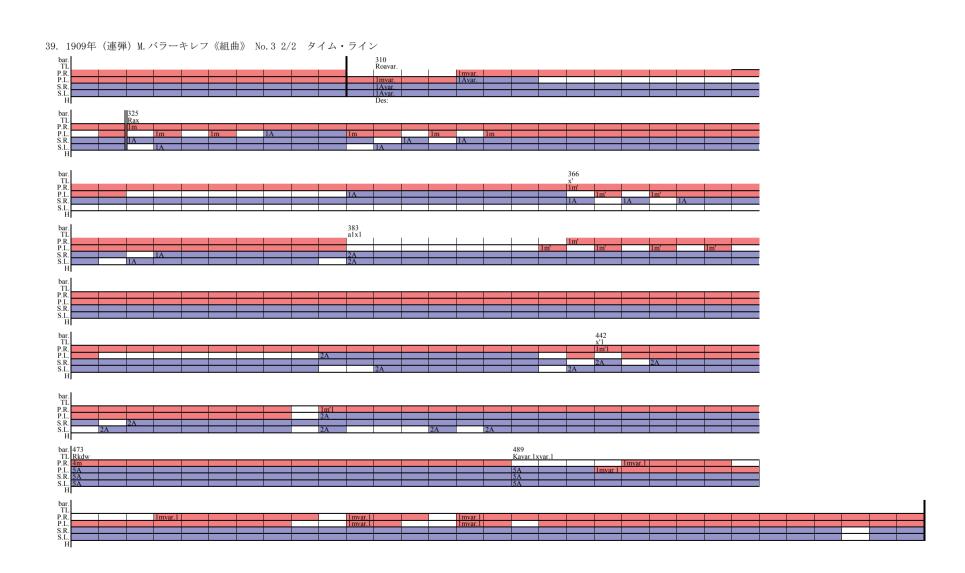
#### 38. 1909年(連弾) R.グリエール《12の小品 op.48》 No.12 bar. 1 5 13 9 17 21 TL Eax Navar.x ax xvar. P.R. 1m 1mvar. 1m 1m P.L. 1m 1m 1mvar. 1m 2A S.R. 1A 1A 1A S.L. 1A 2A 1A 1A Н а: bar. 26 33 41 45 TL Rax K P.R. 1m 1mvar. 1m 1m P.L. 1m 1mvar. 1m 1m S.R. 2A 1A 1A 1A S.L. 2A 1A 1A 1A Н bar. TL P.R. P.L. S.R.

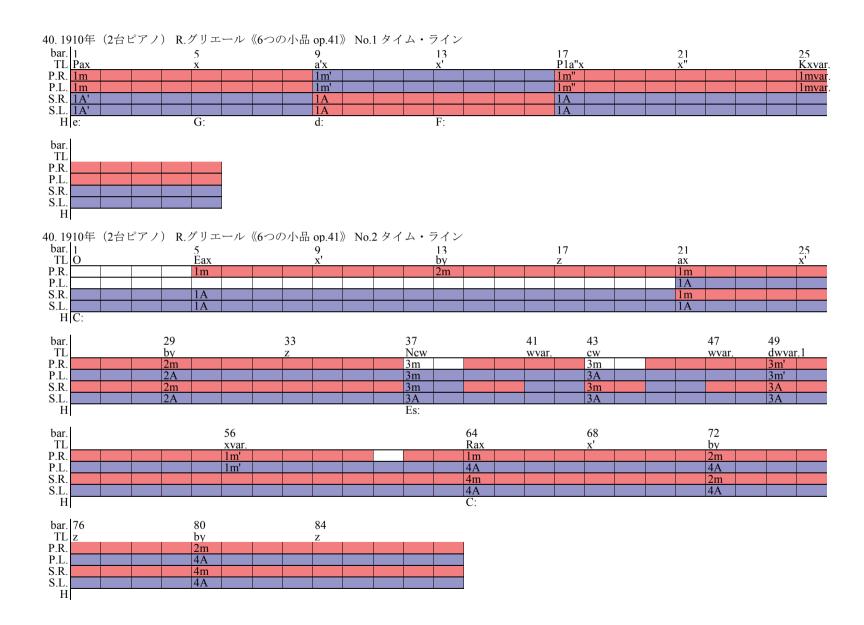
S.L.

Н



39. 1909年(連弾) M. バラーキレフ《組曲》 No. 3 1/2 タイム・ライン bar. 1 TL Eax P.R. 1m P.L. S.R. 1A S.L. bar. TL P.R. P.L. S.R. S.L. H bar. TL P.R. P.L. S.R. S.L. bar. TL P.R. P.L. S.R. S.L. bar. TL P.R. P.L. S.R. S.L. H bar. TL P.R. P.L. S.R. S.L. 147 Ekavar.xvar. bar. TL P.R. P.L. S.R. S.L. bar. TL P.R. P.L. S.R. S.L. 221 bar. TL P.R. P.L. S.R. S.L. 229 by 245 v'





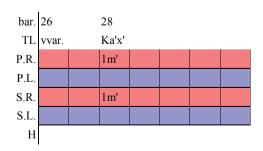
40. 1910年(2台ピアノ) R.グリエール《6つの小品 op.41》 No.3 タイム・ライン

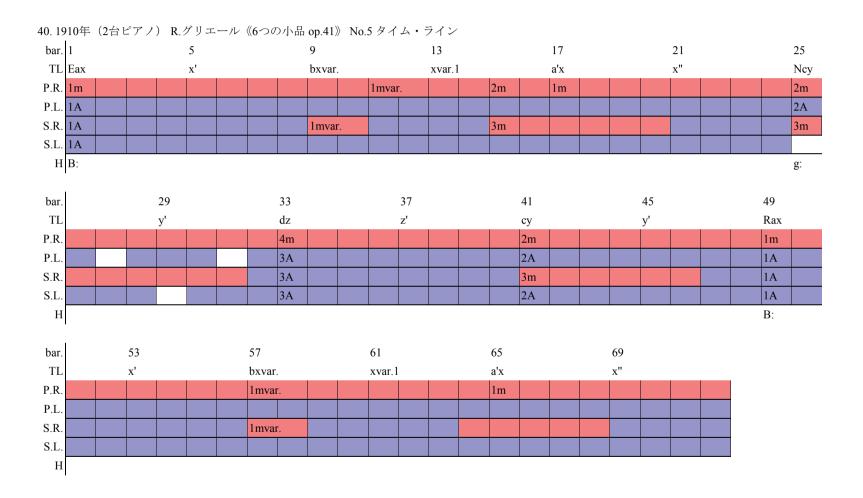
bar. 1	5	9	13	17	21	25
TL ox	Eax	x'	Nby	Z	Rax	Kavar.xvar.
P.R. 1m	1m		2m	4m	1m	1mvar.
P.L.	1A		2A	2A'	1m	4A
S.R.	1m		3m	4m	3A	4m
S.L.	1A		2A	2A'	3A	4A
H b:			_		•	

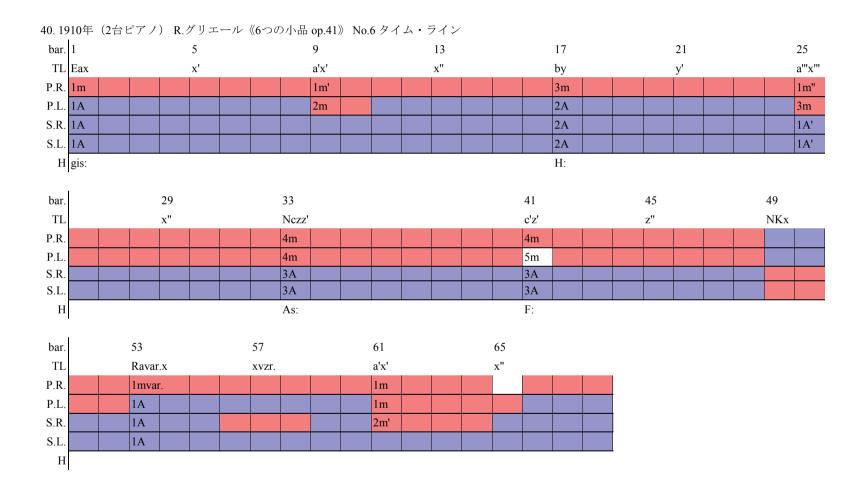
bar. TL			30 xvar.1		
			xvar. i		
P.R.					
P.L. S.R.					
S.R.					
S.L.					
Н					

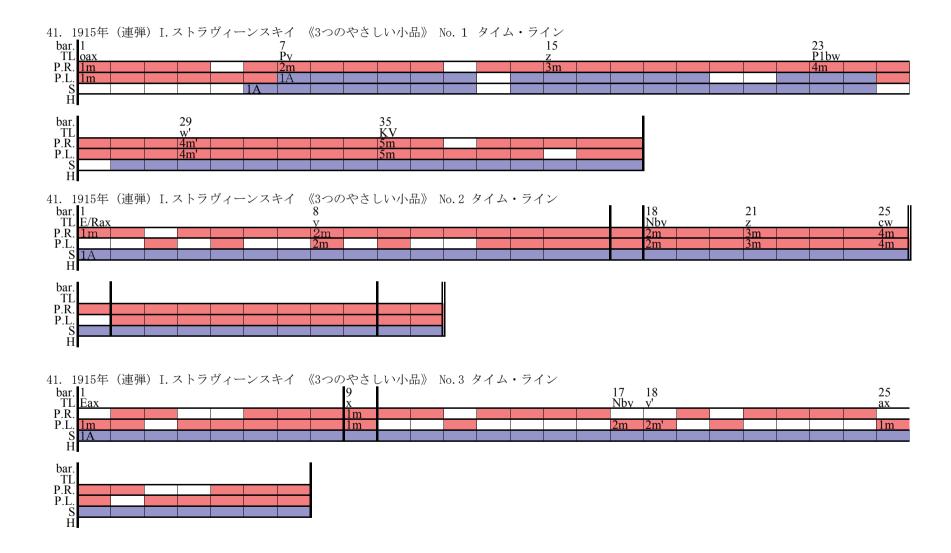
40.1910年(2台ピアノ) R.グリエール《6つの小品 op.41》 No.4 タイム・ライン

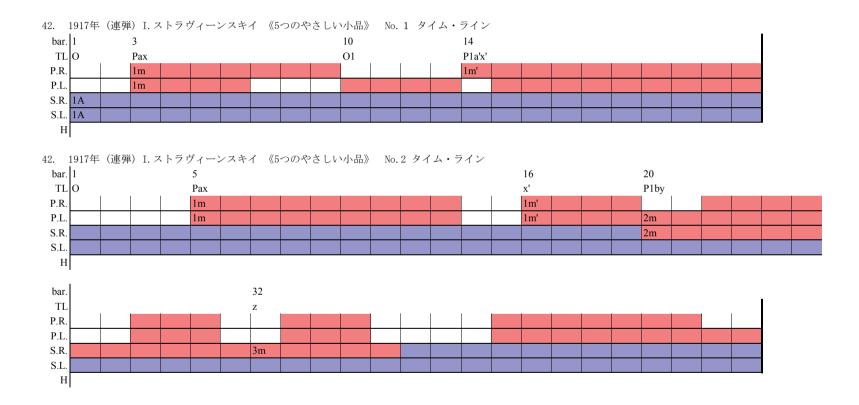
bar.	1	2		6		8				12			16		19				23	
TL	0	Pax		y		z				bw			v		P1ax				У	
P.R.										2m					1m					
P.L.	1A																			
S.R.		1m								2m					1m					
S.L.	1A																			
Н	a:	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•			•	•	•	•		

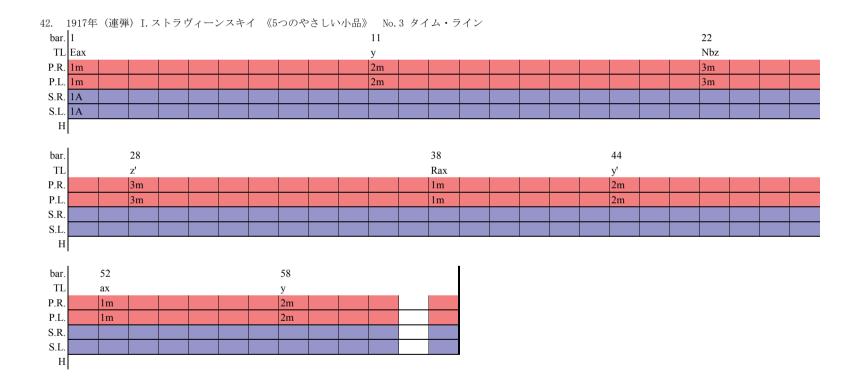


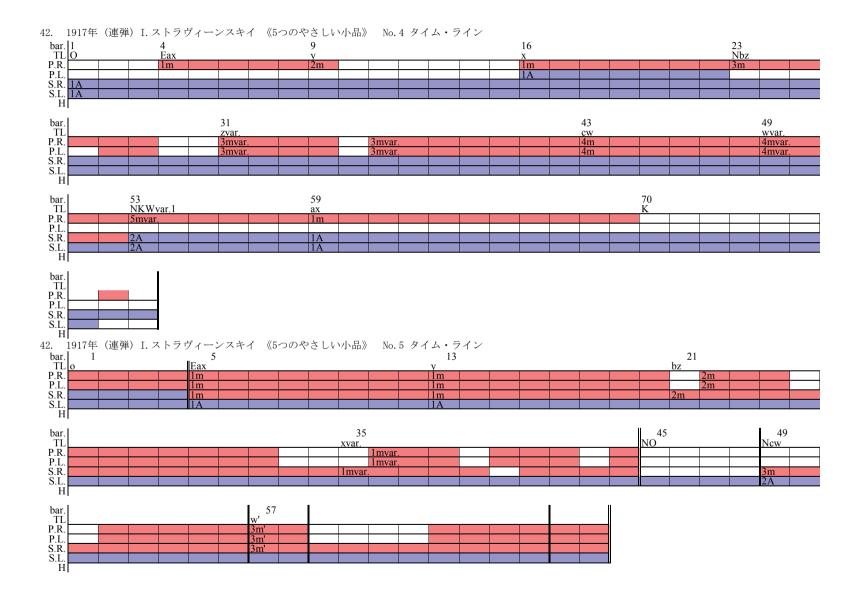












3. グロウス・プロセスシート

#### 1.1829 年(連弾) M.グリーンカ《騎兵隊の速歩》

	ラージ・ディメンション	ミドル・ディメンション及びスモール・ディメンション
No.1	m が中心的な音楽的視点。曲中のクライマックスは中間部に置かれる。	どのセクションも m が中心的な音楽的視点。クライマックスでは r が加わり活発になってい
	クライマックスを迎える際に s のパートの音の密度を高めている。	く。1 つの視点を継続していて変化が小さい。
	音楽的視点の変化は小さく、1 つの視点が曲を支配している。	
No.2	第1曲目と同様にmが中心的な音楽的視点。曲中のクライマックスは中	どのセクションも m が中心的な音楽的視点。クライマックスでは h と r が加わる。1 つの視
	間部に置かれる。クライマックスを迎える際にSのパートの音の密度を	点を継続していて変化が小さい。
	高めている。音楽的視点の変化は小さく、1 つの視点が曲を支配してい	
	<b>వ</b> .	

### 2. 1832 年 (連弾) M.グリーンカ 〈ギャロップ風即興曲〉

ラージ・ディメンション	ミドル・ディメンション及びスモール・ディメンション
mが中心的な音楽的視点。複数の旋律を組み合わせて発展していく。曲中のクラ	どのセクションもmを中心に構成している。mは何度も繰り返され、モティーフが繰り返さ
イマックスは各セクションの終結部分に置かれている。1つの視点が曲を支配し、	れるうちに cresc.効果が生まれ、s は響きの厚みを増していく。中心的な視点である m は継
固定されたままである。	続させながら s の変化を結び付けている。

#### 3. 1834 年(連弾)M.グリーンカ〈ロシアの主題によるカプリッチョ〉

ラージ・ディメンション	ミドル・ディメンション及びスモール・ディメンション
m が中心的な音楽的視点。複数の旋律を対位法的に扱って発展させる。クライ	どのセクションも m を中心に構成している。m の次に r が支配的である。リズムバターンが
マックスは曲の中間と終盤に置かれている。1 つの視点が曲を支配している。	繰り返されるうちに音の密度を高めていく。1 つの音楽的視点が活発になると、ほかの視点と
	結びついてクライマックスを迎える。

# 4.1847-8年(連弾) A.ルビンシテーイン《3 つの性格的小品 op.9》

	ラージ・ディメンション	ミドル・ディメンション及びスモール・ディメンション
No.1	全曲通して m と h が中心的な音楽的視点。この 3 曲中のクライマック	どのセクションも m を中心に構成している。m の次に h が支配的である。h の変化がクライ
	スは、ほとんど差が無く判断しにくいが、各曲にはそれぞれクライマ	マックスに影響する。1 つの視点を継続している。
No.2	ックスが与えられている。m と h の 2 つの視点が曲を支配し、固定さ	どのセクションも m を中心に構成している。m の次に h が支配的である。m が繰り返される
	れたままである。	うちに cresc.効果が生まれ、音の厚みを増していく。音楽的要素の変化はなく、固定されたま
		まだが、クライマックスではほかの視点と結びつくようになる。
No.3		どのセクションも m を中心に構成している。m の次に h と s が支配的である。m が頂点の時
		に s も変化している。複数の視点が同時に作用しクライマックスを迎える。

### 5. 1852 年(連弾)M.グリーンカ〈ポルカ〉

ラージ・ディメンション	ミドル・ディメンション及びスモール・ディメンション
m と r と s が中心的な音楽的視点。特に m と r は密接に結びついている。中	どのセクションも m を中心に構成しており、旋律の変形や、複数の旋律を重ねる手法を用いて
心的な視点が増え、結びつきが強固になっている。	展開していく。各視点はクライマックスに向けて小さなモティーフを反復させて密度を高めて
	いく。各音楽的視点が活発になると、ほかの視点と結びついてクライマックスを迎える。

# 6.1854-8年(連弾) A.ルビンシテーイン《6つの性格的描写 op.50》

	ラージ・ディメンション	ミドル・ディメンション及びスモール・ディメンション	
No.1	6 曲通してのクライマックスは第6曲目に置かれている。垂直 な様式と水平な様式の楽曲が交互に配列されて全体が構成さ	どのセクションも m を中心に構成している。m の次に h が支配的である。h の変化がほかの音楽的視点を刺激し、クライマックスでは 4 つが作用するが、主に 1 つの視点が曲を支配する。	
No.2	れている。それぞれの楽曲を特徴づけている音楽的視点は、 第1曲はm、第2曲はr、第3曲目と第4曲目はmとh、第5 曲目はmとr、第6曲目はsとrである。1つないしは2つの 視点が曲を支配している。	どのセクションも $r$ が中心的な視点。 $r$ は旋律の性格を決定している重要な要素である。 $r$ は $1$ つのリズム系を持続しており、これに $h$ と $s$ が結びついてクライマックスを形成する。 $r$ のモティーフにクライマックスを導く動機が含まれている。	
No.3	4	m と h が中心的な視点が曲を支配している。2 つの視点自体の変化は小さいため s と結びついている。また、強弱、声部交換などを取り入れている。	
No.4			m と $h$ が中心的な視点が曲を支配している。 $r$ は $m$ と結びついている。音楽的視点自体が複雑に書かれており、 $m$ と $r$ と $h$ を合わせて厚い響きを引き出している。またこの $3$ つの視点自体は一度結びつくと終始変化しないので、 $s$ と結びついて強弱や密度を変化させている。
No.5		第3曲と同様に、 $m$ と $h$ が中心的な視点が曲を支配している。ここでは $h$ が複雑な和声進行を持ち、 $2$ つの視点の変化が $s$ と結びついて強弱、声部交換などを取り入れている。	
No.6		第4曲と同様に、 $m$ と $h$ が中心的な視点が曲を支配している。 $r$ は $m$ と結びついている。音楽的視点自体が複雑に書かれており、 $m$ と $r$ と $h$ を合わせて厚い響きを引き出している。またこの $3$ つの視点自体は一度結びつくと終始変化しないので、 $s$ と結びついて強弱や密度を変化させている。	

# 7.1857年(連弾)C.キュイー〈スケルツォ第1番 op.1〉

ラージ・ディメンション	ミドル・ディメンション及びスモール・ディメンション
m が中心的な視点を担うが、曲のクライマックスを導くのは r であ	どのセクションも m が中心的である。m が r や h と結びつくと s も音の密度を増していく。各視点の
る。m と r の結びつきが強く、この 2 つが曲を支配している。クラ	結びつきのうちmとrとhは密接に関係づけられており、さらにこれらにsの変化が加えられている。
イマックスは3部形式のうちのEとRに置かれている。	

# 8.1857年(連弾) C.キュイー〈スケルツォ第2番 op.2〉

ラージ・ディメンション	ミドル・ディメンション及びスモール・ディメンション
m が中心的な視点を担うが、曲のクライマックスを導くのは s であ	どのセクションも m が中心的である。中間部分では h が貢献している。第 1 曲目と同様に、各視点の結
る。sはライマックスに向けて音域を広げ、音の密度を高めている。	びつきのうちmとrとhは密接に関係づけられており、そこにsの変化が加えられている。
クライマックスは3部形式のうちのEとRに置かれている。	

### 9.1860年(連弾) M.P.ムーソルグスキイ《ソナタ ハ長調》より第1楽章

ラージ・ディメンション	ミドル・ディメンション及びスモール・ディメンション
曲中のクライマックスはいくつも置かれており、終始華やかなサウ	どのセクションも m を中心に構成している。m 自体には r が含まれており、また h を伴う。複数の音楽
ンドで書かれているが、最も大きなクライマックスは曲の終結部分	的視点を組み合わせているが、その結びつき方は1つのセクション内を持続している。ただし、m と r
である。中心的な音楽的視点はmで、mに対してhとrが強く結び	と h が結びつくと s が作用しダイナミクスの変化や音の密度を変化させている。音楽的視点の結合が、
つく。sの変化は、ほかの視点と結びついて変化する。	ほかの視点と結びつくようになり、結果的には4つ全ての視点が活発になっていき、クライマックスを
	形成する。

### 10. 1862 年 (連弾) A.ボロディーン〈タランテラ 二長調〉

ラージ・ディメンション	ミドル・ディメンション及びスモール・ディメンション
rが中心的な視点を担う。主要な旋律は活発なリズムに由来している。	r が中心的な視点。8 分音符の連続による軽快な部分と、4 分音符の重厚な部分の対比が見られる。
また、サウンドの変化はダイナミクスの目まぐるしい変更や、プリモ	どちらの場合も伴奏形に保続音を置くことが多い。特に重厚な部分では低音をオクターヴにしてよ
とセコンドによる旋律の掛け合いなどによってもたらされている。	り響きを厚くしており、クライマックスを導いている。m は、同じ音形の繰り返しが多く、繰り返
	しているうちに、少しずつ変化して次のセクションを導いている。

#### 11.1863年(連弾) M.バラーキレフ〈ヴォルガ川にて〉

ラージ・ディメンション	ミドル・ディメンション及びスモール・ディメンション
全体的に平坦な曲であり、クライマックスは小さいが後半に置いてい	mとhが中心的な視点を担う。2つの視点が曲を支配しており、変化は小さい。この2つに変化を
る。各音楽的視点は活発ではなく、また音の密度も低い。	与えるのが s である。音の密度を変化させてクライマックスを導いている。

# 12.1864年(2台ピアノ)A.ルビンシテーイン《幻想曲 ヘ短調 op.73》

	ラージ・ディメンション	ミドル・ディメンション及びスモール・ディメンション
1楽章	3 曲とも垂直的な様式で書かれており、全体的に厚い響きの	クライマックスは冒頭部分と再現部の始めに置かれている。m が中心的な視点を担う。h と r は m
	部分が多い。3 曲全てにクライマックスを置いていることが	に付随しているが m と h の結びつきが強い。この3つの変化は1つのセクションやフレーズの間は
	特徴である。また、各々の音楽的視点は非常に複雑になって	継続している。また音の密度を支配しているsは、常に変化している。
	おり、これがさらに結びつくことで複雑さを極める。こうし	
2 楽章	た音楽的視点の複雑さが曲を難解にしているのであろう。4	中間部にクライマックスを置く。rが中心的な視点を担う。旋律にも伴奏にも影響を与えている。ま
	つの視点の結びつきは頻繁に変化していて落ち着かない。	た、s はセクションを特徴づけており水平的な様式から垂直的に変化させている。m と h と r の結び
		つきが強い。
3 楽章		12 の変奏から成るが、第5曲目にクライマックスを置く。クライマックスに向かって旋律技巧的に
		なる。全曲を通して最も各要素が複雑で、かつ変化が目まぐるしい。

#### 13. 1868-69 年 (連弾) P.I.チャイコーフスキイ《50 のロシア民謡》 (14.の《36 のロシアの民謡》は重複するため省略する。)

ラージ・ディメンション	ミドル・ディメンション及びスモール・ディメンション
50 曲のうちのクライマックスを指摘することは非常に難しい。50 曲	50 曲通して同じ結果が指摘できる。音楽的視点が変化するのは、セクションが変化するのと同時で
が関連性を持って書かれた曲集ではなく、個々の民謡が持つ性格が生	ある。m が中心的な存在であるが、民謡の旋律をほとんど変化させず、h と r と s を変化させてい
かされているからである。各曲のうちクライマックスを持たないもの	る。1 つの曲に貢献する音楽的視点は1 つもしくは2 つで、結合期間も長い。1 つ結びつき方を持
もあるが、クライマックスを持つものはどれも音の密度を高めてい	続している。
る。どの曲も m が中心的な存在である。h と r は m に付随しており、	
クライマックスに向けて結びついていく。	

# 15.1870年(連弾)A.ルビンシテーイン《ソナタ 二長調 op.89》

	ラージ・ディメンション	ミドル・ディメンション及びスモール・ディメンション
全楽章	クライマックスは各曲にそれぞれ置かれている。常に垂直	3 楽章とも m を中心に構成している。どの楽章も冒頭では m も h も単純であるが、展開するにつ
(3 楽章)	的な様式で厚みのある響きである。中心的な音楽的要素は	れて複雑になり、またほかの音楽的視点と結びつくようになる。多くの場合はsと結びつき、音の
	m で、それを h が支えている。また冒頭に提示した m を	密度を増してクライマックスを形成している。1 つのセクションの中に複数のクライマックスを持
	循環させる特徴が見られ、各楽章に分かれているが、単一	ち、常に緊張状態である。特に第1楽章と第3楽章ではクライマックスを持続している時間が非常
	楽章のようにも捉えられる。3つの楽章は同じような特徴	に長い。
	を持っている。	

# 16.1876年(連弾)N.A.リムスキー=コルサコフ、C.キュイー、A.リャードフ、A.ボロディーン、N.シチェルバチョフ共著《変化のない主題によるパラフレーズ集》

ラージ・ディメンション	ミドル・ディメンション及びスモール・ディメンション
m を中心に構成されている。しかし、m 自体には変化がないので、ほか	どの曲も m の次に r が重要になっている。特に曲の性格を決定するために r が貢献している。各
の音楽的視点と結びついてクライマックスを導く。どの曲も複雑な結び	曲のクライマックスは小さく、音の密度は高くないが、その分強弱の変化を極端につけている。
つきはしておらず、1 つないしは 2 つの視点を結びつけている。また、1	また、h はセクションレヴェルでの変化はほとんど無く、フレーズレヴェルでの小さな変化が見
つの結びつき方が継続している。	られた。

#### 17.1878-9年(連弾) N.A.リムスキー=コルサコフ〈ミーシャの主題による変奏曲〉

ラージ・ディメンション	ミドル・ディメンション及びスモール・ディメンション
h が中心的な音楽的視点。音楽的視点の変化は小さく、クライマックスが	m は全く変化が無く、どのセクションも h が中心的な音楽的視点を担う。h は、フレーズごとに和
無い。新しいセクションごとに s を変化させている。h と s が結びついて	声を細かく変化させている。s の変化は h に比べると小さいが、h の変化を助けている。1 つの音楽
いる。	的視点が支配し、固定されたままである。

# 18.1879年(2台ピアノ)A.ルビンシテーイン《着飾った舞踏会 op.103》

ラージ・ディメンション	ミドル・ディメンション及びスモール・ディメンション
20 曲それぞれにクライマックスを持つ。どの曲のクライマックスも同じよ	どの曲も垂直的な様式で書かれたものが多い。そのため、m に対して h は従属的である。またリズ
うな印象を受けるため比較しにくいが、最も大きなクライマックスを形成	ムは m と h に結びつき、曲の性格を決定している。m 自体は変化が無いものが多く、たいていの
するものは 1114 小節をもつ第 20 曲であろう。特徴的なタイトルから異国	場合めまぐるしい強弱の変化やアクセント、またフォルテ以上の音量が伴って表情がつけられてい
情緒は伺えるが、その音楽からはさほどエキゾチシズムは感じられない。	る。m とrとhの3つの結びつきは強く互いに作用し合うが、s は単独で変化しクライマックスに
20 曲とも m と h が中心的な要素である。音楽的視点を結びつけるという	作用する場合がある。
よりは、音の密度の変化のみでクライマックスを形成している。	

### 19. 1885 年(連弾) N.アルツィブーシェフ、I.ヴィートル、A.リャードフ、N.ソコロフ、A.グラズノフ、N.A.リムスキー=コルサコフ共作《冗談カドリーユ》

ラージ・ディメンション	ミドル・ディメンション及びスモール・ディメンション
6曲中のクライマックスは第6曲に置かれている。どの曲もクライ	6 曲とも同じ結果が見られた。m は中心的な視点であるが終始変化しない。1 つの結びつき方が終始継続
マックスを曲の終結部分に置いている。最も中心的な音楽的視点は	しているため、曲想の変化は少ない。また、このほかの特徴としては、強弱が細かく指示されていること、
m であり、m に結びついているのは h と r である。	密度の変化が小さいことが指摘できる。

# 20.1888年(2台ピアノ)A.アレーンスキイ《組曲第1番 op.15》

	ラージ・ディメンション	ミドル・ディメンション及びスモール・ディメンション
N- 1	3曲中のクライマックスは第3曲に置かれる。3曲とも	m が中心的な視点を担う。セクションが変わる際に h も変化している。2 つの視点のほかには s が貢献し
No.1	m が中心的な音楽的視点であるが変化しないので、h と	ており、旋律と伴奏の役割の交替、掛け合いなどを盛り込んでサウンドに変化をもたらしている。
N- 2	rとsが大きな変化をもたらす。4つの視点全てが用いら	m と h が中心的な視点を担う。セクションが変わる際には h が変化している。2 つの音楽的視点が曲を支
No.2	れており、複数の視点の結びつきがみられるが、1 つの	配している。
	結びつき方が持続しているため、曲想の変化は小さい。	m と h に加え r も中心的な視点を担う。この 3 つの視点の結びつき方は終始変化しないが、テンポや音の
No.3		密度を変化させて曲想を変化させている。この第3曲のクライマックスが組曲全体のクライマックスとし
		て位置づけられている。

### 21.1891年(2台ピアノ) S.ラフマーニノフ〈ロシア狂詩曲〉

ラージ・ディメンション		ミドル・ディメンション及びスモール・ディメンション
クライマックスは曲の終結部に置かれてい	いる。4つの音楽的視点全てが複	m はこの曲の中心的な存在である。主要な旋律は終始変化しないが、この m と一緒になって変
雑に結びついている。その結びついてい	る期間も短く、目まぐるしく変	化をもたらすのが $\mathbf{h}$ と $\mathbf{r}$ と $\mathbf{s}$ である。冒頭では単純であった各視点は、曲が進むにつれて複雑
化する。		になっていく。4つの視点全て組み合わされて、変化していく。

# 22. 1892 年(2 台ピアノ)A.アレーンスキイ《組曲第2番「シルエット」op.23》

	ラージ・ディメンション	ミドル・ディメンション及びスモール・ディメンション
No.1	全曲通してのクライマックスは第5曲に置かれる。第1曲と第5曲が 密度の高いsを形成し、対照的に第2、3、4曲は密度が高くない。各 曲を特徴づける音楽的視点は、第1曲はmとh、第2曲はs、第3曲	使用されている m に変化がないので提示する音域に変化をつけている。また、次第に 声部を増やして s に厚みを持たせている。h の変化は見られない。
No.2	はrとh、第4曲はs、第5曲はrである。各中心的な視点はクライマックスを迎える際にほかの音楽的視点と結びつきを強める。1つの結	複数の m を重ねて層を形成し、s を豊かにしている。その配置方法によって音の密度に変化をつけている。
No.3	びつきが1曲を通して継続している。	m 自体が非常に幅広い音域を持ち、r に特徴がある。この旋律を生かしてクライマックスを導いている。このほか、h は反復進行を用いてほかの視点への結びつきを強めている
No.4		セクションで強弱が大きく異なることが特徴。また 2 人の奏者の間の声部交換が頻繁 に見られる。中間部分では音域が最も広がり、クライマックスを迎える。
No.5		セクションが変わる度に m と h と r が変化する。これまでとは違い複数の音楽的視点が一斉にクライマックスに貢献する。3 つの視点の結びつきが強く、終始活発な印象を受ける。

# 23.1893年(2台ピアノ)S.ラフマーニノフ《組曲第1番 op.5》

	ラージ・ディメンション	ミドル・ディメンション及びスモール・ディメンション
No 1	4 曲のうちクライマックスは第4曲に置かれる。第1曲、第2曲は	m が中心的な視点を担う。セクションが変わる度に旋律を取り巻くピアニスティックなパッ
No.1	m と $h$ 、第 $3$ 曲は $h$ と $s$ 、第 $4$ 曲は $r$ と $s$ が中心的な視点を担う。	セージが変化していく。hもsも曲が進むにつれて複雑になっていく。
No 2	また4曲とも密度が高くsの変化がクライマックスに大きく影響し	m が中心的な視点を担う。旋律自体の変化に加え、h の変化が次のセクションへと導いていく。
No.2	ている。	この2つの視点が支配しているが、s は音の密度を変化させてクライマックスを導く。
No.3		m が中心的な視点を担う。旋律のモティーフを何度も繰り返しており、繰り返しているうち
N0.5		に h が変化し、新しいセクションを導いている。 s は密度の変化に貢献している。
No.4		m と $h$ と $r$ が結びつけられ、共に活発な状態である。これら $3$ つの視点が支配するが、終始
No.4		変化しないので、sが密度を高めてクライマックスを形成する。

### 24.1893年 (2 台ピアノ) A.N.スクリャービン 〈幻想曲 遺作〉

ラージ・ディメンション	ミドル・ディメンション及びスモール・ディメンション
m と h が支配しているが、特に h は非常に複雑である。r はクライマック	m はこの曲の中心的な存在であり、終始変化しない。h は複雑でさらに s も変化に貢献してい
スを引き出す際に貢献し、s は m と h の変化に結びついて響きに変化をも	る。声部交換や掛け合いが頻繁にあり、またこのほかにはダイナミクスの変化が見られた。
たらしている。4 つの視点全てが活発な時にクライマックスを迎えるが、	各視点が非常に複雑になっている上、セクション内でも目まぐるしく結びつき方が変化する
曲中のいたる所にクライマックスが見られる。その中でも終結部のクライ	ので、緊張状態が持続している。
マックスが最も密度が高い。	

# 25.1894年(2台ピアノ) A.アレーンスキイ《組曲第3番 「変奏曲」 op.33》

	ラージ・ディメンション	ミドル・ディメンション及びスモール・ディメンション
No.1	10 曲を通して第 10 曲目にクライマックスが置かれる。m と h を中心	m と h が中心的な視点を担う。
No.2	とするものばかりである。特にこのほかの視点を特徴とする曲は、第 6曲のh、第7曲と第10曲のrである。各曲では1つの音楽的視点の	第1曲目と同様に m と h が中心的な視点を担う。m は多少リズミックになったが、変化はまだ小さい。
No.3	一 結びつき方を継続しており、単純である。	mの性格は終始変わらず器楽的である。主に第1奏者が旋律、第2奏者が伴奏を担うが声部 交換があり、sの変化が見られる。
No.4		セクションが変わる際に、音域を変更して s に変化をもたらしている。
No.5		h とrの変化はなく、極めてピアニスティックな音階や分散和音の組み合わせでできている。
No.6		m は終始変化しない。h はセクションが変わる際に調性を変更している。r は中間部分のみ非 リズミックである。
No.7		主に第1奏者が旋律、第2奏者が伴奏を担う。声部交換が頻繁に見られ、第1奏者と第2奏者の掛け合いが多い。中間部分では複数の旋律を重ねてmを複雑にしている。
No.8		m と r の変化は小さいが、h の変化は頻繁に行われている。
No.9		どのセクションでも各視点が穏やかなため、曲調は落ち着いている。
No.10		クライマックスに向けて各要素が活発になるが、rとmの結びつきが強い。第2奏者がリズムを主に担う。

26.1894 年(連弾)A.アレーンスキイ《子供のための 6 つの小品 op.34》

	ラージ・ディメンション	ミドル・ディメンション及びスモール・ディメンション
No.1	6曲のうちのクライマックスは第6曲に置かれる。各曲の中心的な音	民謡風の m が中心的な視点。m 自体の変化は小さいので、h と s で変化をつけている。
No.2	楽的視点は、第1曲目と第4曲目は m、第2曲目は r と s、第3曲目 と第5曲目は h と s、第6曲目は s である。 子供のために書かれているため、どの視点も単純であり、複雑に結び	m は鳩の鳴き声を模倣している。m に r が含まれている。m 自体には変化は無いので、カッコーの泣き声を様々な音域で提示して s に変化を持たせている。
No.3	つくものは無い。	コラール風のサウンドを持つ。垂直的な部分と水平的な部分を変化させている。mに対して単純な和声に始まり、次第に複雑になっていく。hの変化と共に伴奏型も変更している。
No.4		終結部ではシンコペーションの連続を保続音に加えて躍動感を与えている。 西欧風のメロディーが用いられている。mの変化は小さく、セコンドに与えられた h も単 純な和声のため、平坦に感じられる。中間部分では突如セコンドのユニゾンによる旋律が 現れ、クライマックスを築く。
No.5		垂直的な様式で書かれているが、各パートに与えられた音価が異なっており、プリモは8分音符主体、セコンドは16分音符のみで書かれている。この違いがサウンドを複雑にしている。
No.6		6曲中唯一のフーガで書かれている。水平的な様式で書かれているが、カデンツ部分では 必ず垂直的な様式になって厚い和音を響かせてセクションを区切っている。

### 27. 1894 年 (連弾) S.ラフマーニノフ〈ロマンス ト長調〉

ラージ・ディメンション	ミドル・ディメンション及びスモール・ディメンション
m と $h$ が中心的な視点を担う。クライマックスでは $s$ が貢献し、音域の拡大	m と h の変化が小さいため、曲想も終始変化しない。変化するのは s である。中心的な音
や密度を高めていく。2つの音楽的視点が支配している。	楽的視点の結びつきは固定したままで、二次的な視点のみ変化させている。

# 28. 1894 年(連弾)S.ラフマーニノフ《6 つの小品 op.11》

	ラージ・ディメンション	ミドル・ディメンション及びスモール・ディメンション
No.1	6曲を通して第6曲にクライマックスが置かれる。各曲を特徴づける音	m を中心にし、その旋律の重ね方によって音の密度を変化させている。冒頭は単声部で
	楽的視点は、第1曲はm、第2曲はr、第3曲はmとs、第4曲はm、	あった旋律は、中間部分で音域と声部の数を広げてクライマックスを形成する。
No.2	第5曲はmとh、第6曲はsである。この中で特に音の密度が高いもの	rはmと結びつき、旋律の性格を決定付ける重要な役割を担っている。rのリズム・パタ
	は第2曲、第4曲、第6曲で、これらはテンポが速いので変化がより大	ーンは終始変化しないが、クライマックスを形成する場合はリズムの一部を反復させて
	きく感じる。1つ1つの曲の変化もあるが、組曲としての構成も非常に	いる。
No.3	練られている。	m は民謡風な旋律で、終始変化せず何度も現れる。m 自体変化はしないので、h が変化
		して s と結びつきクライマックスを形成する。
No.4		mが中心的な音楽的視点を担うが、h も s も単純なので、テンポの変化が貢献している。
		テンポが速い部分にクライマックスを置いている。
No.5		mと h が中心的な視点を担うが、特に h の変化が大きい。h はフレーズごとに変化して
		おり、非常に小さな変化を繰り返し、クライマックスに貢献している。
No.6		m をカノン風に処理して音の密度を高めている。旋律の一部のモティーフを執拗に繰り
		返し、エネルギーを持続している。最も厚い響きを持つ。

#### 29. 1898 年(連弾) M.バラーキレフ《30 のロシア民謡》(30. 1898 年(連弾) M.バラーキレフ《7 つ伝説》は重複するため省略する。)

ラージ・ディメンション	ミドル・ディメンション及びスモール・ディメンション
民謡の旋律が重んじられているため m が中心的な存在である。m に対して単純な	どの曲も主にプリモが旋律、セコンドが伴奏を担う。役割は固定されたものが多いが、
h が付けられている。全体的にリズミックな性格の作品は少なく r が m に貢献す	時折セコンドは対旋律を与えられ、主たるメロディーに対して対位法的に配置されて
ることは少ない。また30曲のうち短調でかかれたものが多いことも特徴。サウン	いる。使用されている音域は広くなく、1 曲の中で h や s の変化が小さい。
ドは使用されている音域が狭いせいか、厚い響きをもつ作品が無い。	

# 31.1901年(2台ピアノ)S.ラフマーニノフ《組曲第2番 op.17》

	ラージ・ディメンション	ミドル・ディメンション及びスモール・ディメンション
NI - 1	第1曲目は $s$ 、第2曲は $m$ と $r$ 、第3曲は $m$ と $h$ 、第4曲は $r$ と $s$ が中	終始垂直的な様式を終始貫くが、セクションが変わる度にその響きの厚さを変化させてい
No.1	心的な視点を担う。2人の奏者の関係には様々なパターンがあり、第	る。
	1奏者が優位な場合、第2奏者が優位な場合、2人が対等に扱われて	性格の異なる複数の旋律で構成されていている。セクションが変わる際に、m も変わる。
N- 2	いる場合がある。4つの曲を通してのクライマックスは第4曲に置か	mにはリズミックなものと非リズミックなものがある。中間部分でリズムを伴わない旋律
No.2	れる。	が現れ、ここでは h が強められている。2 人の奏者に様々なパッセージを与え、複雑なサ
		ウンドを形成している。
		声楽的な性格の m を複雑な進行の h が伴奏する。主要な旋律は第2奏者が提示する。最
No.3		初は1つの旋律で始まり、次第に声部を増やしていきクライマックスを導く。またクライ
		マックスではrが貢献している。
		タランテラの急速な曲調に乗って活発な性格のリズムが終始流れている。垂直的な様式で
No.4		ありながら、水平的な様式の部分もあり、クライマックスの度に垂直的な様式に音をまと
		めて厚い響きを形成している。サウンドを自由自在に変化させるために、ピアニスティッ
		クな技巧を含むパッセージを利用している。第1奏者と第2奏者は対等に扱われている。

# 32.1902年(2台ピアノ) A.アレーンスキイ《組曲第4番 op.62》

	ラージ・ディメンション	ミドル・ディメンション及びスモール・ディメンション
	4曲を通して第4曲にクライマックスが置かれる。中心的な視点はm	曲のEとRの部分は重厚な和音が伴奏に置かれているが、Nの部分では和音が薄くなり、
No.1	であるが、第2曲目以外 h との結びつきが非常に強い。またどの曲も、	また分散和音が用いられている。主に第 1 奏者が旋律 (m) 、第 2 奏者が伴奏 (h) を担
	垂直的な様式で書かれている部分に幅広い音域と厚い和音を置いて	っている。
NI- 2	いる。	用いられる主題は 1 つで m に変化はないが、その分装飾的なパッセージを加えていき、
No.2		サウンドに変化をもたらしている。
No.3		分散和音で書かれたパッセージは h と結びついている。h を担当する部分は 2 人の奏者の
		音を混ぜて1つのサウンドを作り出している。2人の奏者が対等に扱われている。
No.4		転調が頻繁に行われ、h が貢献している。終結部分で新しく r の視点が加えられる。s は
		常に活発な状態であり主に s が曲の印象を決定している。また、第1奏者と第2奏者が競
		い合うように書かれている。

# 33.1903年(連弾)A.アレーンスキイ《12の小品 op.66》

	ラージ・ディメンション	ミドル・ディメンション及びスモール・ディメンション
No.1	12 曲中のクライマックスは第8曲と第12曲に置かれる。各曲を	s が m に貢献している。例えば、旋律の対位法的な処理や、ダイナミクスの変化が挙げられる。
	構成する音楽的視点は異なっており変化に富んでいるが、クライ	中心となる m は変化しないが、s の変化が大きい。また中間部では h がわずかに変化している。
No.2	マックスは非常に小さい。しかし、1つ1つの曲の変化は小さい	rがmに貢献しており、旋律の性格を決定している。リズム・パターンは変化しない。2つの視
	が、12 曲全体を通してみると各曲の特徴が生かされている。どの	点が終始支配し、固定されたままである。
No.3	曲も基本的にはmとhが曲を支配している視点であり、それにr	m と r が結びついている。この 2 つに貢献するのは s であり、強弱の変化が頻繁に行われる。
	と s が加わるとより一層密度が高められている。	複数の視点が曲を支配する。
No.4		mが中心的な視点を担い、hがこれに付随する。2つの視点が終始支配し固定されたままである。
No.5		mが中心的な視点だが、終始変化しない。その代わり hの変化が大きい。
No.6		h が中心的な視点を担う。また m は r と結びついている。各視点は結びつきが固定されたまま
		である。
No.7		m と h が中心的な視点を担う。2 つの視点が終始支配し、これにダイナミクスの変化が加わる。
No.8		4つ全ての視点が変化している。mにrとhが付随しており、セクションごとにsが大きく変化
		している。複数の視点が同時に変化している。
No.9		全ての視点の変化が小さい。m と h が中心的な視点であるが、これにダイナミクスの変化が加
		わる。
No.10		4 つ全ての視点が変化している。mにrとhが付随しており、セクションごとにsが大きく変化
		している。複数の視点が同時に変化している。
No.11		4 つ全ての視点が変化している。中でも m と h が結びついている。結びつきを頻繁に変化させ
		ている。テンポの変化も貢献している。
No.12		mとrが結びついている。強弱の変化が頻繁に行われ、密度が高い。

34.1904年 (2 台ピアノ) A.アレーンスキイ 《カノン形式による組曲 op.65》

	ラージ・ディメンション	ミドル・ディメンション及びスモール・ディメンション
No.1	どの曲も m が中心的な音楽的視点を担う。子供のための作品であり、	特徴的なリズムではないが、絶えず流れている 8 分の音符が躍動感を与えている。h は終始変化し
	各視点の役割がはっきりと理解でき、また各視点の結びつき方も単	ない。旋律の音域が変わることで s に変化が現れている。
No.2	純である。1曲の中で1つないしは2つの視点が関係しあい、固定さ	オクターヴの跳躍を含む旋律線で、終始同じリズムを用いている。そのためフレーズごとに h を細
	れている。また、m を 2 人の奏者でカノン風に扱っており、s 自体に	かく変化させている。また、4 手の配置は固定されたままで、音色の変化は少ない。
No.3	特徴がある。4手の配置の変化が m に貢献している。	mはフレーズやモティーフを細かく変化させていく。また、旋律に伴うリズムは同じ形をくり返し
		ている。ハーモニーの変化はセクションレヴェルで確認することができ、遠隔調を経由して主調に
		戻ってくる。
No.4		m は冒頭で提示したモティーフを変化させて展開していく。1 つの素材を変形している。中間部で
		はhの変化は活発になり、またダイナミクスが細かく指示されている。
No.5		旋律の配置方法は P.R.+S.L.という珍しい組み合わせからなる。両外声に旋律が置かれているため
		非常によく響く。旋律のrは終始変化しないため、メロディーを構成する音程を変化させている。
No.6		滑らかで単純な旋律を 8 分音符の伴奏型が支えている。S.L.の長い音の上に S.R.の分散和音を重ね
		て、伴奏の響きに広がりを与えている。クライマックスでは借用和音が用いられている。
No.7		絶えず流れている8分の音符のメロディーが全体に躍動感を与えている。h は大きな変化はないが、
		中間部分で転調している。旋律の音域が変わることで s に変化が現れている。
No.8		伴奏のシンコペーションが活気ある表情を醸し出しているが、中間部分でそのリズムを変更するこ
		とで全体の変化を与えている。メロディーは全曲中で最も幅広い音域から構成されている。ハーモニーは中間部分の転調にのみ貢献している。

35.1905 年(連弾)C.キュイー《5 指のための 10 の小品 op.74》

	ラージ・ディメンション	ミドル・ディメンション及びスモール・ディメンション
No.1	どの曲も音楽的視点の変化が小さく、クライマ	どのセクションも m と h が中心的な音楽的視点を担う。加えて、ダイナミクスの変化がこれら 2 つの音楽的
	ックスが明確に分かるものは第5曲と第10曲	視点に貢献している。音楽的視点の結びつき方は終始変化しない。
No.2	である。特に第 10 曲は音の密度が最も厚く書	第1曲目と同様に、どのセクションも m と h が中心的な音楽的視点を担う。加えて、ダイナミクスの変化が
	かれている。どの曲も子供が演奏する旋律に焦	これら2つの音楽的視点に変化を与えている。音楽的視点の結びつき方は終始変化しない。
No.3	点を当てている。m は中心的な視点であるが変	1つの旋律を終始繰り返している。クライマックスは無い。1つの視点が曲を支配している。
No.4	化は小さい。しかし、そのほかの視点が変化し	第1曲目と同様に、どのセクションも m と h が中心的な音楽的視点を担う。加えて、ダイナミクスの変化が
	ていくことで各曲の特徴を出している。各曲に	これら2つの音楽的視点に変化を与えている。音楽的視点の結びつき方は終始変化しない。
No.5	おいてm以外に曲に貢献している視点はhであ	冒頭は m が中心的な視点であったが、新しいセクションになると m に加えて r が貢献する。1 つの曲の中で
	る。少ない音楽的視点から成り立っており、ま	中心となる視点が変化した。
	たその結びつきも固定されている。	
No.6		s が最も変化している音楽的視点。m は同じままで垂直的な様式から水平的な様式に変化させている。
No.7		s が最も変化している音楽的視点。m は同じままでダイナミクスを変化させている。クライマックスでは垂直
		的な様式に変化させている。1つの視点が曲を支配している。
No.8		どのセクションも m と h が中心的な音楽的視点を担う。2 つの視点の結びつき方は終始変化しない。
No.9	7	s が最も変化している音楽的視点。m は同じままで変化せず、伴奏の密度だけを変化させてクライマックスを
		形成している。
No.10	1	mが中心的な視点を担うがrが含まれている。クライマックスではsの変化も加わっている。1つの曲の中で
		複数の視点が結びついた。

#### 36. 1906 年(連弾) S.ラフマーニノフ〈イタリアン・ポルカ〉

ラージ・ディメンション	ミドル・ディメンション及びスモール・ディメンション
クライマックスは曲の終結部分に置かれる。全ての視点に特徴があり、	冒頭は m が中心的な視点である。m には r が含まれている。曲が進むにつれて h と s が変化していき、
4 つが結びついている。	音の密度が高められる。用いられる音楽的視点は全てだが、曲の前半と後半で結びつき方が変化する。

# 37.1907年(2台ピアノ)C.キュイー《3つの小品 op.69》

	ラージ・ディメンション	ミドル・ディメンション及びスモール・ディメンション
No.1	各曲のクライマックスは3部形式のEとRの部分に置かれている。密集した和音の厚みの垂直的な様式による。主にメロディーに対するセコンドの伴奏型に厚い	m を中心に構成している。また、 $m$ に伴う $h$ が次に支配的である。 $m$ が繰り返される中に cresc.効果が生まれ、 $s$ に結びつく。ここでは $s$ は $4$ 手の配置を変化させ、 $4$ 手同時打鍵によるユニゾンを用いておとの密度を増している。
No.2 No.3	サウンドを置いている。第1曲と第3曲の密度が高く、 全体のクライマックスは第3曲におかれている。 3曲とも重要な音楽的要素はmであり、これを中心と してそのほかの視点が結びついて作用する。	m と h が支配的だが、音楽的要素変化はなく固定されたまま変化が小さい。メロディーの頂点と伴奏型のサウンドが活発な場合は、強弱はフォルテと結びついている。 h の推移は曲の調性の変化に貢献して、クライマックスを引き出す。また m には半音階的な進行が多く含まれている。h が様々な視点に働きかけて作用している。

38.1909 年(連弾)R.グリエール《12 の小品 op.48》No.1~No.6

	ラージ・ディメンション	ミドル・ディメンション及びスモール・ディメンション
No.1	各曲を観察すると、曲中のクライマックスは小さく、感じられ	垂直的な様式だが、音の密度は低い。プリモが旋律、セコンドが伴奏を担う。強弱の変化が激しい。
	ない。しかし、12曲集められた時にそれぞれの曲の性格の違い	調の変化は主調のままだが、半音階的な進行を含んだり、一時的に dis-moll に転調する。メロディ
	から変化を感じることができる。クライマックスは第3、4、5	ーは冒頭に提示されたものをモティーフにして変形して展開していく。h が中心的な視点。
No.2	曲目と第9、10、11 曲目に置かれている。1 曲の中で音楽的視	垂直的な様式だが、音の密度は低い。プリモが旋律、セコンドが伴奏を担うが声部交換が多い。強
	点の結びつき方が変化せず、固定されたままである。	弱の変化は小さい。調性は基本的には主調のままであるが、中間部分では反復進行を用いて転調を
		繰り返している。メロディーは6度に跳躍する音程を含み、広い音域から成り立つ。
No.3		水平的な様式。音の密度が終わりに向けて次第に高くなり、ダイナミクスも増していく。プリモが
		旋律、セコンドが伴奏を担うが、時々セコンドがプリモの旋律を模倣する。調は変化しないが、半
		音階的な進行が多い。2+3の5拍子のリズムが特徴的。mとhが中心的な音楽的視点。
No.4		垂直的な様式。中間部分が音の密度が高く、クライマックスを迎える。強弱は常に mf か f で構成さ
		れている。h は中間部分では反復進行を用い頻繁に転調している。m は順次進行で上行する旋律線
		を持つ。m と h が中心的な音楽的視点。
No.5		垂直的な様式だが、伴奏形の密度が薄いので重々しくない。曲が進むにつれて密度が高くなりダイ
		ナミクスも増していく。プリモは旋律、セコンドは伴奏と対旋律を担う。B-dur に始まり中間部分で
		Ges-dur に転調する。m は全曲を通して最も活発な性格。半音階的な旋律を持つ。m と r が中心的な
		視点を担う。
No.6		水平的な様式。非常に薄い層の上にリズミックな旋律を配置している。強弱、調性の変化は無い。
		m と r が中心的な視点。

# 38.1909年(連弾)R.グリエール《12の小品 op.48》No.7~No.12

	ラージ・ディメンション	ミドル・ディメンション及びスモール・ディメンション
No.7	※ラージ・ディメンションは pp.256 に掲載。	水平的な様式で非常に密度が低い。同じフレーズで 2 つのセクションから成るが、強弱で変化をつ
		けている。C-dur で書かれているが、所々調性から外れた音が用いられている。m と h が中心的な視
		点。
No.8		垂直的な様式だが、伴奏形はシンコペーションの分散和音でできている。調性は主調のままである
		が、旋律と伴奏に半音階的な非和声音が多く含まれている。m とrが中心的な視点。
No.9		垂直的な様式。セコンドに置かれた同じリズム・パターンの和音の連続が響きを厚くしている。旋
		律は跳躍を含む躍動的なメロディー。セクションが変わる際に変化する。ダイナミクスは p から始
		まり次第に大きくなっていく。mとsとhが貢献しており、全曲中通して視点が多い。
No.10		水平的な様式。プリモとセコンドの両者が対等に扱われている。曲が進むにつれて密度が高められ
		ていく。m には上行する跳躍と下降する順次進行が含まれており、m 自体が特徴的な旋律線をもっ
		ている。h の変化は無い。m が中心的な音楽的視点。
No.11		垂直的な様式。プリモの左手も伴奏を担う時がある。ダイナミクスは pp から f と最も幅広い。主調
		は As-dur だが、中間部は E-dur に転調する。m は性格が対照的な 2 つの旋律を持ち、r はセクション
		の変化に合わせて変わり、中間部に穏やかになる。m と s と r が中心的。
No.12		リズムを伴った保続音が最初から最後まで鳴り響いている。この上に異国情緒溢れる半音階的なメ
		ロディーが重ねられている。a-moll で書かれているが、変化音が非常に多く、調性が確定しない。
		プリモの右手と左手が対話しているように書かれており、1人で声部交換している。強弱は p 中心。
		rとhとmが中心的な音楽的視点。

#### 39.1909年(連弾) M.バラーキレフ《組曲》

	ラージ・ディメンション	ミドル・ディメンション及びスモール・ディメンション
	第1曲と第3曲が厚い響きを持っているが、3曲のうちのクライマッ	第1曲で最も重要な視点はrであり、セクションが変わっても変化せず終始持続してい
No.1	クスは第3曲に置かれている。どの曲も、中心的な視点は m である。	る。連続するrに乗って m と h が変化していく。変化する視点と変化しない視点が併せ
	旋律に対して $r$ や $h$ が付随し、さらに $s$ が変化をもたらしている。 $4$	られている。s は強弱にのみ貢献している。
	つの視点が結びついている。	mが中心的な視点。冒頭に提示される主要な旋律のほか複数の旋律が現れて組み合わさ
No.2		れる。1 つの視点が支配し、曲の進行とともに複雑になっていく
No.3		第1曲と同様に、最も重要な視点はrであり、セクションが変わっても変化せず終始持
		続している。連続する $r$ に乗って $m$ と $h$ が変化していく。また変化は次第に大きくなり
		密度が高められていく。

# 40.1910年(2台ピアノ)R.グリエール《6つの小品 op.41》

	ラージ・ディメンション	ミドル・ディメンション及びスモール・ディメンション
No.1	基本的に垂直的な様式で成り立っている。伴奏形を変化させて音の密度を変えている。6曲中5曲が短調で構成される。mは哀愁を帯びた性格のものが多い。どの曲もクライマックスが小さく、6曲の中で比較する	密度は低く、平坦な音楽。強弱の変化も小さい。旋律と伴奏の役割を 2 人で交互に担い、旋律の受け渡しが多い。m に対して声部交換による s の効果が貢献している。  第1曲目と同様に密度は低く、平坦な音楽。強弱の変化も小さい。中間部分は反復進行により h は転調を繰り返す。m に対して、声部交換による s の効果が貢献している。
No.3	ことは難しいが、あえて言えば密度の高い第3曲目であろう。各曲を最も特徴づけている音楽的視点は第1、2、3曲はm、第4曲はr、第5曲はmとr、第6曲は	各パートの右手が旋律を担う。m はオクターヴで配置しているため、豊かな響きを持つ。また、4 手同時に奏される和音により密度が一層高められ、クライマックスを導く。
No.4	m とhである。各曲の中では、音楽的視点の結びつき 方がほとんど変化しない。	唯一水平的な様式。音の密度は高くない。各パートの右手が旋律、左手が旋律を持つ。各パートの左手がオクターヴのユニゾンになっており、響きの柱になっている。曲は終始 a-moll のままで h の変化はない。中心的な視点である r は m と結びつき、この曲の性格を決定している。
No.5		m が中心的な視点であるが、旋律を配置する方法に工夫が見られる。例えば、2 人で旋律を交換する場合、両パートの右手が旋律、左手が伴奏を担う場合など、配置方法を変えることで、m に変化をもたらしている。h は中間部分で B-dur から平行調の g-moll に転調する。r は m か h に付随しており、ほかの視点と一緒になる傾向がある。
No.6		中間部分で密度が高くなり、転調を伴ってクライマックスを迎える。主調は gis-moll で、その後 As-dur → F-dur → D-dur を経由して主調へ回帰する。 m は性格の異なる 2 つの旋律が曲を支配している。付点のリズムを多用しており、r は m に付随している。

# 41.1915年(連弾) I.ストラヴィーンスキイ《3 つのやさしい小品》

	ラージ・ディメンション	ミドル・ディメンション及びスモール・ディメンション
No.1	プリモが旋律、セコンドが伴奏を担当し、終始役割が変わらない。	R はセクションごとに変化していく。r は m と結びついて作用している。旋律を持つプ
	第1曲目はr、第2曲目はh、第3曲目はmが中心的な視点を担って	リモの音の密度が高いところでクライマックスを迎えている。
	いる。また、第1曲に全体のクライマックスを置いている。その場	h は冒頭部分では和声的に書かれているが、次第に和声から外れた音を含むようになっ
No.2	合、プリモの音域が高い時や複雑なリズムを伴っている時にクライ	ていく。伴奏のハーモニーは終始 $I$ - $V$ - $I$ を繰り返していて変化が無い。 $m$ は非常に装
	マックスを形成する。どの曲も音域が非常に狭い。	飾的で、その装飾が繰り返されるうちにクライマックスを形成する。
No.3		m はフレーズの繰り返しでできている。冒頭で提示した旋律のモティーフを利用して新
		しいセクションを構成していく。

### 42. 1917 年 (連弾) I.ストラヴィーンスキイ《5 つのやさしい小品》

	ラージ・ディメンション	ミドル・ディメンション及びスモール・ディメンション
No.1	プリモが旋律、セコンドが伴奏を担い、全曲通して役割は固定され	水平的に音を重ね、音楽に抑揚が無い。どの音楽的視点も変化が小さい.
	ている。第2曲目と第5曲目にクライマックスが置かれている。第1	非常に複雑なリズムを持つ。セクションが変化する度にリズム・パターンが変化する。
No.2	曲目は m、第2曲目と第3曲目は m と r、第4曲目 r と h、第5曲目	旋律の変化は無く、rが活発な部分にクライマックスを置く。
	は m と s が支配している。	
No.3		r は終始変化しない。m も同じフレーズの繰り返しで変化が無い。しかし、強弱は頻繁
		に変化し、fとpが目まぐるしく入れ替わる。
		セクションが変化する際にリズム・パターンを変化させている。旋律はフレーズが分か
No.4		りにくい。セクションの終わりにアクセントを置いている。
\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \		第4曲目同様、セクションの終わりにアクセントを置いている。全曲を通して最も厚い
No.5		響きを持つ。垂直的な様式で書かれており、どの音楽的視点も活発である。